



産業ガスレポート

Vol. 27

2012年 秋号



一般社団法人

日本産業・医療ガス協会

産業ガスレポート vol.27 2012年 秋号

CONTENTS

平成24年度 定時総会 会長挨拶	1
産業ガス部門 新役員	4
産業ガス部門 評議員・顧問	5
産業ガス部門 組織表	6
常置部会・委員会・ワーキング(WG)名簿	7
産業ガス部門 事務局の新体制	18
平成24年度 定時総会	
平成24年度 JIMGA医療・産業ガス合同シンポジウム ..	19
定時総会	20
懇親会	21
平成23年度 事業報告	25
平成23年度 総会・部会・WG会議等開催記録	32
平成24年度 事業計画	41
会員の現状、今後の主要日程	46
エッセイ 同窓会とヒッグス粒子(岩崎 廣和)	47
技術・国際ニュース	49
地域本部の活動報告	
北海道地域本部	55
東北地域本部	59
関東地域本部	63
東海地域本部	69
北陸地域本部	76
近畿地域本部	79
中国地域本部	86
四国地域本部	91
九州地域本部	95
統計データ一覧	100
編集後記	113

会長挨拶

会長 豊田 昌洋



会員の皆様におかれましては、平素はJIMGAの活動にご指導ご支援賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、この一年を振り返りますと、東日本大震災をはじめ原発問題、タイの大洪水や台風など本当にさまざまな災害が起こりました。さらに昨年夏からは原発停止に伴う電力のひっ迫、東京電力の電気料金の値上げ問題も起こり、我々はこのような状況の中で団結しながら業界をしっかりと固めて行く必要があります。

そこで私は、JIMGAをもう一度原点に戻したいと思っています。私どもの定款第3条には協会の目的として「産業ガス事業及び医療ガス事業の生産、流通、利用、消費等の改善、合理化、技術の向上及び安全、保安の確保を図ると共に会員相互の親睦と研鑽に努め、もって産業・医療ガス事業の健全な発展を推進して、わが国経済の繁栄に寄与し、国民生活の健全な発展に寄与することを目的とする。」とあります。今まさにこの原点に戻って目的を実現するため、以前から挙げております産業・医療ガス部門共通の3つの課題を今後も継続して遂行して行きたいと思えます。

両部門共通の課題の第一は、コンプライア

スの徹底です。団体として集まり、話し合う時、何よりもコンプライアンスに一番注意をしなければなりません。第二に、広報活動の強化です。我々の製品の社会的な役割や安定供給確保の重要性を、記者会見、ホームページ等の広報活動を通じて伝えて行くことです。第三に、エネルギー・電力問題への対応です。私は会長として電力問題には優先的に取組んで参りました。

まず、昨年夏の電力ひっ迫問題へ対応を行いました。再生可能エネルギーの買取り問題については、特例を設けて頂き、減免を勝ち取りました。

東京電力の電気料金の値上げについては、大変高額で私どもはそのまま受け入れるわけにはいきません。我々は東京電力に対して「1kWの電力も生み出さない原発のコストは電気料金から引くべきである」という議論を展開し、交渉を続けて参りました。東京電力からは「家庭料金の認可料金において何らかの対応があれば考える」という回答を頂いています。最近ようやく新聞紙上でも私どもの主張と同意見の記事が出るようになり、3月の有識者会議でも「著しく稼働率の低い設備について原価から差し引かれるべき」という意見が出ています。このような状況から私どもの主張に沿って少しでも見直

されるだろうと期待を抱いていますが、7～8月に結論が出る予定の認可料金の内容を十分吟味したいと思います。

また、国際的に競争力のある電力料金制度を生み出すためにも、総括原価方式という経営の常識を逸した料金制度の見直しを、経済産業省並びに資源エネルギー庁へ今後も訴えて行きたいと思います。

今年の電力不足の問題については、5月に各社へお願いして電力関係の専門家を1名ずつご選任頂き、タスクフォースを作りました。先日2回目の会合で各社の状況を承り、概ねなんとかやって行けるとのことでしたが、一方では計画停電が実施された場合、プラントの性質上、生産が不可能になります。医療ガス部門から厚生労働省へ要請し、命に関わる製品なのでプラントを止めることは避けてもらいたい、計画停電の対象から外して欲しいと、再三にわたってお願いし、厚生労働省から資源エネルギー庁へ大変強力に交渉して頂いています。しかしながら資源エネルギー庁の姿勢はなかなか固く、大変難しい状況ですが、電力は高压ガスの命でもありますので、計画停電を避けて十分な運営ができるような方法を考えて行きたいと思っています。

産業ガス部門、医療ガス部門としては、それぞれ4つの課題を抱えています。産業ガス部門では第一に、保安の一層の強化・推進です。講習会やセミナーで自主基準等の啓蒙活動に努めます。第二に、所有者不明容器、放置容器撲滅の切り札としてRFタグの普及です。既に全国38ヶ所で14万本まで装着することができました。2015年までに310万本に装着したいと思っていますが、これから1社でも2社でもRFタグを採用して頂けるよう各地域本部の主要ディーラーを回ってお願いしたいと思っています。これは業界全体がその気になってまとめないと、

なかなかうまく行かないものですので、ぜひご協力頂きたいと思います。第三に、環境・安全部会を中心とした環境への取組みと電力問題への対応です。先ほど申し上げた電力問題については、腰を据えてしっかりと取組んで行きたいと思っています。第四に、国際整合化です。これますます重要なテーマであり、「国際部会」を中心に活発に取組みます。IOMAやISOでの活動、さらに産業のみならず医療ガスでの整合化についても取組んで参ります。

医療ガス部門につきましても4つの課題があります。第一に、事故対策です。このためには、従事する皆様方に医療におけるガスの知識を習得して頂く草の根講習会を今年度も18ヶ所で開催することにより、事故撲滅に努めます。第二に、MGR制度の拡充・充実です。昨年12月に第5回目の試験を終え、延べ3,000名弱のMGR認定者となりました。今年度も更新時講習の実施により、MGRの資質の向上に努めます。第三に、地域防災協定の締結です。災害が起きた時に医療ガスの提供が速やかに行われるように、協定を締結して訓練を行うもので、昨年の東日本大震災においても大変評価されています。震災後新たに7府県と締結して現在27都府県となり、年内には47都道府県との締結を終えたいと思っています。第四に、産業ガス部門と同じく国際整合化の対応です。厚生労働省は医薬品の査察基準の国際整合化のためにPIC/Sに加盟申請をしました。JIMGAとしては、国内の製造管理、品質管理の基準を法正化すべく厚生労働省に提案をした上で素案を作成した結果、昨年末に行政通知として発布されました。今年度は、この基準の円滑な運用に努めます。

以上、共通で3つ、産業ガス部門、医療ガス部門でそれぞれ4つの課題を申し上げましたが、これらの活動は現在約25の部会、委員会、

ワーキンググループで約300名の方々がそれぞれの会社から手弁当で参加して頂いています。皆様には心から御礼申し上げますと共に、今後も尚一層のご尽力ご支援賜りますよう心からお願いいたします。

私はこれら合計11の課題を実行するため、事務局へ3ヶ年計画を作るように指示をしました。私の信念は、仕事は愚直に進めることだと思っています。どんなことであれ、ひとつひとつ確実に目に見える形で進め、皆様方に進捗状

況をしっかりと実感して頂けるようにして参りたいと思います。しかし、いくら私が申し上げましても、本部の役員職員が頑張っても、皆様のご協力がなければ何もできません。ぜひ今後共、従来に勝るご支援ご鞭撻を賜りますことをお願いいたします。

最後になりましたが、本日までご出席の皆様方ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

産業ガス部門 新役員

(敬称略・順不同)

平成24年7月1日現在

理事

代表理事(会長)

豊田 昌洋

エア・ウォーター株式会社
代表取締役副会長

理事(副会長)

渡邊 秀生

日本液炭株式会社
代表取締役社長

理事(副会長)

松枝 寛祐

大陽日酸株式会社
代表取締役会長

理事(副会長)

鎚木 正

東京ガスケミカル株式会社
代表取締役社長

理事(副会長)

北代 耿士

日本エア・リキード株式会社
取締役会長

理事(副会長)

中井 喜三

株式会社リキッドガス
代表取締役社長

理事(副会長)

牧野 明次

岩谷産業株式会社
代表取締役会長 兼 CEO

専務理事

豊澤 幸平

一般社団法人
日本産業・医療ガス協会
事務局

理事(副会長)

小池 哲夫

小池酸素工業株式会社
代表取締役社長

監事

代表監事

岩崎 廣和

昭和電工株式会社
取締役化学品事業部門長

理事(副会長)

竹内 弘幸

高圧ガス工業株式会社
代表取締役社長

監事

藤井 恒嗣

東邦アセチレン株式会社
代表取締役社長

産業ガス部門 評議員・顧問

(敬称略・順不同)

平成24年7月1日現在

評議員

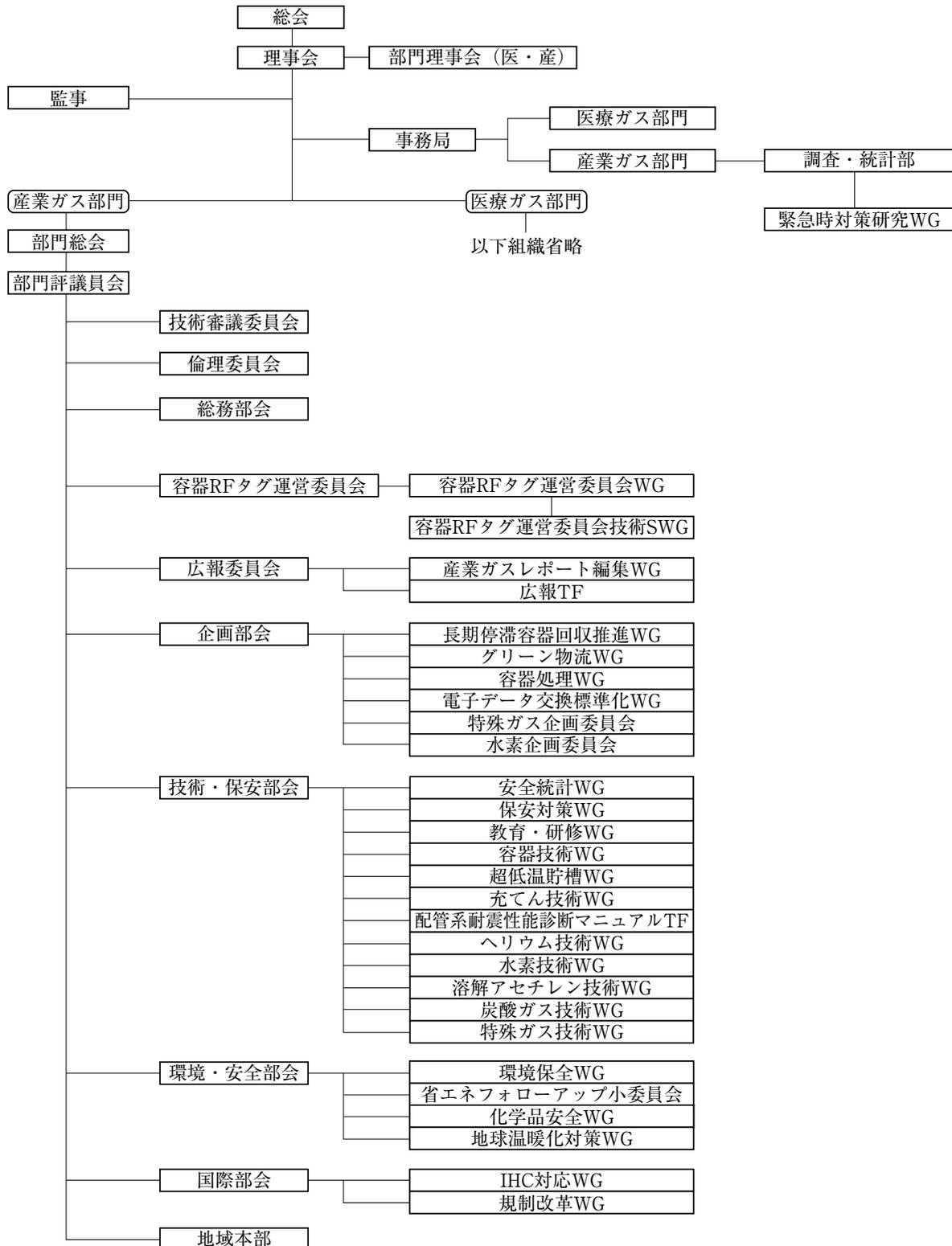
豊田 昌洋	エア・ウォーター(株) 代表取締役副会長
松枝 寛祐	大陽日酸(株) 代表取締役会長
北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
牧野 明次	岩谷産業(株) 代表取締役会長 兼 CEO
小池 哲夫	小池酸素工業(株) 代表取締役社長
竹内 弘幸	高圧ガス工業(株) 代表取締役社長
鏑木 正	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
中井 喜三	(株)リキッドガス 代表取締役社長
渡邊 秀生	日本液炭(株) 代表取締役社長
豊澤 幸平	日本産業・医療ガス協会 事務局
岩崎 廣和	昭和電工(株) 取締役化学品事業部門長
藤井 恒嗣	東邦アセチレン(株) 代表取締役社長
武笠 紀秀	昭和電工ガスプロダクツ(株) 代表取締役社長
松原 幸男	エア・ウォーター(株) 常務取締役産業カンパニー長
天田 茂	大陽日酸(株) 常務取締役 電子機材事業本部 副本部長
吉坂 和正	昭和電工(株) 化学品事業部門化学品事業部 管理グループマネージャー
鈴木 敬治	高千穂化学工業(株) 営業部 部長
柴田 芳久	サンテック(株) 代表取締役社長
橋本 章	イビデンケミカル(株) 代表取締役社長
財満 正憲	大陽日酸(株) 常務執行役員 ガス事業本部 副本部長
上羽 尚登	岩谷産業(株) 専務取締役 産業ガス・溶材本部長
仲 進	尼崎水素販売(株) 代表取締役社長
曾我部 康	エア・ウォーター(株) 取締役北海道支社長
山口美紀生	大陽日酸(株) 執行役員 東北支社長
久保田正夫	東邦アセチレン(株) 代表取締役専務執行役員
本島 章夫	岩谷産業(株) 首都圏支社長
佐波 充	相模アセチレン(株) 代表取締役
坂本 雅博	大陽日酸(株) 執行役員 中部支社長
飯田 哲郎	名古屋酸素(株) 代表取締役社長
小倉 善興	宇野酸素(株) 取締役会長
難波 太郎	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガズ社 常務執行役員 関西地域本部長
植田 秀樹	京都帝酸(株) 専務取締役
永江 裕	大陽日酸(株) 執行役員 中四国支社長
藤井 基博	藤井商事(株) 代表取締役会長
野村 茂	土佐酸素(株) 代表取締役社長
大橋 正明	四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
上原 正弘	大陽日酸(株) 理事 九州支社長
田中 良典	エア・ウォーター(株) 執行役員 九州支社長

顧問

青木 弘	エア・ウォーター(株) 代表取締役会長・CEO
於勢好之輔	大陽日酸(株) 相談役
田口 博	大陽日酸(株) 取締役相談役

産業ガス部門 組織表

平成24年7月1日現在



常置部会・委員会・ワーキング（WG）名簿（敬称略・順不同）

平成24年7月1日現在

総務部会

部会長	松枝 寛祐	大陽日酸(株) 代表取締役会長
副部会長	市原裕史郎	大陽日酸(株) 専務取締役管理本部長
副部会長	波多野和彦	エア・ウォーター(株) 執行役員 事業企画部長
委員	石田 保夫	高圧ガス工業(株) 常務取締役 ガス事業本部 営業管理部長 兼 資材部長
委員	牧瀬 雅美	岩谷産業(株) 常務取締役 産業ガス・溶材本部 副本部長
委員	山本 幸夫	(株)リキッドガス 常務取締役総務本部長
委員	小西 国温	東邦アセチレン(株) 常務取締役常務執行役員管理本部長
委員	西間木邦夫	昭和電工(株) 化学品事業部門管理グループ長
委員	樋口 俊久	小池酸素工業(株) 内部監査室長
委員	安井 誠一	東京ガスケミカル(株) 専務取締役
委員	秋葉 和男	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガズ社 常務執行役員 戦略企画本部長
委員	宮本 高	昭和電工ガスプロダクツ(株) 管理本部 総務部長

調査・統計部緊急時対策研究WG

WG長	荒谷 幸治	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 エアガス部(東京)課長
副WG長	葛上 真一	カンサン流通(株) 業務部長
副WG長	須賀 啓太	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガズ社 工業事業本部 バルクガス事業部 エア・ガス部 主事
委員	日野 淳	大陽日酸(株) 業務本部 ロジスティクス統括部 物流計画部 バルクガス計画課 副参事
委員	田結 荘嘉男	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 エアガス部
委員	奥田 尚希	小池酸素工業(株) ガス部 係長
委員	青山 定美	昭和電工(株) 化学品事業部門 化学品事業部 ガス・化成品部
委員	三好 英二	大陽日酸東関東(株) 土浦営業所長
委員	東川 達也	東京ガスケミカル販売(株) 業務部 需給グループ 需給管理センター所長

広報委員会

委員長	中井 喜三	(株)リキッドガス 代表取締役社長
副委員長	山本 幸夫	(株)リキッドガス 常務取締役総務本部長
副委員長	石川 紀一	大陽日酸(株) 執行役員 管理本部 経営企画部長 兼 広報部長
副委員長	岸 貞行	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 広報・IR室長
委員	豊山 俊	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガズ社 広報部長
委員	牧瀬 雅美	岩谷産業(株) 常務取締役 産業ガス・溶材本部 副本部長
委員	柴田 雅仁	(株)トリケミカル研究所 取締役営業本部長
委員	富山 佳昭	東京ガスケミカル(株) 取締役企画部長
委員	長岡 史明	高圧ガス工業(株) 執行役員 管理本部 副本部長 兼 総務部長
委員	厚沢不二夫	小池酸素工業(株) ガス部 営業課長
委員	小島 厚	日本液炭(株) 管理本部 総務・人事部長
委員	中島 安博	昭和電工ガスプロダクツ(株) 経営企画部

広報委員会産業ガスレポート編集WG

WG長	石川 紀一	大陽日酸(株) 執行役員 管理本部 経営企画部長 兼 広報部長
-----	-------	---------------------------------

委員	岸 貞行	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 広報・IR室長
委員	野田 優子	エア・ウォーター(株) 広報・IR室係長
委員	豊山 俊	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 広報部長
委員	鎌田 暁子	大陽日酸(株) 管理本部 広報部 広報課 副参事
委員	小島 厚	日本液炭(株) 管理本部 総務・人事部長
委員	柴田 雅仁	(株)トリケミカル研究所 取締役営業本部長
委員	大岡 光寿	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 エアガス部 担当部長
委員	永田 敦子	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 広報部 課長
委員	中島 安博	昭和電工ガスプロダクツ(株) 経営企画部

広報委員会広報タスクフォース

委員	大岡 光寿	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 エアガス部 担当部長
委員	鎌田 暁子	大陽日酸(株) 管理本部 広報部 広報課 副参事
委員	野田 優子	エア・ウォーター(株) 広報・IR室係長
委員	永田 敦子	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 広報部 課長

容器RFタグ運営委員会

委員長	上羽 尚登	岩谷産業(株) 専務取締役 産業ガス・溶材本部長
副委員長	黒木 幹也	高圧ガス工業(株) 取締役東京事務所長 関東地区長
WG長	横谷 和貴	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 特殊ガス部 担当部長
委員	柳田 裕久	大陽日酸(株) 執行役員 ガス事業本部 パッケージガス事業部長
委員	河原 英昭	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部 工業ガス物流部長
委員	網中 聡一	エア・リキード工業ガス(株) 安全・技術監査部長
委員	厚沢不二夫	小池酸素工業(株) ガス部 営業課長
委員	永野 訓司	高圧ガス工業(株) 理事 情報システム事業本部 システム営業部 部長
委員	塚本 健	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部 係長
委員	松田 保秀	日本液炭(株) 管理本部 情報システム部 部長代理
委員	川井 幸輔	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 企画業務部 課長代理
委員	藤川 宝夫	(株)同栄 代表取締役社長
委員	平尾浩二郎	大陽日酸(株) メディカル事業本部 バイオ・メディカル事業部 技術部 品質保証課長
委員	及川 哲	エア・ウォーター(株) システム部長
委員	沼田 博美	大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 統括部長附
委員	壺内 俊宏	大陽日酸(株) 技術本部 品質保証統括部長
委員	森脇 保志	大陽日酸(株) 電子機材事業本部 半導体ガス事業部 特殊ガス技術部 設備技術課長
委員	白井 清司	エア・ウォーター(株) 執行役員 産業カンパニー産業機材事業部長
委員	伊藤知佳子	全国高圧ガス容器検査協会理事 (株)伊藤高圧瓦斯容器製造所・代表取締役社長)
委員	中 武司	日本液炭(株) 営業本部 炭酸ガス営業部 部長
技術担当委員	坂東 竹夫	岩谷情報システム(株) 常務取締役
技術担当委員	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 事業本部 基盤ソリューション事業部 事業部長

容器RFタグ運営委員会WG

委員長	横谷 和貴	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 特殊ガス部 担当部長
委員	柳田 裕久	大陽日酸(株) 執行役員 ガス事業本部 パッケージガス事業部長
委員	河原 英昭	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部 工業ガス物流部長
委員	網中 聡一	エア・リキード工業ガス(株) 安全・技術監査部長
委員	長谷川正泰	小池酸素工業(株) ガス部 生産・技術グループ 課長
委員	永野 訓司	高圧ガス工業(株) 理事 情報システム事業本部 システム営業部 部長

委員	塚本 健	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部 係長
委員	川井 幸輔	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 企画業務部 課長代理
委員	藤川 宝夫	(株)同栄 代表取締役社長
委員	平尾浩二郎	大陽日酸(株) メディカル事業本部 バイオ・メディカル事業部 技術部 品質保証課長
委員	及川 哲	エア・ウォーター(株) システム部長
委員	沼田 博美	大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 統括部長附
委員	壺内 俊宏	大陽日酸(株) 技術本部 品質保証統括部長
委員	森脇 保志	大陽日酸(株) 電子機材事業本部 半導体ガス事業部 特殊ガス技術部 設備技術課長
委員	白井 清司	エア・ウォーター(株) 執行役員 産業カンパニー産業機材事業部長
委員	伊藤知佳子	全国高圧ガス容器検査協会理事 (株)伊藤高圧瓦斯容器製造所・代表取締役社長)
委員	坂東 竹夫	岩谷情報システム(株) 常務取締役
委員	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 事業本部 基盤ソリューション事業部 事業部長
委員	上林 亮司	高圧ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 技術課 主任

容器RFタグ運営委員会技術サブWG

SWG長	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 事業本部 基盤ソリューション事業部 事業部長
委員	塚本 健	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部 係長
委員	沼田 博美	大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 統括部長附
委員	坂東 竹夫	岩谷情報システム(株) 常務取締役
委員	上林 亮司	高圧ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 技術課 主任
委員	熊石 貴弘	エア・ウォーター・ソフテック(株) 事業開発部 主任

企画部会

部会長	小池 哲夫	小池酸素工業(株) 代表取締役社長
副部会長	秋葉 和男	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガズ社 常務執行役員 戦略企画本部長
副部会長	上羽 尚登	岩谷産業(株) 専務取締役 産業ガス・溶材本部長
委員	松原 幸男	エア・ウォーター(株) 常務取締役産業カンパニー長
委員	久保 直樹	小池酸素工業(株) 取締役ガス部長
委員	盛野 康雄	昭和電工ガスプロダクツ(株) 業務部長
委員	黒木 幹也	高圧ガス工業(株) 取締役東京事務所長 関東地区長
委員	賢持 善英	大陽日酸(株) 常務執行役員 ガス事業業務本部 副本部長
委員	吉坂 和正	昭和電工(株) 化学品事業部門 管理グループ企画・ 業務チームマネージャー
委員	田中 徹也	(株)リキッドガス 常務取締役企画本部長
委員	高野 義文	東京ガスケミカル(株) 理事 産業ガス事業企画部長
委員	矢部 忠夫	東邦アセチレン(株) 執行役員 経営統括室長

企画部会特殊ガス企画委員会

委員長	吉坂 和正	昭和電工(株) 化学品事業部門 化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームマネージャー
副委員長	天田 茂	大陽日酸(株) 常務取締役 電子機材事業本部 副本部長
副委員長	鈴木 敬治	高千穂化学工業(株) 本社営業部 部長
代表者	世良田博史	(株)A D E K A 取締役 兼 常務執行役員 化学品営業本部長
代表者	本多 竜二	宇部興産(株) 機能品・ファインカンパニー高純度化学薬品 ビジネスユニット長
代表者	阿部 友紀	関東電化工業(株) 営業本部 精密化学品第2部長
代表者	石関 貞男	ジャパンファインプロダクツ(株) 常務取締役

代表者	三坂 陽一	セントラル硝子(株) ファインケミカル営業第二部長
代表者	三谷 啓二	ダイキン工業(株) 化学事業部営業部 半導体営業担当部長
代表者	北岸 正樹	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 営業本部 本部長
代表者	原田 勝可	東亜合成(株) 先端化学品事業部 シニアエキスパート
代表者	木曾 幸一	(株)トリケミカル研究所 常勤監査役
代表者	和田 光浩	三井化学(株) 精密化学品事業部 特殊ガスグループリーダー

企画部会水素企画委員会

委員長	松原 幸男	エア・ウォーター(株) 常務取締役産業カンパニー長
副委員長	財満 正憲	大陽日酸(株) 常務執行役員 ガス事業本部 副本部長
副委員長	岩崎 廣和	昭和電工(株) 取締役化学品事業部門長
副委員長	上羽 尚登	岩谷産業(株) 専務取締役 産業ガス・溶材本部長
幹事	仲 進	尼崎水素販売(株) 代表取締役社長
代表者	菊原 誠	新潟水素(株) 代表取締役社長
代表者	守屋 憲二	伊藤忠工業ガス(株) 代表取締役社長
代表者	岡田 信久	岩谷瓦斯(株) 専務取締役ガス事業部長
代表者	塩見 由男	エア・ウォーター・ハイドロ(株) 代表取締役社長
代表者	見越 和宏	新日鐵化学(株) 代表取締役副社長
代表者	鈴木 慶彦	(株)鈴木商館 代表取締役社長
代表者	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
代表者	上田 義人	東曹ダイスイ(株) 取締役四日市工場長
代表者	斎藤 絃次	東邦アセチレン(株) 常務取締役 執行役員 生産・技術本部長
代表者	藤内 治敏	福岡酸素(株) 代表取締役常務営業統括
代表者	板倉 久郎	北酸高压瓦斯(株) 代表取締役社長
代表者	尾川 知	丸由工材(株) 常務取締役
代表者	小川 庄八	(株)渡商会 常務取締役営業本部長

企画部会長期停滞容器回収推進WG

WG長	柳田 裕久	大陽日酸(株) 執行役員 ガス事業本部 パッケージガス事業部長
委員	久保 直樹	小池酸素工業(株) 取締役ガス部長
委員	小林 誠一	日本液炭(株) 専務取締役営業本部長
委員	田中 豪	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 エアガス部(東京)部長
委員	椎名浩太郎	エア・リキード工業ガス(株) 事業推進本部長
委員	杉山 浩	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 企画業務部長
委員	黒木 幹也	高压ガス工業(株) 取締役東京事務所長 関東地区長

企画部会グリーン物流WG

WG長	網倉 吉彦	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガシズ社 工業事業本部 バルクガス事業部 配送計画部長
委員	野村三千昭	大陽日酸(株) 業務本部 ロジスティクス統括部 物流計画部長
委員	盛野 康雄	昭和電工ガスプロダクツ(株) 業務部長
委員	杉山 浩	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 企画業務部長
委員	奥島 堅治	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 エアガス部(物流)担当部長
委員	佐藤 通晴	エア・ウォーター炭酸(株) 営業企画グループ 次長
委員	中内 寛文	日本液炭(株) 業務・生産本部 企画業務部長

企画部会容器処理WG

副部長	秋葉 和男	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガシズ社 常務執行役員 戦略企画本部長
WG長	久保 直樹	小池酸素工業(株) 取締役ガス部長
委員	山内 二郎	全国高压ガス溶材組合連合会保安委員長 (山内酸器(株)・代表取締役社長)
委員	酒井 忠男	全国高压ガス溶材組合連合会事務局長

委員	脇坂 丈樹	(株)鈴木商館 営業統括室 総合営業部 部長
委員	伊藤知佳子	全国高圧ガス容器検査協会 理事 (株)伊藤高圧瓦斯容器製造所・代表取締役社長)
委員	滝沢 史朗	(株)関東高圧容器製作所 技術部 部長
委員	田中 豪	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 エアガス部 (東京)部長
委員	柳田 裕久	大陽日酸(株) 執行役員 ガス事業本部 パッケージガス事業部長

企画部会電子データ交換標準化WG

WG長	沼田 博美	大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 統括部長附
委員	斉田 修実	大陽日酸(株) 管理本部 情報システム部 システム課長
委員	松永 覚	エア・リキード工業ガス(株) 財務経理部長
委員	秋宗 隆司	岩谷産業(株) 業務部 情報企画担当 担当部長
委員	及川 哲	エア・ウォーター(株) システム部長
委員	竹村 忠	高圧ガス工業(株) 理事 電算室 室長
委員	佐藤 輝彦	小池酸素工業(株) 情報システムグループ 課長
委員	有岡 俊治	(株)巴商会 環境安全部 情報管理室 室長
委員	中住 隆也	(株)鈴木商館 統合営業部 ガスチームチーフ
委員	鈴木 敬治	高千穂商事(株) 本社営業部 部長

技術審議委員会

委員長	北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
副委員長	林谷 英司	日本エア・リキード(株) 取締役
委員	牧野 明次	岩谷産業(株) 代表取締役会長 兼 CEO
委員	鏑木 正	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
委員	生地 寛行	岩谷産業(株) 取締役 産業ガス・溶材本部 副本部長
委員	勝又 宏	大陽日酸(株) 常務取締役 技術本部長
委員	高橋 俊一	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 海外企画部長 兼 産業カンパニー海外事業部長
委員	阪田 和之	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガズ社 上席常務執行役員 ラージインダストリー事業本部長

技術・保安部会

部会長	北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
副部会長	林谷 英司	日本エア・リキード(株) 取締役
副部会長	生地 寛行	岩谷産業(株) 取締役 産業ガス・溶材本部 副本部長
副部会長	勝又 宏	大陽日酸(株) 常務取締役 技術本部長
容器技術WG長	保坂 昭一	大陽日酸(株) 技術本部 技術管理部長
超低温貯槽WG長	濱口 和夫	エーテック(株) 生産本部 技術部 部長(技術第3グループ)
充填技術WG長	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー
保安対策WG長	美澤 秀敏	岩谷産業(株) 執行役員 施設工務部長 兼 環境保安部 部長
教育・研修WG長	塚本 元	(株)リキッドガス 企画本部 企画部長
安全統計WG長	加藤 保宣	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 技術管理部長 兼 保安推進部長
ヘリウム技術WG長	森 靖朗	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 ガス技術・開発室 ガス開発部 部長
特殊ガス技術WG長	野村 政幸	ジャパンファインプロダクツ(株) 安全推進部長
水素技術WG長	出村 憲二	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 供給技術部長
炭酸ガス技術WG長	越部 薫	日本液炭(株) 技術顧問
溶解アセチレン技術WG長	野村 眞澄	高圧ガス工業(株) 代表取締役会長

技術・保安部会容器技術WG

WG長	保坂 昭一	大陽日酸(株) 技術本部 技術管理部長
委員	日下 裕之	岩谷産業(株) 理事 産業ガス・溶材本部 電力・ガスプラント部長
委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 近畿事業所 姫路工場長
委員	豊田 隆弘	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 製造・エンジニアリング本部 本部長 兼 つくば特殊化学品センター センター長
委員	川村 信之	日本高压ガス容器バルブ工業会事務局
委員	有岡 俊治	(株)巴商会 環境安全部 情報管理室 室長
委員	網中 聡一	エア・リキード工業ガス(株) 安全・技術監査部長
委員	草野 宏	高压ガス保安協会 機器検査事業部 検査企画課

技術・保安部会超低温貯槽WG

WG長	濱口 和夫	エーテック(株) 生産本部 技術部 部長(技術第3グループ)
委員	平山 晃生	大陽日酸(株) オンサイト・プラント事業本部 プラント事業部 プラント・エンジニアリングセンター設計部 プラント設計課 第二チームリーダー
委員	細谷 公憲	エア・ウォーター・プラントエンジニアリング(株) プロジェクト事業部 プロジェクト部 係長
委員	中村 康弘	超低温機器協会事務局

技術・保安部会充てん技術WG

WG長	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー
委員	福田 浩二	岩谷瓦斯(株) 環境保安部
委員	小川 光博	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 供給技術部 パッケージガス技術課長
委員	中市 寛彦	東邦アセチレン(株) 生産技術部長
委員	吉田 智徳	相模アセチレン(株) 製造部 課長
委員	加納 郁久	大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
委員	板倉 久郎	北酸高压瓦斯(株) 代表取締役社長
委員	谷屋 五郎	宇野酸素(株) 取締役副社長
委員	伊藤 芳宣	知多高压ガス(株) 総括顧問
委員	笠井 勇人	中部エア・ウォーター(株) 技術グループ長
委員	三宅 新一	大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員	立花 靖司	土佐酸素(株) 常務取締役 製造・技術統括部長
委員	古賀 義道	福岡酸素(株) 取締役 ガスエンジニアリング部 部長
委員	農頭 重喜	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガズ社 産業監査部長

技術・保安部会保安対策WG

WG長	美澤 秀敏	岩谷産業(株) 執行役員 施設工務部長 兼 環境保安部 部長
委員	矢内 敏彦	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガズ社 リスクマネジメント&技術監査本部 安全・環境管理部長
委員	久和野敏明	大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 保安管理部 保安管理課長
委員	大沼 倫晃	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 課長
委員	及川 行夫	上毛天然瓦斯工業(株) 取締役技術本部長

技術・保安部会教育・研修WG

WG長	塚本 元	(株)リキッドガス 企画本部 企画部長
委員	片村 浩一	昭和電工(株) 化学品事業部 管理グループ部長
委員	大沼 倫晃	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 課長
委員	藤岡 隆司	高压ガス工業(株) 取締役技術本部 副本部長
委員	上島 光雄	大陽日酸(株) 技術本部 技術管理部 技術教育課長
委員	園田 竜	岩谷産業(株) 環境保安部 課長代理
委員	早坂 裕	東邦アセチレン(株) 技術部 生産技術グループ 課長

技術・保安部会配管系耐震性能診断マニュアルタスクフォース

委員	中平 岩夫	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 リスクマネジメント&技術監査本部 インダストリアル・リスクマネジメント部長
委員	浅野 道	大陽日酸(株) オンサイト・プラント事業本部 プラント事業部 プラント・エンジニアリングセンター設計部 副部長
委員	裏久保嘉昭	エア・ウォーター・プラントエンジニアリング(株) エンジニアリング事業部 空気分離装置部 主査
委員	福島 正之	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 ガス技術・開発室 担当課長
アドバイザー	池田 雅俊	(株)プラント耐震設計システムズ 代表取締役社長

技術・保安部会安全統計WG

WG長	加藤 保宣	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 技術管理部長 兼 保安推進部長
委員	山田 正仁	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 リスクマネジメント&技術監査本部 保安技術監査部 保安技術グループ 主事
委員	田中 純一	大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 保安管理部 保安管理課 副参事
委員	高橋 信行	東京炭酸(株) 製造部長 兼 品質保証室長
委員	赤塚 広隆	高圧ガス保安協会 情報調査部 審議役

技術・保安部会ヘリウム技術WG

WG長	森 靖朗	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 ガス技術・開発室 ガス開発部 部長
副WG長	浦谷 明弘	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部長
副WG長	金田 昌人	昭和電工(株) 化学品事業部門管理グループマネージャー
委員	渡辺 道夫	(株)ジャパンヘリウムセンター 品質管理担当部長 兼 技術部長
委員	有岡 俊治	(株)巴商会 環境安全部 情報管理室 室長
委員	農頭 重喜	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 産業監査部長
委員	小林 篤	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング 統括部 供給技術部 バルクガス技術課長
委員	小室 旭	(株)鈴木商館 営業本部 低温機器部 技術主幹
委員	大川 邦生	日本ヘリウム(株) 営業部部長
委員	進藤 忠則	東京ガスケミカル(株) オンサイトガス部長

技術・保安部会溶解アセチレン技術WG

WG長	野村 眞澄	高圧ガス工業(株) 代表取締役会長
副WG長	斎藤 絃次	東邦アセチレン(株) 常務取締役
委員	真藤 英明	関東アセチレン工業(株) 取締役工場長
委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 近畿事業所 姫路工場長
委員	中村 稔	サーンテック(株) 取締役技術本部長
委員	澤田 秀則	神奈川合同アセチレン(株) 常務取締役工場長
委員	内田 徹	川口総合ガスセンター(株) 代表取締役社長
委員	堂元 美樹	小池酸素工業(株) 工場長
委員	鋤柄 喜彦	大日本アガ(株) 代表取締役
委員	中西 清三	東海アセチレン(株) 代表取締役社長

技術・保安部会炭酸ガス技術WG

WG長	越部 薫	日本液炭(株) 技術顧問
副WG長	菊池 義明	エア・ウォーター炭酸(株) 取締役品質保証室長 兼 技術部長 兼 生産技術グループリーダー
副WG長	澤田 昇	昭和電工ガスプロダクツ(株) 取締役執行役員 産業機材事業部 技術管掌
委員	及川 行夫	上毛天然瓦斯工業(株) 取締役技術本部長
委員	日下 裕之	岩谷産業(株) 理事 産業ガス・溶材本部 電力・ガスプラント部長

委員	塚本 元	近畿液炭(株) 技術課長
委員	高橋 信行	東京炭酸(株) 製造部長
委員	渡邊 一範	知多炭酸(株) 取締役工場長
委員	佐々木 秀登	イワタニカーボニックス(株) 本社製造技術・安全部長
委員	加藤 茂	宇部興産(株) 工薬製造グループリーダー
委員	嘉陽 宗治	(株)おきさん 生産部長
委員	森田 寿一	共同炭酸(株) 製造課長
委員	杉岡 孝雄	高圧ガス工業(株) 神奈川工場長
委員	宮田 理平	国際炭酸(株) 代表取締役専務
委員	志賀 清	新日鐵化学(株) 君津ガス統括センター長
委員	松葉 昇	大洋化学工業(株) 工場長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
委員	鯨井 寛司	東京ガスケミカル(株) 環境技術部長
委員	中川 明浩	日産化学工業(株) 富山工場 製造一課長
委員	前原 郁美	福岡酸素(株) 品質管理部 次長
委員	小川 悦郎	(株)リキッドガス 営業本部 営業技術部長

技術・保安部会特殊ガス技術WG

WG長	野村 政幸	ジャパンファインプロダクツ(株) 安全推進部長
副WG長	豊田 隆弘	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 製造・エンジニアリング本部 本部長 兼 つくば特殊化学品センター センター長
半材ガスチーム長		
委員	平井 学	(株)A D E K A 鹿島工場 化学品製造部 化学品製造二課 係長
委員	薬師神啓孝	宇部興産(株) 機能品・ファインカンパニー高純度化学薬品ビジネスユニット
委員	米村 泰輔	関東電化工業(株) 技術本部 生産技術部 専任課長
委員	金田 昌人	昭和電工(株) 化学品事業部門 化学品事業部管理グループマネージャー
委員	三澤 一朗	住友精化(株) ファインガスシステム研究所 担当部長
標準ガスチーム長	真子恵一郎	住友精化(株) 品質保証室 千葉品質保証課 品質管理グループリーダー
委員	五十嵐 淳也	セントラル硝子(株) ファインケミカル営業第二部 係長
委員	今西 博之	ダイキン工業(株) 化学事業部 EHS部 安全担当部長 兼 グローバル安全担当
委員	市川 明宏	大陽日酸(株) 電子機材事業本部 半導体ガス事業部 特殊ガス技術部長
委員	森脇 保志	大陽日酸(株) 電子機材事業本部 半導体ガス事業部 特殊ガス技術部設備技術課長
委員	渡辺 勇夫	高千穂化学工業(株) 町田事業所 計測ガス工場 品質管理課 課長代理
委員	原田 勝可	東亜合成(株) 先端化学品事業部 シニアエキスパート
委員	木曾 幸一	(株)トリケミカル研究所 常勤監査役
委員	福岡 崇行	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガズ社 エレクトロニクス事業本部 安全・品質管理部環境グループ長
委員	三本 敦久	三井化学(株) 機能化学品事業本部 精密化学品事業部 特殊ガスグループ品質・技術サービスチーム
委員	上原 伸二	化学物質評価研究機構 東京事業所 化学標準部 技術第一課長

技術・保安部会水素技術WG

WG長	出村 憲二	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 供給技術部長
WG事務局	小川 光博	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 供給技術部 パッケージガス技術課長
WG副事務局	井原 理博	岩谷瓦斯(株) 技術部 品質保証担当 マネージャー
WG副事務局	内藤 章文	昭和電工(株) 化学品事業部門 化学品開発部 アシスタント・マネージャー
委員	杉原 一誌	尼崎水素販売(株) 所長
委員	生原 一樹	伊藤忠工業ガス(株) 技術保安部 西日本品質管理課 課長

委員	松岡 美治	岩谷産業(株) 水素エネルギー部 担当部長
委員	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー
委員	時田 豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株) 生産技術部 部長
委員	丸山 利和	新日鐵化学(株) 広畑製造所 技術グループ グループリーダー
委員	柏山 幸一	(株)鈴木商館 顧問
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役 技術統括部長
委員	島田 寿郎	東京ガスケミカル(株) オンサイトガス部 操業管理グループ 兼 技術グループマネージャー
委員	上田 義人	東曹ダイスイ(株) 取締役四日市工場長
委員	山田 章司	東邦アセチレン(株) 理事 環境保安部 部長
委員	有岡 俊治	新潟水素(株) 部長
委員	平瀬 育生	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガシズ社 工業事業本部 水素ガス事業部 事業推進部長
委員	小林 隆	福岡酸素(株) 代表取締役 常務管理統轄
委員	板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長
委員	尾川 知	丸由工材(株) 常務取締役
委員	安久井 満	(株)渡商会 保安管理部 部長

環境・安全部会

部会長	鍋木 正	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
副部会長	勝又 宏	太陽日酸(株) 常務取締役 技術本部長
副部会長	坂本 公昭	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 産業カンパニー 産業ガス関連事業部長
副部会長	岩隈 秀峰	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガシズ社 上席常務執行役員 工業事業本部長
副部会長	安藤 憲雄	岩谷産業(株) 執行役員 環境保安部長

環境・安全部会環境保全WG

WG長	佐藤 浩治	太陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 環境管理部長
委員	細川 純一	太陽日酸東関東(株) 水戸製造所長付
委員	上本 忠雄	岩谷瓦斯(株) 環境保安部
委員	菊池 義明	エア・ウォーター炭酸(株) 取締役 品質保証室長 兼 技術部長 兼 生産グループリーダー
委員	内藤 章文	昭和電工(株) 化学品事業部門 化学品開発部 アシスタントマネージャー
委員	島田 和彦	日本ヘリウム(株) 横浜工場 工場長
委員	石垣 克浩	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガシズ社 ラージインダストリー事業本部 エネルギー管理部長
委員	富山 佳昭	東京ガスケミカル(株) 取締役企画部長
委員	武内 幸祐	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 環境推進部 課長
委員	三本 敦久	三井化学(株) 機能化学品事業本部 精密化学品事業部 特殊ガスグループ 品質・技術サービスチーム

環境・安全部会省エネフォローアップ小委員会

リーダー	小長谷 義明	太陽日酸(株) オンサイト・プラント事業本部 ガス生産技術部
委員	山根 広幸	日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガシズ社 ラージインダストリー事業本部 製造部 電気・エネルギーグループ 担当部長
委員	宮川 卓男	エア・ウォーター(株) 産業カンパニーオンサイト事業部 生産技術部 課長
委員	森山 秀樹	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 ガス技術・開発室 担当部長

環境・安全部会化学品安全WG

WG長	平野 正	東京ガスケミカル(株) 品質保証部長
委員	桑野 晃一	岩谷産業(株) 産業ガス・溶材本部 ガス技術・開発室 担当部長

委員	武内 幸祐	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 環境推進部 課長
委員	磯部 佳伸	昭和電工(株) 化学品事業部門 産業ガス事業部 産業ガスグループ 技術マネージャー
委員	土屋 茂	大陽日酸(株) 技術本部 品質保証統括部 品質管理部 品質管理課長
委員	進藤 高章	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 リスクマネジメント&技術監査本部 品質マネジメント部 品質保証第一グループ長
委員	渡辺 勇夫	高千穂化学工業(株) 町田事業所 計測ガス工場 品質管理課
委員	真子 恵一郎	住友精化(株) 品質保証室 千葉品質保証課 品質管理グループ グループリーダー
委員	渡邊 一範	知多炭酸(株) 取締役工場長

環境・安全部会地球温暖化対策WG

WG長	勝又 宏	大陽日酸(株) 常務取締役技術本部長
委員	甲斐 守	大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 環境管理部 環境管理課長
委員	網倉 吉彦	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 工業事業本部 バルクガス事業部 配送計画部長
委員	菊池 義明	エア・ウォーター炭酸(株) 取締役 品質保証室長 兼 技術部長 兼 生産グループリーダー
委員	佐藤 浩治	大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 環境管理部長
委員	細川 純一	大陽日酸関東(株) 水戸製造所長付
委員	上本 忠雄	岩谷瓦斯(株) 環境保安部
委員	内藤 章文	昭和電工(株) 化学品事業部門 化学品開発部 アシスタントマネージャー
委員	島田 和彦	日本ヘリウム(株) 横浜工場 工場長
委員	石垣 克浩	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 ラージインダストリー事業本部 エネルギー管理部長
委員	富山 佳昭	東京ガスケミカル(株) 取締役企画部長
委員	武内 幸祐	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 環境推進部 課長
委員	三本 敦久	三井化学(株) 機能化学品事業本部 精密化学品事業部 特殊ガスグループ 品質・技術サービスチーム

国際部会

部会長	牧野 明次	岩谷産業(株) 代表取締役会長 兼 CEO
副部会長	高橋 俊一	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 海外企画部長 兼 産業カンパニー海外事業部長
副部会長	阪田 和之	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 上席常務執行役員 ラージインダストリー事業本部長
委員	田中 雅郎	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 ラージインダストリー 事業本部製造部 特別プロジェクトマネージャー
委員	仲山 一郎	大陽日酸(株) 技術本部 技術標準化推進部長

国際部会IHC対応WG

副部会長	高橋 俊一	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 海外企画部長 兼 産業カンパニー海外事業部長
副部会長	阪田 和之	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 上席常務執行役員 ラージインダストリー事業本部長
WG長	仲山 一郎	大陽日酸(株) 技術本部 技術標準化推進部長
委員	太宅 文昭	岩谷産業(株) 常務執行役員 産業ガス・溶材本部 副本部長
委員	宮崎 淳	岩谷産業(株) 常務執行役員 技術部長 兼 水素エネルギー部長
委員	新垣 重雄	エア・ウォーター(株) 海外企画部 担当部長
委員	小黒 孝	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 営業統括本部 海外事業部 海外営業部長
委員	鯨井 寛司	東京ガスケミカル(株) 環境技術部長
委員	小泉 正男	(株)ハマイ 顧問
委員	田中 徹也	(株)リキッドガス 常務取締役 企画本部長
委員	越部 薫	日本液炭(株) 技術顧問

国際部会規制改革WG

副会長	高橋 俊一	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 海外企画部長 兼 産業カンパニー海外事業部長
WG長	田中 雅郎	日本エア・リキード(株) ジャパン・エア・ガシズ社 ラージインダストリー事業本部 製造部 特別プロジェクトマネージャー
委員	池富士芳雄	岩谷瓦斯(株) 環境保安部長
委員	菅谷 英仁	岩谷産業(株) 環境保安部 担当部長
委員	加藤 保宣	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 技術管理部長 兼 保安推進部長
委員	井口 充弘	高圧ガス保安協会 高圧ガス部
委員	有岡 俊治	(株)巴商会 環境安全部 情報管理室 室長
委員	久保田裕士	大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 保安管理部長
委員	澤田 昇	昭和電工ガスプロダクツ(株) 取締役執行役員 産業機材部 技術管掌
委員	菊地 敏明	高千穂商事(株) 貿易課課長

注)平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

かいけつ・びんびんまる

“怪傑・瓶々丸”[®] シリーズ

Ver 8.0 シリーズ
新登場
(RFタグ対応版)

資料請求・訪問デモ
お申し込み随時受付中！

アシスト・ワン ホームページ
<http://assist1.co.jp>

おかげさまで容器管理システム納入実績NO.1
パソコン1台から大規模環境までご要望にあわせたご提案をさせていただきます

《トータル型管理システム》
“怪傑・瓶々丸”
Nシステム・N-Liteシステム

《オールインワン簡易管理システム》
“怪傑・楽々瓶”
簡易容器管理 簡易販売管理

《小型容器管理システム》
“怪傑・簡単瓶”
Jシステム (自社導入型)
Uシステム (最終消費先活用型)

PICK UP SYSTEM
保安管理 法令順守の保安管理システム発売中

- ▶ 周知書
毎年発行の周知・受領書の印刷により、周知業務の改善
- ▶ 保安台帳
周知記録・MSDS記録・点検記録を保安台帳に反映
- ▶ ガス貯蔵量チェック
最終消費先 及び 自社の貯蔵量チェック、貯蔵量違反防止
- ▶ 点検記録
各種点検の記録 (社内・始業・充電設備・最終消費先 等)

PICK UP SYSTEM
RFタグ対応 新電波法 (920MHz帯) 対応のハンディ近日発売

- ▶ ハンディの特長
大容量小型高性能ハンディ・RFタグ対応
バーコード読取性能UP (弊社従来機比較)
- ▶ 現場での作業効率を大幅に向上
作業効率改善・ミス防止を強化 (詳しくはお問合せ下さい)

取扱店

神鋼商事(株)		(株)富士通マーケティング	
東日本溶材部	TEL (03) 3276-2345	産業営業本部	TEL (03) 5804-8241
西日本溶材部	TEL (06) 6206-7186	東海営業本部	TEL (052) 211-1761
西日本中国グループ	TEL (082) 228-7444	神戸支店 第二営業部	TEL (078) 371-8582
西日本九州グループ	TEL (092) 431-4911	九州支店 ビジネス営業部	TEL (092) 472-4711
名古屋支社 機械・溶材部	TEL (052) 563-8201		

開発・販売元

株式会社 アシスト・ワン

東京本社 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場一丁目24番16号(内田ビル)
TEL (03) 6233-9810(代) FAX (03) 3232-2551

大阪支社 〒556-0011 大阪市浪速区難波中一丁目9番10号(マッセ難波ビル1号館)
TEL (06) 6648-7780(代) FAX (06) 6648-7788

産業ガス部門 事務局の新体制

	専務理事	豊澤 幸平
	常務執行役員	達 嘉樹
	常務執行役員	増田 弘
	常務執行役員	小峰 史朗
	執行役員	和田 彰
	総務部長	肥後 盛長
	業務部長	彦坂 稔
	(特殊ガス、水素担当)	
	業務部長	薄井 健次
	(溶解アセチレン、炭酸ガス担当)	
	経理部長	大利益三
北海道地域本部	事務局長	高橋 宏史
東北地域本部	事務局長	和田 敏
関東地域本部	事務局長	小田 博
東海地域本部	事務局長	渡辺 弘行
北陸地域本部	事務局長	中村 孝
近畿地域本部	事務局長	湯浅 正広
中国地域本部	事務局長	桑田 満良
四国地域本部	事務局長	中村 雅裕
九州地域本部	事務局長	塚原 康夫

平成24年度 JIMGA医療・産業ガス合同シンポジウム

日時：平成24年6月13日(水) 13:30～15:25

場所：東京會館 9階 ローズルーム

技術・保安部会部会長 林谷 英司(挨拶要旨)



林谷部会長

平素は、皆様には当協会の活動に対して多大なるご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

昨年3月11日の東日本大震災は、今尚日本全体に大きな影響を与えており、復旧・復興が全力で行われているところです。JIMGAにおきましても東日本大震災を踏まえた新たな地震・津波対策を業界の自主指針とすべく、技術・保安部会のWGが活動しています。本日のJIMGAシンポジウムは4つのテーマで講演して頂きます。本日のシンポジウムが、皆様の日頃の業務のお役に立てることを切に願っております。今後共皆様のご理解とご協力をお願いし、挨拶に代えさせていただきます。

プログラム

講演1. 東北地域本部 技術保安部会(産業ガス部門)

「高圧ガス事業者の3.11東日本大震災体験事例集」
大陽日酸(株) 鈴木 富雄氏

講演2. 技術委員会(医療ガス部門)

「医療用ガスに関する製造管理および品質管理の基準について」

日本エア・リキード(株) 岡村 和也氏

講演3. 在宅酸素部会(医療ガス部門)

「平成24年度診療報酬改訂における在宅医療について」

テルモ(株) 高嵩 恒男氏

講演4. 技術・保安部会 教育研修WG(産業ガス部門)

「JIMGA e-ラーニングについて」

(株)リキッドガス 塚本 元氏

以下に、聴講者の皆様からお答え頂いたアンケートの一部を紹介します。

「e-ラーニングは大変参考になった、社内で活用したい」

「東日本大震災の震災事例集は、説明が具体的で大変参考になった」

「4題とも簡潔にまとめており、大変参考になった」

「平成24年度診療報酬改定における在宅医療についてやe-ラーニングについて等は普段話が聞けないので参考になった」

「講演全体は参考になり良かったが、内容が少々理解しにくかった」

「一つのテーマに割り当てられる時間が短いと思った」

「いささか端折った説明が多くて残念だった」

「産業部門と医療部門のテーマを1部、2部で分けた方が良かったと思った」

アンケートへのご協力、ありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。



シンポジウム風景

定時総会

日 時：平成24年6月13日(水)16:00～17:10

場 所：東京會館 9階 ローズルーム

議決権数 1,078票

出席会員数 803票(うち委任状649票)

議 長：豊田 昌洋 会長

議 事

事務局は定款第23条により議決権総数、出席者数、委任状数が本総会の全ての議案の決議に必要な定足数を満たしていると報告した。引続き総会の開会が宣せられた。豊田会長が議長席に着き、直ちに議案の審議に入った。定時総会に先立ち、医療ガス及び産業ガス部門総会が開催された。

<産業ガス部門総会>

第1号議案 産業ガス部門評議員の選任について

本議案について評議員候補者38名の承認審議を諮ったところ、産業ガス部門出席会員はこれを承認した。

<定時総会>

第1号議案 平成23年度事業報告及び決算(計算書類)について

本議案について、議長の指示により事務局から平成23年度事業報告と決算の説明がなされ、監事から監査報告がなされた。

議長が出席会員に諮ったところ全員の賛成により承認された。

第2号議案 平成24年度事業計画及び収支予算(案)承認の件

本議案について、議長の指示により事務局が平成24年度事業計画及び収支予算(案)の提案説明を行い、議長が出席会員に諮ったところ全員の賛成により承認された。

第3号議案 評議員、理事及び監事選任の件

本議案について、現理事及び現監事の全員が本定時総会の終結をもって任期満了となり退任するので、議長の指示により事務局が提案説明を行い、議長が出席会員に諮ったところ全員の賛成により承認された。議長より選任された理事・監事に確認を求めたところ全員就任を承諾した。

新任理事：豊田昌洋、松枝寛祐、鈴木慶彦
北代耿士、牧野明次、栗林秀和
小池哲夫、小池和夫、竹内弘幸
南部淳、渡邊秀生、古野照夫
鏑木正、岩切充弘、中井喜三
豊澤幸平、篠塚賢藏

新任監事：岩崎廣和、藤井恒嗣、繁田賢太郎
鈴木基雄

その他報告事項

事務局より以下の報告があった。

- (1) 電力問題について
- (2) 会員の動静について
- (3) 今後の主要日程について

閉 会

議長は以上で本総会における審議及び報告事項を全て終了したことを告げ、17時10分閉会を宣した。



定時総会風景

懇親会

日時：平成24年6月13日(水)17:30～19:30

場所：東京會館 9階 ローズルーム

参加人数：270名

会長挨拶

会長 豊田 昌洋



先ほどの理事会で再度会長の大役を仰せつかりました豊田でございます。今後2年間、新たな気持ちで頑張りたいと思いますので、今まで以上にご支援ご鞭撻のほど心からお願い申し上げます。

まずは、平成24年度定時総会が無事に終了しましたことをご報告申し上げます。そして、ご多忙にも関わらず、厚生労働省からは大谷医政局長をはじめ幹部の方々、経済産業省からは川上大臣官房審議官以下幹部の方々、高圧ガス保安協会からは作田会長以下幹部の方々、全溶連からは深尾会長をはじめ幹部の方々など、約50名のご来賓にご臨席頂いており、誠にありがとうございます。

さて、昨年の東日本大震災以来、原発事故、電力問題などさまざまな問題が起き、日本は大きな曲がり角にきています。最近の出来事を思い出すと、32年ぶりに貿易収支は赤字、42年ぶりに原子力発電は稼働ゼロになりました。日本の発展を支えてきた出来事がマイナスになってしまったことを、我々は真剣に考えなければなりません。我々の業界でもお得意様はいわゆる六重苦の中で海外進出し、中小企業はどんどん会社を閉め、地方においては充てん場の稼働率が月ごとに低くなっています。こういう状況の中で、我々はみんなで力を合わせ、この業界をどうやって維持して行くか考えなければ行けない時にきています。それは決して難しいことではありません。お互いが助け合いながら、与えられている仕事を忠実にこなし、JIMGAの存在を社会に明らかにすることが

大事だと考えています。

私どもは共通で3つ、産業ガス部門、医療ガス部門でそれぞれ4つの課題を昨年に引続き遂行して行きたいと思えます。現在JIMGAでは約25のチームが活動しており、約300名の方々に手弁当で参加して頂いています。それだけの人数が毎日のように会合を開くわけですから、共通課題として第一に、コンプライアンスの厳守を挙げたいと思えます。第二に、我々の仕事が社会インフラとして重要なものだということを皆様に認識して頂くために努力して行くということです。第三に、エネルギー・電力問題の解決です。

東京電力の電気料金の値上げは通常で17%、深夜で34%という大変高額な値上げで、額にすると約60億円、全国に及ぶとすると約170億円以上に上ります。我々は「1kWの電力も生み出さない原発のコストが入ったまま、電気料金だけが上がることは会計原則からいっておかしい」ということを主張し、原子力関係のコストを除けば2.51円/kWhの値上げが0.9円/kWhになるという計算内容を添えて東京電力へ提出しました。これに対して東京電力からは「家庭料金の認可料金において何らかの対応があれば十分に考えさせて頂く」というご回答を頂いています。3月の有識者会議ではすでに「著しく稼働率の低い設備について原価から差し引かれるべき」という意見が出ていましたが、最近ようやく私どもの主張と同意見が新聞紙上でも見られるようになりましたので、我々の考えている方向に少しでも進むのではないかと期待を抱きながら、認可料金がどうなって行くのか大変注目しています。

更に、私は総括原価方式がいかに経営を甘やかしてきたか、使用者を苦しめてきたか、ということ世間にこの際はっきりと訴え、関係諸官庁にもそのことをご認識頂くよう引続きお願いして行

きたいと思っています。

当面の電力問題については、関西電力の大飯原発の再稼働に向けて動き出したものの、まだまだ油断はできない状況ではありますが、15%以上の節電が10%以下になりそうだということは少しホッとしています。引続き政治には、我々にかすかな灯でも灯して頂くようお願いしたいと思ひます。

時間の関係上、産業ガス、医療ガス部門それぞれ4つの課題の詳細については割愛いたしますが、後日広報からホームページなどでご報告させていただきます。(本紙 総会会長挨拶参照)

最後になりましたが、本日ご出席の皆様方のみますのご発展とご多幸をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

ご来賓祝辞

経済産業省大臣官房審議官

川上 景一 殿



平成24年度の定時総会が滞りなく終了したことをお祝い申し上げます。これも豊田会長のリーダーシップの下、東日本大震災での対応、特に医療用ガスの供給やサプライチェーンの復旧、保安の強化、RFタグを用いた高圧ガス容器管理の徹底など日頃の活動を着実に積み重ねている成果であり、敬意を表すると共に本年のご活躍に期待を申し上げます。

さて、中東世界の変動、南シナ海の領有権問題などに加え、中国の政治指導者の交代や経済の急減速、ユーロ危機の深刻化など、世界は引続き大きく動いています。我が国においても、東日本大震災、原発事故からの復興をはじめとする種々の課題を解決して行く必要があります。復興需要の本格化など今年の内需は堅調だと予想されますが、経済産業省としても国内立地推進事業など国内の積極的投資、雇用の増進につながる支援策を着実に実施して参ります。

国内の事業環境を良くして行くために、電力の安定供給は欠かすことができません。今夏についてはご心配をおかけしていますが、関西を中心に数値目標つきで節電をお願いせざるを得ない状況にあります。将来原発をどうするか、石油やLNGをどう確保するか、再生可能エネルギーの導入を進めて行くことはもちろん、エネルギー・原子力政策、電力システム改革の議論がエネルギー環境会議などで進んでいますが、電力量の確保と共にコストについても空洞化の危機にある製造業にとっては重要です。

去る6月5日には、ものづくり白書を国会に提出しました。白書の論点のひとつは、新興国市場にどう食い込んでいくかが今後の成長の鍵だということです。我が国の企業も、海外進出と共に産業の基本素材のひとつである産業ガスの現地調達を拡大をします。従来から貴協会は国際標準化活動にも積極的に取り組んでおられますが、政府としても経済連携の推進などで事業環境を整えると共にインフラ輸出の支援などを進めて参ります。

このような経済、事業経営と政治の動向、政策が密接に連動している状況の下では、企業の皆様と私どもが連携・協力して産業空洞化の危機を乗り切り、変化する環境に適切に対応して行かなければならないと考えています。皆様にいろいろと教えて頂きながら、諸課題に取り組んで行きたいと思ひますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、日本産業・医療ガス協会及び会員各社の一層のご隆盛と、本日ご参集の皆様のご健勝をお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご来賓祝辞

厚生労働省医政局長

大谷 泰夫 殿



日頃から厚生労働省の行政にご貢献頂き、ありがとうございます。

ます。また、東日本大震災から現在に至るまで防災等さまざまな面でご協力頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、高齢化社会を迎え、どのように地域医療を確保して行くかが課題になっています。厚生労働省では、今年の施策の1丁目1番地には在宅医療ということで、在宅医療の増強を訴えています。一度急性期に入院したら入りっぱなしというわけにはいかず、急性期からリハビリをして療養し、在宅へという流れができて行かないと医療は回りません。皆様の中には在宅酸素療法という仕事に関わっている方がいらっしゃると思いますが、病院だけではなく在宅を含めた医療全般に目配りを頂けたら大変ありがたいと思います。

今夏には節電や計画停電のリスク等もありますが、医療用ガスの安定供給は在宅についても緊急の課題です。また、引続き全国での防災対策も重要課題であり、皆様にはいろいろな面でご理解ご協力を賜りますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ご来賓祝辞

高圧ガス保安協会

会長 作田 穎治 殿

本日は平成24年度の定時総会が滞りなく行われ、豊田会長をはじめ関係者の皆様には心からお祝い申し上げます。

皆様もご承知だと思いますが、高圧ガスの事故件数は平成12年から11年以上増加の一途をたどり、昨年は439件と過去最悪の数字になっています。ここから東日本大震災で発生した案件86件を差し引くと353件ですが、この数字も10年前の平成13年と比較すると3倍以上となっていますので、ここ10年の災害件数の伸びは尋常ではありません。

最近では、わずか6ヶ月の間に激震が走るよう



な大事故が2件起きています。1件目は昨年11月、山口県で大爆発による火災が起こり、死者1名、負傷者1名、塩化水素ガスの漏洩の危険から付近の住民に対しては自宅待機の指示が出るという事態になりました。2件目は今年の4月、同じく山口県で大爆発火災事故が起こり、その爆発音は30キロ以上離れた広島県でも聞こえたというほどの大事故となりました。死者1名、負傷者25名、付近の住戸はガラスが割れる等の被害が発生しています。この2件は日本を代表する化学メーカーの事故で、事業者は保安検査を自ら行うことができる認定事業者です。万全の保安対策が講じられていたはずの工場ですら、こうした大事故が起こっています。

今年の新年賀詞交歓会で豊田会長から産業ガス、医療ガス部門におけるさまざまな課題が取り上げられました。その中で豊田会長は、両部門において一番大事なことは、保安の確保、事故対策であると指摘されました。高圧ガスを取扱っている皆様にとって、保安は経営の根幹をなすものだと思います。最近のこのような事故の状況を鑑みて、もう一度社内の保安体制を足下から再点検して頂き、絶対に事故は起こさないという緊張感を持って保安対策を抜本的に見直して頂くよう心からお願い申し上げます。

乾杯挨拶

副会長 松枝 寛祐

ガスを売ることは安全を売ることであり、保安あるいは未然の事故防止は大変重要です。6年前から不明容器や紛失容器を一掃して安全をはかるため、シリンダーにRFタグを装着するということを進めて参りました。現在、全国38ヶ所の事業所で装着作業をしており、14万本のシリンダーに装着を終えました。2015年には310万本にRFタグを装着し、我々



の身近なシリンダーによるガス供給の分野において安全をはかりたいと考えています。そのためには、ガスのマニファクチャリングや使うディーラー、容器をお持ちの皆様が協力して、ぜひ早期の達成に向けて頑張ってくださいと思います。我々は現在、多くの困難に立ち向かい、さまざまな課題を持っていますが、そのひとつとして、このことを再度認識して頂きますようお願い申し上げます。

JIMGAのますますの発展と、ご参会の皆様の企業のますますのご隆盛、皆様のご多幸を祈念いたしまして、乾杯の挨拶とさせていただきます。

中締め挨拶

副会長 鈴木 慶彦

この一年間、災害や事故など、日本でも世界でもいろいろなことが起こりました。そのような状況の中で、JIMGAがやらなければいけないことは決まっています。それは、我々の仕事を通じて、日本の産業と日本人の命を守るということです。世の中から必要とされる仕事というのは必ずうまく行くものですから、それを信じて、ひたすら前を向いて頑張ってください。



懇親会風景

平成23年度 事業報告

産業ガス部門事業報告

1. 主要会議

産業ガス部門 総会・定時総会

平成23年6月15日開催

理事会

第1回：平成23年6月15日

第2回：平成23年6月15日

理事会・評議員会合同会議

第1回：平成23年5月27日

第2回：平成23年11月24日

賀詞交歓会

平成24年1月11日

臨時理事会

平成24年3月14日

2. 総務部会

第1回：平成23年4月28日開催

議題

(1) 東日本大震災による平成23年度会費減免措置について

(2) 平成23年度理事会・評議員会合同会議、定時総会の開催について

(3) 平成22年度決算案及び平成23年度予算案について

(4) 入退会の会員について

(5) 事務局職員の異動について

報告事項

(1) 東日本大震災への対応について

(2) 経済産業省の夏期電力需給対策案について

(3) 特殊ガス企画委員会、水素企画委員会発足について

第2回：平成23年11月9日開催

議題

(1) 就業規則の一部改定について

(2) 技術審議委員会規程制定について

(3) 入退会の会員について

(4) 平成23年度産業ガス部門上期決算について

(5) 評議員会・理事会合同会議の開催について

(6) IOMA義援金の取扱いについて

報告事項

(1) IOMAメンバーからの義援金への感謝状について

(2) IOMA IHCにおける進捗状況自動作成システムの導入について

(3) 内部監査について

3. 広報委員会

(1) ウェブサイト

更新頻度の向上を目的にウェブサイトのリニューアルを行い、9月29日から公開を開始した。

(2) 産業ガスレポートの発行

9月末に秋号Vol.25、3月末に春号Vol.26を発行した。定時総会、賀詞交歓会の記録、本年度の役員、評議員、常設部会・委員会名簿、組織表、技術・国際ニュース、国際関連事業座談会、地域本部活動報告、統計データ等を掲載した。

(3) JIMGA newsの発行

第3号(4月末)～第8号(2月末)を発行した。会長記者会見の内容や理事会、賀詞交歓会等のイベントの報告、ISOやKHK等での活動報告、WG・地域本部の紹介を行った。

(4) マスコミへの発信

6月15日定期会長記者会見を開催、東日本大震災への対応、JIMGA主要課題及び取り組み状況を発表。12社13名が出席し、6紙で記事となった。

8月8日臨時会長記者会見を開催、再生可能エネルギー特別措置法案について、東日本大

震災による津波で流出した高圧ガス容器への対応について、容器RFタグの自動認識システム大賞「大賞」受賞について発表。10社が出席し、全ての業界紙等で記事となった。

11月24日定例記者懇談会を開催、東日本大震災への対応と今後の教訓、JIMGA主要課題及び取組み状況を発表。16社16名が出席し、4紙で記事となった。

2月3日、27日、4月3日臨時会長記者会見を開催、東京電力の値上げについての対応等を発表。それぞれ10社10名、18社21名、18社18名が出席し、10紙、13紙、17紙で記事となり、27日はTVでも放映された。

(5) プレスリリース

9月12日放射線に関連する指針の制定について23社にプレスリリースを実施。3業界紙で記事となった。

4. 企画部会

(1)平成23年5月9日、11月15日の2回開催。各WGの活動報告の他、事業者間での容器授受等電子データ交換標準化WG設置や取引契約書モデルの改定について審議を行った。

(2) 長期停滞容器回収推進WG

- ① 「容器管理指針」の発行支援では、平成23年9月と平成24年1月、3月に発行された佐賀、熊本、大阪を含めて発行済みが22都府県となり、未だ働きかけをしていない県は岩手県のみとなった。
- ② 自主基準として容器使用に関する契約書のみならず、ローリーでの取引に関する契約も改訂作業を行った。

(3) グリーン物流WG

- ① モーダルシフトの検討では、輸送コストはローリーと同程度であるが、CO₂を1/3削減できるとの結論に至った。
- ② 液化ガスローリーの燃料転換検討では

高速走行距離が長い程、コストメリット及びCO₂削減効果も大きい結果となった。

(4) 容器処理WG

- ① 容器特別回収月間の前に「放置容器・不明容器引上の際の措置について」を配信し、有償での回収を呼びかけた。

5. 容器RFタグ運営委員会

- (1)平成23年4月より全国展開フェーズ「Step4」を開始し、全国規模でRFタグの展開を進めている。運用拠点は中国、九州北部、近畿地域から、中部、北陸、関東地方へも広がっており、3月末現在で38拠点(138,000本)となった。メーカーだけでなく、複数のディーラーにも参画頂いている。運用上の課題はWGと技術SWGで連携し、解決を図りながら運用を進めている。JIMGAでのRFタグ管理業務や課金運用も開始している。
- (2)特殊ガス容器のソフト面での課題や医療ガス容器へのRFタグ装着の課題は解決し、今後は装着を開始。
- (3)ディーラー向けにRFタグ容器管理の開始に向けた準備内容を説明する資料を作成。
- (4)自動認識システム大賞への応募と「大賞」受賞 ※主催JAISA(日本自動認識システム協会)「業界で規格を標準化した」点が評価され、大賞を受賞。
- (5)世界標準化/ISO規格化に向けた取組み。2012年1月の会議(アルゼンチン/ブエノスアイレスで開催)で技術SWGがJIMGA提案を発表。ISO21007-2の修正に全会一致で合意となり、ISO化に向け前進。

6. 技術審議委員会

- (1)平成23年5月27日、11月21日開催。
- (2)審議、承認案件は計13件。案件の一例は、

- * 水素ガス GHS対応PLラベル
- * e-ラーニング 高圧ガスの安全基礎知識
- * 高圧ガスハンドブック改訂版
- * 超低温液化ガスフレキシブルホースに関する自主指針
- * 一般ガス用MSDS、イエローカード、ラベル改訂
- * 放射性物質に汚染されたエアフィルター交換に関する安全作業指針

7. 技術・保安部会

(1) 平成23年5月16日、11月10日開催。部会全体の活動実績、計画の報告、承認。産業ガスレポート原稿依頼。

(2) 容器技術WG

- ① ISO/TC58 国内委員会への参画と基準原案の検討。ISO原案の審議は17件。
例えば
 - * 無線ガス自動識別技術を用いた識別と刻印(賛成)
 - * アセチレン容器の基本要件(賛成)
 - * 鋼製シームレス容器定期検査のAT試験(棄権)
- ② TC58/SC4 国際会議への参加。RFタグ、アセチレン容器多孔質マスマ性能試験要領等において日本の意見をかなり反映させることができた。特にRFタグに関しては日本方式を取り入れられる可能性が大きい。
- ③ 「AT試験」について韓国航空大学教授を招いて勉強会開催。

(3) 超低温貯槽WG

- ① 超低温液化ガス充てん用ステンレス製フレキシブルホースに関する取扱い自主指針を作成し、承認を受け発行した。
- ② 規制改革要望で容器製作用鋼板の表裏区別廃止、溶接容器の膨張試験廃止など経

済産業省保安課と直接折衝。

- ③ ISO TC220超低温設備に関する国際規格原案に日本意見を反映させるべく国際会議に参加。

(4) 充てん技術WG

- ① 「充てん工場の地震対策」セミナーをすべての地域本部で開催し、周知徹底。本指針は経済産業省の調査で地震津波に有効であった報告がなされた。
- ② 東日本大震災を踏まえた地震対策指針改訂版作成のため、東北被災工場との合同会議を東北地域本部で開催した。
- ③ 新規課題であるカードル技術指針作成のため、カードルの全国調査をした。

(5) 保安対策WG

- ① 5年見直しで「高圧ガスハンドブック改訂版」を作成し、承認を受け販売開始。
- ② 「CE自主保安検査基準」の内容について各社関係の検査会社も参画し作成中。JIMGAが実施要領を作ることでKHKに協力する。

(6) 教育・研修WG

- ① JIMGA e-ラーニング「高圧ガスの安全基礎知識」をウェブサイトに掲載。地域本部のセミナーなどでe-ラーニング普及のプレゼンテーションをした。
- ② ガス別のe-ラーニングとして新規に「水素の安全な取扱い」を決定。水素技術WGの協力を得て、内容を検討した。

(7) 溶解アセチレン技術WG

- ① 溶解アセチレン技術WG定例会議の中で、大日本アガ殿のリニューアル工場を見学し、関係者のスキルアップ、安全意識を再確認。
- ② 5年ごとのJISの見直し作業を実施。日本規格協会の指導を仰ぎながら、今後のJIS規格保持について引続き作業中。

- ③ ISO TC58/WG9の国際会議に参加するJIMGA技術保安部会員に、溶解アセチレンに関する日本メーカーの考え方、技術的見解を伝えて日本の意見を提言し、ISO定期見直し文言に反映。
- ④ KHK容器マス認証委員の改選期で委員の選任を協議し、サーンテック殿より選出を委嘱。
- ⑤ GHS対応容器ラベルの「容器イエローカード」モデルに関して協議。

(8) 炭酸ガス技術WG

- ① 炭酸ガス関連会員21社の「総会」を期初に開催、JIMGA技術・保安部会、環境安全部会、国際部会への派遣委員の活動報告を中心に、情報の共有化を図る。
- ② 代表8社による定例会議で、炭酸ガスに関する課題の消化と「炭酸ガス保安講習会」の24年度開催に関する協議を行い、開催を決定し地域本部のフォロー作業を開始。
- ③ 液化炭酸ガスのGHS対応ラベルモデル、「容器イエローカード」を検討し、JIMGAウェブサイトに掲載。

(9) 特殊ガス企画委員会及び特殊ガス技術WG

- ① 特殊ガス企画委員会は、三フッ化窒素規制強化案(省令、例示基準)について経済産業省原子力・安全保安院保安課と折衝。省令改正に伴う例示基準について保安課にJIMGA案を提示して、適正な保安の確保を図りつつ、過大な負担を避けるよう折衝。
- ② 特殊ガス技術WGは、「緊急時応急措置指針-容器イエローカード(ラベル方式)への適用:改訂3版」(2008 Emergency Response Guidebook:DOT)の改訂内容に即して特殊ガス容器添付イエローカード77種の改訂を10年ぶりに実施。本改

訂は昨年改訂したJIS Z 7250:2005対応MSDS並びにISO10156:2010(支燃性・酸化性ガス)等ガス物性関連の最新のISOと整合性をとって改訂。

(10) 水素企画委員会及び水素技術WG

- ① 水素企画委員会は、平成23年度圧縮水素仕向先別・荷姿別出荷実績集計表並びに平成24年度支部別水素プラント定期修理計画表を作成。平成23年度の圧縮水素出荷実績は117,516千m³、前年比90%。
- ② 水素技術WGは、旧水素工業会作成「水素ガス消費基準」(平成10年7月改訂3版)改訂。

(11) 安全統計WG

- ① 平成22年度労働災害統計調査を実施、分析を行った。死傷者件数12件、度数率0.33、強度率0.003共にこれまでで最も良い値となった。
- ② 高圧ガス関係事故(災害)のトレース、分類、改正を推進。「JIMGA安全ニュースNo.6」としてまとめ、技術審議委員会に上程、承認。

(12) ヘリウム技術WG

- ① 液化ヘリウム使用・輸送時の安全を確保し、自主保安の推進に役立てる目的で「液化ヘリウムデュワー容器の安全確認に関する指針」を策定。
- ② ヘリウムガス及び液化ヘリウムについてイエローカードの改訂、GHS対応肩ラベルを策定。

8. 環境・安全部会

- (1) 平成23年5月17日、11月16日に部会を開催。地球温暖化対策及び電力需給対策、再生可能エネルギー全量買取り制度への対応、製造及び輸送での省エネへの取組みについて

報告、検討を実施。

(2) 環境保安WG

- ① 環境自主行動計画フォローアップ調査を行い、エネルギー原単位指数で75(1990年=100)を達成、日化協の努力目標値の80の継続達成を確認。
- ② 空気分離装置の電力削減ポテンシャル調査報告を実施。
- ③ 「産業ガス業界におけるカーボンフットプリント算定のための手引き」をJIMGA指針として策定。

(3) 化学品安全WG

- ① ボンベに貼付する肩ラベルをGHSで規定された絵表示、更に指針番号や国連番号も入れて、一般ガス及び混合ガスの37種類について作成。
- ② GHSに対応したMSDSとの整合を確認し、一般及び混合ガスの32種類について作成。
- ③ 液化キセノンのMSDSを作成。

(4) 地球温暖化対策WG

- ① 関係三法(地球温暖化対策税、再生可能エネルギー全量買取り制度、国内排出量取引制度)について、経済産業省他に意見、要望を提出。電力多消費産業への過度な負担の軽減を要請。
- ② 日本経団連次期行動計画「低炭素社会実行計画」へのJIMGA一体での対応・参加。日化協などの他産業団体と連携。
- ③ 海外産業ガス団体の地球温暖化対応の情報入手と意見交換。

9. 国際部会

- (1) 平成23年5月24日、11月16日に開催。IHC対応WG及び規制改革WG活動実績、年間行事計画報告、承認。IOMA(GC含む)への対応、台湾TIHPGIAとの技術交流会並びにIHC国際会議の対応。

(2) IHC対応WG

- ① IHCの完了プロジェクトのJIMGA自主基準化の推進。20件程度の案件。
例えば
 - * シリンダーの内部腐食の検出と防止
 - * 充填中の超低温容器の過剰圧力の防止
 - * 酸素・窒素の安全な放出場所
- ② 検討中及び新規プロジェクトへの積極的な参画。20件程度の案件。
例えば
 - * 産業ガス製造所におけるセパレートガスの大量貯蔵指針
 - * 水素システムの安全距離
 - * 硝酸アンモニウムからの亜酸化窒素の安全な製造
- ③ JIMGA提案課題のフォローアップ。
 - * ヒヤリハット
 - * 半導体特殊材料ガスの安全な取扱い
 - * セレン化水素(JIMGA単独リードのプロジェクト)
- ④ 国際標準化作業のプラットフォーム構築に参加決定。
- ⑤ IOMA及び地域別団体であるEIGA、CGA、AIGAとの交流、関係継続。

(3) 規制改革WG

- ① 規制改革要望事項の発掘、募集、内容審議、官への提出、実現に向けての行動。フレキシブルチューブの保安検査見直しは、3月末にパブリックコメントに出された。
- ② 2001年から継続審議中の14課題につき、プロジェクトチームの検討等通じて実現を図る活動。特に経済産業省へ直接の要望を提示し、実現を図って行く。例えば材料試験における曲げ試験の表裏区別の緩和等。
- ③ 海外の規制、基準の調査、情報の発信。引続き調査等継続。

10. 地域本部との一体運営

- (1) 地域本部との情報共有化、一体運営の促進を図るために、豊田会長が6地域本部を訪問し、地域会員と打ち合わせを実施。
- (2) 地域本部本部長・事務局長会議を平成24年1月11日開催。豊田会長地域訪問時の要望等に対する対応・対処について、内部監査結果報告の打合せを行った。

11. 東日本大震災対応

- (1) 津波により流出した容器の処理
5月2日に補正予算として成立した「津波により流出した容器の処理費用」5.1億の早期執行を目指しJIMGAとしても原子力・安全保安院との交渉に関与した。その結果、11月に岩手県、12月に宮城県が処理を開始し、3月まで処理事業を行った。
- (2) 放射線タスクフォース
平成23年度第1回技術・保安部会において福島第一原発の事故の影響により原料空気圧縮機のエアフィルターに多量の放射性物質が付着していることが報告され、本件を業界全体の問題として取組むことが決定された。6月から6社でタスクフォースが形成され、8月末に「放射性物質に汚染されたエアフィルターの交換作業に関する安全作業指針」を作成し、承認され、発行された。
- (3) 原子力安全・保安院主催の「高圧ガス部会」への対応
 - ① 東日本大震災を踏まえた高圧ガス施設等の地震・津波対策については、保安課等による被災状況調査をもとに、数次にわたる高圧ガス部会での審議を経て、平成24年3月20日開催の高圧ガス部会において報告書案が承認された。
 - ② JIMGAは、東北地域本部が調査に協力すると共にJIMGAの容器転倒防止対策を

部会で紹介した。また保安課取りまとめ案に対し、意見を提出した。

- ③ 報告書の概要
 - 1) 地震対策については既存設備の配管の基準適合率が低いことから、平成19年度高圧ガス保安協会「高圧ガス設備配管系耐震診断マニュアル」に基づいて耐震性能評価を行うことが望ましいとされ、まず適用性を確認、検証した上で本格的に導入して行くこととされた。
 - 2) 設備の停止措置や容器等の流出防止対策については、技術基準や危害予防規程を順次制定・改定して行くこととされた。容器の転倒防止対策など容器形状等に依存するものは、業界ごとに具体的な対応策についてのガイドラインを策定し、進捗状況を審議会等でフォローアップして行くこととされた。

12. その他

- (1) 電力供給削減への対応
 - ① 震災直後に実施された計画停電(輪番停電)は医療用・保安用ガスの供給に極めて大きな影響があるとして、輪番停電回避と連続操業を可能とする運用を経済産業省に対し、繰り返し要望した。
 - ② 夏期の電力需給対策
東京電力・東北電力管内の大口需要家に対する一律15%の削減と電気事業法第27条による使用制限への対応。
 - 1) 電力対策緊急会議の開催(4月15日)と経済産業省の事前調査への協力。
 - 2) 個社での対応を基本とした(輪番休業を実施した業界もあったが、産業ガス業界は各社のプラント特性が一樣でないことから個社対応とした)。
 - 3) 共同使用スキームや制限緩和措置などの

情報周知。

4) 使用量削減のための取組み内容についてアンケートを実施し、課題を整理。

(2) 再生可能エネルギー全量買取り制度への対応

① 買取り制度小委員会の最終報告案は電力集約型産業に多大な負担を強いるものとして、ドイツの制度などを参考に、特定産業に過度な負担とならない費用負担のあり方を検討するよう経済産業省に要望(平成23年2月)。

② 国会に上程された「再生エネルギー特別措置法案」に対し、電力集約型産業の負担軽減を経済産業省に再度要望すると共に、会長記者会見を実施(平成23年8月)。

1) 使用電力量に比例した賦課金(サーチャージ)方式の見直し

2) 売上高に対する購入電力量の比率が一定以上の産業に対する減免(空気分離製品は製造業平均の40倍を超える)

③ 「製造業平均の8倍を超える事業者に対し、賦課金を8割以上減免する」との修正がなされ法案が成立。その後、政省令による具体化に向けた動きをフォロー。

(3) 東京電力(株)の値上げへの対応

① 本年1月に東京電力(株)から要請があった電力自由化部門への251円/kWh(税抜)の大幅な電力料金の値上げは、「電力集約型産業」である産業ガス、医療ガス業界にとって東電管内で約60億円/年の大幅なコストアップとなる。仮に同様の値上げが全国に波及するとその影響額は約170億円と膨大な金額となり、厳しい状況に陥ることが想定される重大な問題であるとして、電気料金値上げ抑制の対応を取った。

【取組み内容】

1) 平成24年2月3日 第一回目の記者会見を開催。

2) 平成24年2月23日 東京電力(株)へ「電気料金値上げ抑制へのお願い」を提出。

3) 平成24年2月27日 第二回目の記者会見を開催。

4) 平成24年3月9日 東京電力(株)から『「電気料金値上げ抑制へのお願い」へのご回答について』を入手。

5) 平成24年3月29日 東京電力(株)へ『「3月9日付貴社ご回答」への当協会の考え方について』を提出。

6) 平成24年3月29日 経済産業省化学課、資源エネルギー庁電力市場整備課に「東京電力(株)の値上げについて」書面を提出。「1kWも電力を生み出していない原子力発電に関する設備やコストが、総原価を見直さずにそのまま入っていることは、会計原則や公正な処理基準に照らしても否定されるべきであり、今回の値上げから原子力関連の費用を除いて頂きたい」という旨を主張。契約更新が4月1日以降の契約分について、これらの検討が具体的に進み結論が出て合意に達するまでの間は、4月1日以降も従前の電気料金で支払いをすることが原則であると表明した。

平成23年度 総会・部会・WG会議等開催記録

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
総会・理事会・評議員会・賀詞交歓会等					
1	平成23年度産業ガス部門総会・定時総会	産業ガス部門総会 1. 産業ガス部門評議員選任の件 定時総会 1. 平成22年度事業報告及び決算の承認を求める件 2. 平成23年度事業計画及び予算の承認を求める件 3. 評議員、理事及び監事選任の件	1回	6/15	
2	理事会	第1回 1. 総会提案議題について 2. 評議員の選任について 3. 新入会員の承認について 第2回 1. 副会長の選任並びに部門別理事会所属理事の選任について	2回	6/15 (第1回、2回)	
3	臨時理事会	1. 報告事項(①東京電力値上げ対応、②容器処理WG、高圧ガス容器回収プロジェクト及びCRC西日本の経営、③RFタグの進捗状況、④会費検討WG設置)	1回		3/14
4	理事会・評議員会合同会議	第1回 1. 平成22年度事業報告及び平成22年度収支決算報告の件 2. 平成23年度事業計画及び平成23年度予算(案)の件 3. 産業ガス部門理事及び評議員候補者選任の件 4. 入会希望事業者審査の件 5. 定時総会招集の件 6. 東日本大震災による平成23年度会費減免措置の件 7. その他報告事項(①東日本大震災への対応、②特殊ガス企画委員会、水素企画委員会発足について、③会員の動静について、④今後の主要日程) 第2回 1. JIMGA 規程の制定及び一部改訂の件 2. 入会希望事業者審査の件 3. その他報告事項(①平成23年度上期活動報告の件、②平成23年度中間決算収支計算書報告の件、③豊田会長地域訪問の件、④IHC国際整合化のWEB上での管理について、⑤IOMA会員からの日本への義援金について、⑥内部監査報告の件)	2回	5/27、11/24	
5	賀詞交歓会	東京會館にて開催	1回		1/11

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
技術審議委員会					
1	技術審議委員会	第1回	2回	5/27、11/21	
		第2回			
		1. 国際会議出席旅費一部負担実績 2. 上程案の審議、承認 ①水素ガス GHS 対応 PL ラベル ②校正用ガス略式(Ⓚ刻印)に関わる自主基準 ③半導体用特殊ガスの安全な取扱い指針 ④充てん中の超低温容器の過剰圧力の防止 ⑤e-ラーニング 高圧ガスの安全基礎知識 1. 国際会議出席旅費一部負担実績 2. 技術審議委員会規定制定 3. 上程案の審議、承認 ①高圧ガスハンドブック改訂版について ②超低温液化ガス(LN ₂ ,LO ₂ ,LAr)用ステンレス製フレキシブルホースに関する取扱い自主指針 ③安全ニュース「高圧ガス関係災害事故の推移と傾向」 ④液化ヘリウムデュワー容器の安全確認に関する指針 ⑤産業ガスのカーボンフットプリント算定の手引き ⑥一般ガス用MSDS、イエローカード、ラベル改訂 ⑦水素ガス(圧縮水素)イエローカード ⑧放射性物質に汚染されたエアフィルターの交換作業に関する安全作業指針			

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
総務部会					
1	総務部会	第1回	2回	4/28、11/9	
		第2回			
		1. 前回議事録の確認 2. 東日本大震災による平成23年度会費減免措置について 3. 平成23年度理事会・評議委員会合同会議、定時総会の開催について 4. 平成22年度決算案及び平成23年度予算案について 5. 入退会の会員について 6. 事務局職員の異動について 7. その他 1. 前回議事録の確認 2. 就業規則の一部改定について 3. 技術審議委員会規程制定について 4. 入退会の会員について 5. 平成23年度産業ガス部門上期決算について 6. 評議員会・理事会合同会議の開催について 7. IOMA 義援金の取扱いについて 8. その他			
2	会費検討WG	会費ルール検討	1回		3/14

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
広報委員会					
1	広報委員会	第1回	2回	5/18,11/16	
		第2回			
2	産業ガスレポート編集WG	第1回	2回	9/12	3/9
		第2回			
3	産業ガスレポート編集TF	第1回	2回	9/2	3/2
		第2回			
4	JIMGA ホームページ リニューアル TF		1回	6/21	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
企画部会					
1	企画部会	第1回	2回	5/9,11/15	
		第2回			

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
企画部会					
2	長期停滞容器回収推進 WG	第1回	4回	7/6、10/12、 12/14	4/4
		第2回			
		第3回			
		第4回			
3	グリーン物流 WG	第1回	4回	7/6、10/12、 12/14	4/11
		第2回			
		第3回			
		第4回			

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
企画部会					
4	容器処理WG	第1回	4回	7/6、7/11、 10/4	3/28
		第2回			
		第3回			
		第4回			

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
RFタグ運営委員会					
1	容器RFタグ運営委員会	第1回	2回	9/16	4/27
		第2回			
2	容器RFタグ運営委員会WG	1. 全国展開の状況について 2. WGの各種課題について 3. 技術SWGの各種課題について 4. 普及促進について	7回	6/2、6/27、 7/27、10/31、 12/27	2/7、 3/13
3	容器RFタグ運営委員会技術SWG	容器RFタグに関する技術的課題に関する検討	11回	4/25、5/30、 6/21、7/14、 8/18、9/27、 11/25、12/14	1/20、 2/21、 3/19

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
調査統計部					
1	配送研究会	今後の活動方針について	2回	10/27	2/8

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
技術・保安部会					
1	技術・保安部会	第1回 第2回	各WG活動実績報告/活動計画 各WG活動実績報告	2回	5/16,11/10
2	容器技術WG	第1~4回 第5回	ISO TC58 SC4 ガス容器 「AT試験勉強会」 韓国航空大学 Prof.Boyoung Lee	5回	4/19,7/26、 10/25 1/24、 2/27
3	超低温貯槽WG	第1~3回 第4~5回	超低温フレキホース ISO TC220 ISO TC220	5回	6/6、8/5、 10/3,12/7 2/13
4	充てん技術WG	第1回 第2回	充てん技術全体会議 充てん技術全体会議 RFタグ研修西海総合ガスセンター	2回	4/11,12/16
5	充てん技術WG作業部会	第1~2回 第3回 第4~5回	カードル技術指針 地震対策 東北地域本部と合同会議 カードル技術指針+地震対策	5回	8/26,11/1、 12/22 1/20、 3/6
6	保安対策WG	第1~2回 第3回 第4~8回	CE自主保安検査指針 販売事業所自己診断指針 全溶連と会議 CE自主保安検査指針+高圧ガスハンドブック	8回	4/22,5/31、 6/27,7/7、 11/11,12/12 1/23、 3/2
7	教育・研修WG	第1回 第2~9回	e-ラーニング高圧ガスの安全基礎知識 e-ラーニング水素の安全な取扱い	9回	4/26,6/7、 8/23,10/17、 12/5 1/26、 2/16、 3/7、 3/27
8	放射線タスクフォース	第1~3回 第4回	放射性物質に汚染されたエアフィルターの安全 な交換作業指針 エア・リキード社 Dr Rostan放射線講演	4回	6/1,6/16、 7/11,8/4
9	高圧ガス特別回収プロジェクト		平成22年度特別回収結果報告と対応策会議	1回	7/11
10	安全統計WG	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回	産業ガスに係る災害事故分析検討 事故情報の分析検討 労働災害統計調査結果報告 安全ニュース「高圧ガス関係事故の推移と傾向」 事故情報の分析検討 ヒヤリハット事例集作成検討	6回	4/18,6/27、 8/29,10/17 1/23、 3/26
11	ヘリウム技術WG	第1回 第2~4回	液化ヘリウムデュワー容器の自主検査基準 液化ヘリウムデュワー容器の完全確認指針	4回	7/5,9/12、 10/27 2/2

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日		
				H23年	H24年	
環境・安全部会						
1	環境・安全部会	第1回 第2回	平成22年度活動実績、平成23年度活動計画 平成23年度上期活動進捗報告	2回	5/17、11/16	
2	環境保全WG	第1回 第2～4回	空気分離装置の電力削減調査 カーボンフットプリント策定の手引き	4回	4/26、7/25、 10/3	1/24
3	化学品安全WG	第1回 第2～4回 第5回	化学物質管理、危険物輸送関係情報 肩ラベル・イエローカード改訂 JIS(酸素・窒素・アルゴン)改訂調査	5回	4/15、7/12、 9/30、10/24	1/27
4	地球温暖化対策WG	第1・3回 第2回	再生可能エネルギー全量買取り制度動向 地球温暖化対策動向、電力需給対策報告	3回	4/26、10/3	1/24
5	省エネフォローアップ小委員会	第1回 第2回 第3回	フォローアップ調査結果集計結果検討 フォローアップ調査結果まとめ、LCI調査 次期環境自主行動計画フォローアップ調査準備	3回	6/21、9/15	3/6

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日		
				H23年	H24年	
国際部会						
1	国際部会	第1回 第2回	IOMAGC、2WGの平成22年度活動・平成23年度 活動計画 IOMAGC、2WGの平成23年度活動中間報告他	2回	5/24、11/16	
2	IOMA		IOMA、理事会、GC：東京	1回	11/1	
3	IHC対応WG	第1回 第2～4回	平成22年度活動・平成23年度活動計画、IHCプロ ジェクト対応 IHCプロジェクト対応	4回	6/1、7/26、 10/19	1/25
4	IHC国際会議	第1回 第2回	第29回IHC国際会議：米国ボルチモア(CGA主催) 第30回IHC国際会議：タイバンコク(AIGA主催)	2回	9/2～4	2/29～ 3/2
5	H2SeAHTF会議	第1回 第2～9回	キックオフ会議 前回宿題の検討、内容の検討	9回	5/17、6/21、 7/28、8/31、 10/7、11/1、 12/12	1/17、 2/23
6	O2InertAHTF	第1回 第2～6回 第7回	キックオフ会議 前回宿題の検討、内容の検討 最終会議	7回	8/9、9/8、 10/5、11/11	1/12、 2/16、 3/23
7	O2CAHTF	第1回 第2～4回	キックオフ会議 前回宿題の検討、内容の検討	4回	11/29	1/18、 2/8、 3/14
8	LCPAHTF	第1回 第2～3回	キックオフ会議 前回宿題の検討、内容の検討	3回	12/15	1/26、 3/15
9	規制改革WG		規制改革要望の検討	4回	4/12、6/20、 9/14	2/6

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
特殊ガス企画委員会・技術WG					
1	平成23年度定時代表者会議	平成22年度活動報告、平成23年度活動計画	1回	4/27	
2	統計作成TF会議	平成23年特殊材料ガス、標準ガス販売統計	2回		2/24、 3/14
3	技術WG会議 第1回 第2～5回 第6回	平成23年度活動計画 JIS Z7250：2005対応イエローカード 平成23年度活動まとめ、平成24年度計画	6回	4/13、6/17、 9/2、10/20、 12/16	3/22
4	標準ガスチーム会議 第1回 第2・4回 第3回	標準物質協議会対応、㊦刻印検討 RFタグ、㊦刻印検討 RFタグ、標準物質協議会対応検討	4回	6/14、8/29、 12/15	3/16
5	NF3例示基準検討委員会会議	NF3例示基準検討	8回	4/28、5/26、 6/13、7/20、 8/10、9/15、 9/30、12/16	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
水素企画委員会・技術WG					
1	平成23年度定時代表者会議	平成22年度活動報告、平成23年度活動計画	1回	4/18	
2	水素技術WG会議 第1回 第2回 第3回 第4回	平成22年度活動報告、平成23年度活動計画 水素ガス消費基準 研修(神鋼機器工業)、水素ガス消費基準 平成23年度活動報告、平成24年度活動計画	4回	4/22、8/26、 11/18	3/16
3	水素技術WG事務局会議 第1回 第2回	平成23年度上期活動、今後の予定、消費基準 平成23年度活動報告、平成24年度活動計画	2回	6/30	3/16
4	水素ガス消費基準編集会議	水素ガス消費基準	3回	9/28、12/15	1/16

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
溶解アセチレン技術WG					
1	溶解アセチレン技術WG会議 第1回 第2回	大日本アガリニューアル工場見学会 ISO規格定期見直し、日本の意見集約 3.11震災状況の情報交換 他 イエローカード、容器イエローカード検討 ISO国際会議結果の確認報告 JIS定期改定の検討 KHK・容器マス認証試験委員選出の件	2回	7/21～22、 12/16	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
炭酸ガス技術WG					
1	炭酸ガス技術WG会議	第1回 JIMGA各部会・WG活動状況報告 イエローカード、容器イエローカードの検討 現場力強化：非定常作業管理に関する事例紹介 第16回炭酸ガス保安講習会開催の検討 第2回 JIMGA各部会・WG活動状況報告 第16回炭酸ガス保安講習会開催要領の件 第3回 JIMGA各部会・WG活動状況報告 イエローカード、容器イエローカードの検討・アセチレン事例紹介 第16回炭酸ガス保安講習会開催具体案検討、PPt炭酸事業所「年間定修状況」取りまとめ 第16回保安講習会・PPt(案)の協議調整 第4回 JIMGA各部会・WG活動状況報告 第5回 第16回保安講習会・PPt(案)の協議調整 生肉包装用「酸素+二酸化炭素」に関する件 JIMGA各部会・WG活動状況報告 第6回 第16回保安講習会・PPt(案)の協議調整、第2部提案 平成24年度炭酸ガス技術WG「総会」準備の件 JIMGA各部会・WG活動状況報告 第7回 第16回保安講習会・PPt(案)の協議調整、第1部ファイナル化 平成24年度炭酸ガス技術WG「総会」の件	7回	8/24、10/18、 12/20	1/25、 2/17、 3/28、 4/25

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H23年	H24年
地域本部事務局長会議					
1	事務局長会議	1. 理事会・評議員会(11月24日)の報告 ①規程の制定及び改正 (1)技術審議委員会規程の制定 (2)就業規則の一部改正 ②入会希望事業者の審査 ③会員の現況 2. 医療ガス部門技術審議委員会 ①委員の委嘱について ②第1回委員会の開催について 医療用ガスに関する製造管理及び品質管理基準の承認 3. その他 ①大規模災害時の対応・対策	1回		1/11
2	本部長・事務局長会議	1. 昨年秋の豊田会長の地域本部訪問時の要望等に対する対応・対処 (医療) ・防災協定の締結の推進 ・MGR制度のPR ・MGR制度について ①第5回試験結果 ②更新時講習の開催 (産業) ・RFタグの普及 ・容器代徴収(使用料、延滞料) ・国際整合化 2. 内部監査 ①結果報告と対応 ②平成24年度以降の実施方針 3. その他	1回		1/11

産業ガス部門延べ会議回数 201回

1. 産業ガス部門、医療ガス部門共通課題

(1) コンプライアンスの徹底、当業界・製品の社会インフラとしての重要性を内外に訴えること、及び電力問題への取組み。

* コンプライアンスについては、会議、打ち合わせでの徹底や必要に応じて弁護士の立会、指導を得ること。

* 社会インフラについては、医療分野、食糧及び復興に向けた資材の生産現場、或いは原発での水素爆発防止用の窒素封入、サプライチェーンの一つであること、あらゆる分野で必要不可欠な物資、分野、即ち「社会インフラ」であることの重要性を、広報活動、記者会見を通じて繰り返し訴えてきたが、引続き社会的な役割や安定供給確保の重要性を訴える。

* 電力問題は今後も長期的課題であり、電力集約型産業であることの理解を得ること。産業・医療ガス業界としては、これまでも消費電力原単位の改善や、省エネ推進に積極的に取り組んできたが、国内電気料金は国際的に見ても割高で、国際的競争力維持や生産活動維持が自助努力だけでは対処が厳しい状況を広報活動で説明。今夏の電力不足に対しては昨年同様「夏期電力対策タスクフォース」を立上げ、経済産業省、資源エネルギー庁、厚生労働省に計画停電、制限緩和処置の適用、共同使用制限スキームの採用を要請中。

援するために以下の取組みを行う。今年度は、医療ガス部門にも活動範囲を拡大。広報委員会は両部門を管掌範囲とし、広報活動を更に強化する。

① ウェブサイトの内容の充実。ウェブサイトの各ページを見直し、改訂を実施する。特に出版物のページ等整理が必要なページを洗い出し、分かりやすいページの作成に努める。

② 産業ガスレポートの発行。活動・事業の記録書として、活動・事業の報告、重要課題への取組み、トピックス、統計データ等の内容で、9月中旬と3月中旬の年2回発行する。

③ JIMGA newsの発行。協会解説、ニュース等の通信紙として、活動、事業のダイジェスト、ニュース、会員紹介の内容で、年6回偶数月の月末に発行する。

④ マスコミへの発信。協会の動向や意志を協会トップや役員から直接発信するべく、記者会見や記者懇談会などを通じて、情報発信の機会をより一層広げ、パブリシティの充実を図る。6月、11月の年2回を定例記者会見とする予定。適時臨時記者会見を開催し、情報発信を行う。

(2) 医療ガス部門との広報活動の強化。社会インフラとしての産業・医療ガスの認知度の向上と、ワンボイスでの情報発信により広報活動を強化する。

2. 広報委員会

(1) 協会が果たす社会的責任やコンプライアンスへの取組みを的確に情報発信し、協会の地位向上を図り、協会全体の事業活動を支

3. 企画部会

(1) 各WG間での情報を共有し、保安確保のための活動を継続する。

(2) 自治体からの容器管理指針発行支援、RFタ

グ普及推進、容器賃貸借契約の推進等を行う。全溶連及び単位組合との連携を更に密にし、容器問題等の解決に取り組む。

(3) 長期停滞容器回収推進WG

- ① 平成23年度の成果、方向性を継承しつつ課題を設定する。各種ツールの整備を引続き行うと共に、業界に完成したツールの利用を促す。
- ② 各地で発行された「容器管理指針」や昨年度改訂した契約書のモデルをウェブサイトに掲載する等活用方法を検討し、PRに努める。
- ③ 地域行政の「容器管理指針」発行について、未だ発行されていない行政に対する取組みを更に強化し、官民一体となった保安体制を推進させる。

(4) グリーン物流WG

- ① 地球環境問題を広義に捉え、業界として取組み可能な課題を取り上げ、幅広く議論する。
- ② 液化ガスローリーのCNG化検討。日本ガス協会もしくは会員会社のCNG走行結果から導入・実運用について検討する。
- ③ CO₂排出量統計の実施。CO₂排出量統計を実施して結果を考察し、更なるCO₂削減策を模索する。

(5) 容器処理WG

- ① 今年度からは「高圧ガス容器特別回収プロジェクト」との合同会議のみの活動とするが、WGとして解決すべき課題が発生した場合は随時会議を開催する。

(6) 容器RFタグ運営委員会

- ① 引続きStep4課題の管理・解決、及び共有を図りながら活動を推進、改善実施。また、医療用小容器と特殊ガス容器に装着するRFタグの開発を依頼する。
- ② 各地域本部が選出した「RFタグ採用候

補ディーラー」へ導入を働きかけて実績をつけ、全溶連への啓蒙を加速させる。

- ③ 電波法改正に伴う950MHz帯から920MHz帯への周波数移行に向けた準備。産業ガス業界が不利益を被ることがないように課題を整理し、ソフトバンクと交渉する。
- ④ ISO規格化に向けた取組み。平成24年7月にベルギー/ブリュッセルにてIT技術者による検討会の開催が決定。JIMGA案をベースに検討するため、技術SWGが中心に対応を予定。

4. 技術審議委員会

JIMGAの活動の中心である技術、保安、環境、安全等に関し、上程案を審議する。

5. 技術・保安部会

- (1) 各WG間の情報を共有し、技術・保安に関する検討を推進する。
- (2) 容器技術WG
 - ① ISO/TC58 国内委員会活動。委員会への参加と基準原案の検討を行う。
 - ② TC58/SC4 国際会議へ参加する。
 - ③ 容器自動認識 (RFID) のISO規格原案に日本案を反映させる。
- (3) 超低温貯槽WG
 - ① JIMGA自主基準の制定。
 - ② 国内法関連では、引続き高圧ガス保安法及びKHK基準等を詳細に検討、規制改革案件を抽出し、国際部会と共同で経済産業省保安課と直接折衝する。
 - ③ ISO TC220委員会への参加とTC220関連基準検討。従来のOメンバーからPメンバー（投票権保有）へ移行のための活動を継続する。
- (4) 充てん技術WG
 - ① 東日本大震災を踏まえた「充てん工場の

地震対策改訂版」の上程を行う。

- ② 「カードル技術指針」の内容を検討する。

(5) 保安対策WG

- ① 「高圧ガスローリー乗務員保安指針」の地域での講習会実施を継続する。
- ② 「CE自主保安検査基準」の内容検討、KHKとの協調を行う。
- ③ 業界共用の災害時緊急用医療ガス供給のためのローリー/CE充てん用カップリングを開発する。

(6) 教育・研修WG

- ① eラーニング「水素の安全な取扱い」をウェブサイトに掲載する。セミナーなどでPRをし、ガス業界やJIMGAの理解向上につなげる。
- ② 新規課題で炭酸ガス eラーニングの内容を検討する。

(7) 溶解アセチレン技術WG

- ① 地震対策の再考、容器の転倒、流出など地震・津波対策に関し、東日本大震災の経験を生かした防災を考える。
- ② 溶解アセチレン容器、RFタグの普及情報解析と問題点などを検討する。
- ③ 水酸化カルシウム(カーバイドスラリー)再利用の検討。カーバイド残渣の中和剤以外の新たな用途、スラリーの脱水技術等を検討する。
- ④ JIS見直し作業。日本規格協会との意見交換・調整。
- ⑤ 規格、基準類の見直し検討。容器、充填、管理のISO標準化に関して調査と対応。

(8) 炭酸ガス技術WG

- ① 第16回炭酸ガス保安講習会開催年度、各地域本部のフォロー作業を行う。
- ② 炭酸ガス関連規程類の制定。「炭酸ガスローリー乗務員保安指針」、「CE自主保安検査基準」の策定検討を行う。
- ③ 食品衛生管理者の資格要件緩和へ対応する。

(9) 特殊ガス企画委員会及び特殊ガス技術WG

- ① 自主基準、技術指針並びにJIS Z 7250 : 2005対応MSDS、同イエローカードの普及に努める。
- ② NF₃の規制強化について、昨年に引続き経済産業省原子力・安全保安院保安課と適正な保安の確保を図れるように折衝する。
- ③ JIS Z 7250 : 2005対応容器警告表示ラベルの要否を検討する。
- ④ 国際部会IHCWGの国際統合化ドキュメント「セレン化水素の安全な取扱い」の作成に全面的に協力する。

(10) 水素企画委員会及び水素技術WG

- ① 「水素ガス消費基準」の消費者講習会を全国5ヶ所で実施予定。
- ② 「GHS対応水素ガスイエローカード」、「GHS対応水素ガス警告表示ラベル」の普及活動を行う。
- ③ 平成24年度圧縮水素仕向け別・荷姿別出荷実績、集計表、並びに平成25年度水素プラント定期修理計画表を作成する。

(11) 安全統計WG

- ① 事故情報の収集及び原因分析を行い、ウェブサイトに掲載する。
- ② 労働災害統計を引続き実施。分析を行い、災害防止に活用する。
- ③ 産業ガス業界の労働災害を中心としたヒヤリハットを収集し、内容を検討・分析して事例集を作成する。

(12) ヘリウム技術WG

- ① 「液化ヘリウム取扱い指針」に物性、MSDSの内容を織り込み、教育資料として改訂を行う。
- ② 液化ヘリウムの輸出入及び航空機輸送に関する情報の収集と検討を行う。
- ③ ヘリウムバンドルの安全対策について検討する。

6. 環境・安全部会

- (1) 3WGとの連携を密にして活動する。震災後のエネルギー政策の見直しと地球温暖化対策関連法案の動向をフォローし、電力多消費産業の立場から対応する。
- (2) 環境保全WG
 - ① 省エネルギーの更なる取組みと電力需給対策への対応。環境自主行動計画フォローアップ調査。参加65社(セパレート62社、液化炭酸3社)。
 - ② JIMGA節電・省エネ事例集を更に充実させて改訂を行う。
 - ③ 日本経団連「低炭素社会実行計画」への取組みとフォローを行う。
- (3) 化学品安全WG
 - ① GHS対応MSDS及びラベルについて、引き続き整備と啓蒙・普及に努める。
 - ② 酸素・窒素・アルゴンのJIS改訂に向けて検討する。
 - ③ 改正化審法や危険物輸送など化学品安全に関する情報収集と会員への提供。
- (4) 地球温暖化対策WG
 - ① 引続き主要三法(地球温暖化対策税、再生可能エネルギー全量買取り制度、国内排出権取引)をめぐる政策審議、法制化の動きをフォローし、業界としての意見・要望を取りまとめ、政策に反映すべく活動する。
 - ② 日本経団連「低炭素社会実行計画」、地球温暖化への対応と情報収集を行う。
 - ③ 産業9団体、日化協等の産業団体との連携を図る。

7. 国際部会

- (1) IHC対応WG、規制改革WGの2WGとの連携
台湾THPGIAとの技術交流会予定：昨年度、大震災等の影響で延期となったが、今年度改めて開催予定。IHC国際会議、IOMAへ

の対応。特に来年3月には、JIMGA主催でIHC国際会議を開催予定。

- (2) IHC対応WG
 - ① IHC完了のプロジェクトのJIMGA自主基準化を推進する。
 - ② IHC検討中及び新規プロジェクトへ積極的に参画する。
 - ③ 対象案件が多くなってきたので、次の三段階に分類することを決定。
*今まで通り日本語に完訳。
*重要部分のみ和訳。
*英文をそのままとしてJIMGAのアーカイブドキュメントとする。
 - ④ 従来から検討していたプラットフォームのアップグレードの導入による、IHC活動のコンピューター自動化を開始する。
- (3) 規制改革WG
 - ① 規制改革要望事項の発掘、募集、内容審議、官への提出、折衝、実現に向けての行動。今後、経済産業省との直接の折衝により、より多くの規制改革要望の実現を目指す。“材料試験における曲げ試験の表裏区別の緩和”“超低温容器の膨張測定試験の廃止”及び“CE及びその他の超低温貯槽の耐圧試験に使用する流体の明記”に就き、直接の対話を開始する。
 - ② 海外の規則、基準の調査、情報の発信。
 - ③ 会員への周知・PR。要望事項の経緯、成果の周知。

8. 地域本部との一体運営

- (1) 本部と地域間の双方向の情報・連絡の発信や共有化を図る。
- (2) 地域本部でのセミナー、講習会の実施、RFタグの普及推進、長期停滞容器回収について、共同で取り組む。

9. その他

(1) 平成24年夏季電力供給削減への対応

削減率が大きい近畿、九州における、削減協力のための取組み内容について協会内で意思統一を図り、課題を整理。また、計画停電の対象から当業界会員を外すよう関係官庁へ要請予定。

(2) 再生可能エネルギー全量買取り制度での減免適用

賦課金0.22円/kWですが、減免を関係官庁へ働きかけ、経済産業省より原則80%の減免適用の認定を受けることで交渉予定。

(3) 東京電力(株)の値上げへの対応について

3月29日、電気料金の値上げについて、4月1日以降も従前の料金で支払いをすることが原則であると表明した。その後、東京電力(株)に従前の金額で支払うことができないことが判明。供託について法務局に確認したが、今回の値上げに関する事項は供託としてそぐわないとの回答があり、今後の対応を以下のように決定した。

【対応内容】

各社は東京電力(株)の請求金額を当面全額支払うものとする。但し、「規制料金が認可され、その後見直された自由化の新料金と4月1日以降支払った金額との差額分について、年10%の割合による利息を付してご返金頂くこととする」との条件付きの支払いである旨の内容証明を東京電力(株)へ送付する。

【内容証明の送付時期】

* 電気需給契約はしていないが、東京電力(株)から請求書が送られてきた場合。支払いの際に内容証明を提出する。

* 電気需給契約申し込みを行い、東京電力(株)から契約書が送られてきた場合。契約書に捺印し、東京電力(株)に返却する際に内容証明を提出する。

(4) 会費検討WGについて

① 会費見直しの目的

- 1) 前回の一部改定から5年経過し、見直すタイミングである。
- 2) 売上高の変化や業界内で統廃合・状況変化等が起こっており、それらを総合的に洗い直す必要がある。
- 3) JIMGA産業ガス部門の事業目的、事業内容の再検討を行い、会費と収益構造の検討・点検を行う。
- 4) ここ数年、一部の会員の退会が発生しており、その原因の分析、防止策、特に会費に起因するかどうかの分析を行う。
- 5) 業界で未加入会社を洗い直して加入をお願いし、会員数の増加につなげる。
- 6) 総務部会の傘下に会費検討WGを3月に設置。

② 現行会費決定までの経緯

- 1) JIGA当時の平成16年に組織・財政WGで会費を検討。
- 2) 現在の会費基準の骨格は、産業ガスレポート Vol6(2004年秋号 p.14)に記載されたものがベースとなっている。これが平成17年4月1日から、「組織・会費基準の改定について」ということで実施されている。
- 3) 平成18年～19年にかけて会費検討WGで会費を検討。
- 4) 平成19年4月1日に一部改定。

③ WGメンバー会社

大陽日酸(株)、日本エア・リキード(株)、岩谷産業(株)、エア・ウォーター(株)

④ スケジュール

3月13日、4月4日、5月2日の3回にわたり検討。今後の予定は6～7月にWG案を策定。その後、総務部会に上申する。

会員の現状、今後の主要日程

1. 会員の現状

平成24年4月1日現在

	医療ガス部門	産業ガス部門	合計
正会員 [※]	773社	305社	1078社
賛助会員	0社	23社	23社
海外会員	0社	5社	5社
合計	773社	333社	1106社

※正会員社数は議決権を表す。

2. 今後の主要日程

	開催年月日	開催場所
平成24年度 第2回産業ガス部門・医療ガス部門 合同理事会・評議員会	平成24年11月28日(水)	メルパルク大阪
平成25年 JIMGA新年賀詞交歓会	平成25年1月11日(金)	東京會館
平成25年度 産業ガス部門 理事会・評議員会合同会議	平成25年5月22日(水)	東京會館
平成25年度 定時総会	平成25年6月12日(水)	東京會館

同窓会とヒッグス粒子

JIMGA代表監事 岩崎 廣和

車窓からぼんやりと景色を眺めながら、45年前のことを思い出していた。高校入学後まもなくの頃のこと、隣町の中学校出身のK君と話した時のことだ。彼は数学がとてとても得意とのうわさで、なんとなく気になっていた。その彼が最初に発したのは、「岩崎君、光と同じ速さで走りながら隣を走る光を見るとどんなふうに見えると思う？」という問いであった。「なんだって？光から光を見ると…？光は止まっている？止まっている光って…？」、「あ～、降参！」

数日後、アインシュタインの相対性理論のことだと知った。これから高校の数学・物理を学ぼうというときに、15歳で相対性理論とは…。東京など都会であれば、ハイレベルの情報交換が行われる場もあるだろうが、「ああ白雲の谷深く、都の塵(チリ)も通い来ぬ…」と校歌の歌詞にあるような、南信州の田舎にそんな場はない。今とは違って、パソコンもインターネットなどももちろんなく、情報源は新聞、雑誌、テレビ、ラジオ程度である。相対性理論を理解していた先生もいたかどうか。

もともと好きだった科学への興味をさらに深くしてくれたきっかけを作った、あの時のことを思い出させたのは、還暦を祝う高校の同窓会に向かう途上であったことと、科学雑誌Newton7月号で「素粒子の世界」を読んだばかりであったからだ。

Newtonは、「ヒッグス粒子の発見間近」を

伝えていた。ついにヒッグス博士が提唱した素粒子の質量獲得に関する仮説が証明される！

自然界最小の素粒子を知ることは、自然界最大の宇宙のはじまりを知ることになる。いわば己の尾を飲み込む“ウロボドスの蛇”のような感じでおもしろい。K君から相対性理論を知った時と同じわくわく感があった。

同窓会は卒業以来の顔もあって、ぎこちなく自己紹介から始まる場所もあったが、まもなく打ち解け、高校時代の愛称で呼び合い、方言で語り合う大懇親会となった。



後列右から3人目が筆者

そして、驚いたことに、歌詞を見ないで校歌の大合唱ができた。歌詞は、「この山川のうちにこそ、誠の丈夫いずるなれ／操守は堅く意気猛く、世の風潮と戦いて／理想は高く知慮深く、精華を揚げん美をなさん」と続く。校歌に恥じない生き方をしてきただろうか？と自らに問いながら…。

高校時代というのは身体も頭脳も心も大

躍進を遂げる時期だと思う。同窓生との語らいで、皆がその思い出を共有し拡大していった。酒も進み、それはバラしちゃあいけないだろう！という場面もあったが、今では全て良い思い出。語らいは深夜まで続いた。

そんな輪に加わりながら、残念ながら欠席したK君ならヒッグス粒子の発見間近について何を語るだろうか？と考えていた。

同窓会からおよそ三週後の7月4日、“ヒッグス粒子発見”のニュースが世界を駆け巡った。

Newtonの素粒子特集はまさにタイムリーな企画で、科学の進歩を俯瞰できる人たちがいることを知らされた思いである。

普段は科学に縁遠いマスコミもトップニュースで扱い、解説もしばらく続いた。本屋ではいつもは目立たない棚にある素粒子や宇宙に関する本が平積みになっている。一杯飲み屋で昔の理科好きおじさんが宇宙を語っているのを見るのも楽しい。

「都の塵も通い来ぬ」我が故郷も、中央自動車道の開通などで交通の便は良くなり、コンビニや全国チェーンの店が多く出店するようになった。インターネットのおかげで情報の入手は瞬時にできる。

そして、いよいよリニア中央新幹線が開通するという。人も情報も塵もどんどん通い来る時代になる。

新たな時代の後輩たちは校歌をどんな気持ちで歌うのだろうか？時代に合わなくなった歌詞を変えようということになってしまうのだろうか？



…都の塵も通い来ぬ…

喜寿を祝う同窓会はリニア開通の後となる。時代が大きく変わっていく中で、歳はとっても気持ちは高校時代に戻ってしまう仲間との楽しい語らいが目に見えなくなる。

心身のリフレッシュと言うが、私にとって同窓会は心のリフレッシュであり、科学の進歩に触れるのは頭のリフレッシュである。

K君に今度会う時には聞いてみよう、「ヒッグス粒子の発見で宇宙はどこまで解明されると思う？真空って一体なんだと思う？暗黒物質、ダークマターって？・・・」。

K君は今度も私の頭をリフレッシュしてくれると思う。



技術・国際ニュース



1. 技術・保安部会

容器技術 WG

今年度は容器に関するISO規格の改訂や新規規格化案件に関する検討を中心に活動しています。

1月に開催されたISO/TC58/SC4 MEETINGにおいて、日本はUHF帯RFタグのJIMGA仕様についてプレゼンテーションしましたが、この仕様をISO21007-2に反映させるため、SC4/WG6にIT技術者を含む小委員会が設置されました。JIMGAではRFタグ運営委員会の協力を得て、7月18日にEIGA (Brussels) で開催された小委員会に参加しています。

現状のISO21007-2には、LF帯あるいはHF帯を前提とした可変長フォーマットによるRFタグの仕様のみが規格化されています。一方、近年導入実績が増えているUHF帯RFタグは、長い通信距離や早い通信速度に特徴があり、一括読み取りの利便性も実用化の検討がなされています。WG6の小委員会では、このUHF帯タグの日本国内での普及状況と、固定長フォーマットを採用したJIMGA仕様をベースとしたISO規格案について議論しました。

容器技術WGでは、今後提示される予定のCD案について対応するとともに、RFタグに関するWGメンバーのスキルアップを計画しています。

超低温貯槽 WG

平成24年度、当WGは下記の事項について重点的に活動する計画です。

(1) 自主基準の作成

昨年度のねじはめ輪に関する成果を反映させるべく、CE・ローリー関係基準 (JIMGA-T-S/11/08) を改訂します。

(2) 規制改革要望の抽出・実現

昨年度と同じく、高圧ガス保安法の特定則・同

例示基準等を詳細に検討し、基準に不合理があった場合、外国基準の引用も含め対応を検討して行きます。特に今年度からは関係省庁に対して直接、規制改革要望を提出して行きます。

(3) ISO/TC220 (超低温貯槽) への参画

従来のOメンバーからPメンバーへの移行のための活動を継続します。また、TC220国際会議にも積極的に参加し、情報の収集・発信、ISO規格への日本意見の反映に努めます。

(4) 高圧ガス販売事業者保安セミナーでの講演

四国、東海、北海道他各地域本部において、CEの構造と安全な取扱い、日常巡回点検記録表への記載要領、液化ガス充填用フレキシブルホース取扱い指針等について講演を行います。今年度も積極的に本セミナーでの講演活動を継続して行きます。

充てん技術 WG

4月18日に定例会議を開催し、新年度の活動計画を「カードル技術指針」の作成、「充てん工場の地震対策指針」の改訂並びに工場見学研修と決定し、活動を進めています。指針の作成並びに改訂作業は、別途作業部会を立ち上げ、6月5日、7月13日と精力的に部会を開催して進めています。当WGとしては「充てん工場の地震対策指針」の改訂を優先して進めることとしたため、「カードル技術指針」の作成は、今期の完成は無理だと判断いたしました。

尚、地震対策指針の改訂は、9月には成案とし、関係各所のご確認を頂いた後、11月の技術審議委員会へ上程したいと考えています。

また、下期の活動予定は、各社のご協力を頂きながら、11～12月頃、当WGの第二回定例会議と工場見学研修を予定しています。

保安対策 WG

CE(液化酸素、液化窒素、液化アルゴン、液化炭酸ガス)の自主保安検査指針については、その骨子が完成し、現在、高圧ガス保安協会が策定を検討しているCEの保安検査基準(KHKS)に反映して行く予定です(JIMGA内に上記の活動を専門に行うためのタスクフォースの設置を検討中)。

また、新たなテーマとして、大規模自然災害発生時に病院等への医療用酸素の供給が滞りなく実施できるための標準ジョイントの配備についての検討をスタートしました。

「高圧ガスハンドブック(改訂版)」については、技術審議委員会(5月15日)で発刊報告を実施しました(7月末現在での発行部数は累計8335冊)。

教育研修 WG

(1) e-ラーニング個別ガス編への取組み

昨年、JIMGAホームページにリリースした教育用教材【高圧ガスの安全基礎知識】に引き続き、個別ガス編として【水素の安全な取扱い】を作成し、6月にリリースしました。会員企業向けの教育用としてだけでなく、一般ユーザーにも産業ガスの基礎知識の習得や危険性、取扱い方法について知ってもらうことを目的にしており、安全に関する注意事項、事故事例等を盛り込んだ内容になっています。

現在、個別ガス編第2弾として【炭酸ガス】を取上げ、炭酸ガス技術WGと連携し、来年6月リリースに向けて検討を進めています。

安全統計 WG

今年度も、事故情報の収集と活用、労働災害統計調査、高圧ガス関連事故の分類・解析、安全ニュースの発行に取り組んで参ります。

今年度は、ヒヤリハットアンケート報告を会員の皆様よりご提出頂き、ヒヤリハット事例集に取りまとめることを予定しています。

(1) 平成23年の労働災害について

労働災害データ提出事業所数は増加傾向にあり、平成23年は217社と過去最多です。災害発生時の作業内容としては、容器、ドラム、小コンテナの手作業時に発生したものが最も多くなっています。

(2) 平成23年の高圧ガス災害について

高圧ガス災害については、地震の影響を除けば前年より僅かに減少傾向にあります。災害現象としては例年同様、漏洩・破裂・火災が事故件数の約9割と大部分を占めています。

今後共、事故・災害情報の収集と分析を行い、会員の皆様に提供をして参りますので、ご協力をお願いいたします。

ヘリウム技術 WG

(1) 「液化ヘリウム取り扱い指針」改訂について

「液化ヘリウム容器(デュワー容器)の安全確認(自主点検)に関する指針」が昨年度完成したことを受け、現行の「液化ヘリウム取り扱い指針」に、安全確認、物性、MSDS、ラベル等の内容を織り込んで内容を充実させ、対象を会員会社のユーザー、社員に向けたものとし、改訂に取り組んで参ります。

(2) デュワー容器での液化ヘリウムの輸出入と航空機輸送に関する情報収集について

容器メーカーへのヒアリング、IATA規定の調査等を実施し、情報収集及び勉強会により、ヘリウムコンテナによる液化ヘリウムと同様の扱いが必要であることを確認しました。

(3) カードルの安全対策について

現状のカードルの状況を調査し、充てん技術WGと連携を取りながら継続して安全対策が図れるよう取り組んでいます。

(4) ヘリウムに関する技術情報、海外情報の収集と共有化について

今後も各種情報収集に努め、引続き共有化が図

れるよう取組んで参ります。

炭酸ガス技術 WG

平成24年度がスタートし、JIMGA役員改選に合わせて炭酸ガス技術WGの委員も役割分担が交替となりました。

WG長は、昭和電工ガスプロダクツ(株)、日本液炭(株)、エア・ウォーター炭酸(株)の3社で2年毎の輪番となっており、今年度から日本液炭(株)の越部氏が新WG長となりました。WG長はJIMGA技術・保安部会並びに国際部会の委員を担当するので、昭和電工ガスプロダクツ(株)澤田氏より、バトンタッチをしました。

折しも平成24年度は、3年毎に開催されてきた炭酸ガス保安講習会の第16回開催年度に当たります。関係地域本部炭酸ガスグループとの調整の上、本年度も従来通りの開催を目指す、との総意で昨年度からその諸準備に取りかかっています。従来は炭酸ガス業務WGが中心に取りまとめていましたが、JIMGAの組織改編から今開催は炭酸ガス技術WGが調整役となっています。

各地域本部の「共通で使用できる講習会資料を準備して欲しい」との要望を受け、毎月の定例会議を開催し、7月にそのパワーポイント資料集を地域本部に提供することができました。

各地域本部での講習会スケジュールは以下の通りです。

- 9月26日 九州地域本部(福岡商工会議所)
- 11月7日 関東地域本部(大田区産業プラザ)
- 11月9日 東北地域本部(仙台ガーデンパレス)
- 11月14日 東海地域本部(愛知県産業労働センター)
- 11月16日 近畿地域本部(大阪府商工会館)
- 11月20日 中国地域本部(広成ビル)

溶解アセチレン技術 WG

溶解アセチレン技術WGは、これまでと同じ野

村WG長体制で平成24年度も活動展開することになりましたが、サーンテック(株)の社内人事の関係から、大橋委員に代わり中村委員が着任されました。委員総数10名のWGです。

今年度の主たるテーマに、カーバイド残渣の有効利用とアセチレン事業所の地震対策を挙げ、取組みを開始しました。カーバイド残渣に関してはこれまでも度々テーマ化しましたが、アセチレンの生産量減少に伴い、ひっ迫性が薄れていた感があります。しかし、いざという場合の備えとして“どのような策があるか”を検討しておく意義は有用で、この度、有姿のサンプルを「川口総合GC」より提供願い、「赤見製作所」の『ラジカル炉』で直接乾燥・焼成処理を行う試験を開始しました。中間報告では十分に再利用可能な粉状の乾燥消石灰や高活性生石灰が得られ、近々立会試験も計画しています。

一方、東日本大震災から1年半程が経過し、震災に対する考え方も落ち着いて判断できる状況となったことから、全国に39事業所あるアセチレン生産工場の大地震・大津波に対する備え・考え方を整理すべく、現状がどのような状態にあるか8月発信にてアンケートを募り、「アセチレン事業所の地震・津波対策」を取りまとめる考えです。

水素技術 WG

平成24年度は、昨年度着手した「水素ガス消費基準」の改訂を継続しています。最終チェックが終了し、間もなく発刊の予定です。今回の改訂では、水素に関連する法改正および基準等の図書類との整合を図り、水素ガス消費者の立場に立ったわかりやすい内容とすると共に、新たに液化水素の項目を追加しました。平成25年2月と3月に関東・東海・近畿・中四国・九州の各ブロックにて、この「水素ガス消費基準」改訂版の講習会を予定しており、現在サブWGにより講習会用資料の作成に取り組んでいます。

また、本年度も4回のWG会議を計画しており、8月31日の第2回WG会議では、新エネルギーモデルタウン稚内市の新エネルギーサテライトを訪問し、風力発電と連携した燃料電池設備等を見学して会員会社の技術・知識向上を図ります。

特殊ガス技術 WG

(1) 特殊材料ガスのイエローカード改訂について

昨年度見直しを実施した77種類の特殊材料ガスイエローカードについて平成24年5月15日、第1回技術審議委員会に上程し、承認されました。イエローカードのファイルはCD-Rで会員各社に配布されますので、各社のルートで普及を図るようお願いいたします。

(2) GHS対応ラベル作成について

JIS Z 7253:2012対応ラベルを作成予定ですが、内容や進め方を検討中です。

(3) 国際部会への協力について

AHTF(特別小委員会)に委員を派遣し、昨年度からの継続案件である「H₂Seの安全な取扱い指針」について、6月末で和文ドキュメント作成が完了しました。下期技術審議委員会に上程する予定です。

(4) RFタグについて

特殊ガス容器へ採用するには厳しい条件がありますが、今後も委員を派遣し、取組みを進めます。

(5) NF₃対応について

NF₃に係る一般則及びコンビ則関係例示基準の改正に関して、JIMGA要望案を保安課に提出していましたが、6月27日から関係例示基準の改正が施行されました。

2. 環境・安全部会

環境保全 WG

2011年の原子力発電所事故の影響により、太陽光発電などの再生可能エネルギー導入が進められていますが、電力不足解消に至っていません。今

後地球温暖化抑制活動である省エネルギー活動の一環として「節電活動」が重要となります。これまで会員各社からアンケート方式で省エネルギー事例を募集し、その結果をまとめて2004年度、2007年度に「省エネルギー事例集」として発刊してきました。本年度は「節電活動」を追加し、会員各社から節電・省エネルギー事例を募集して取りまとめを行います。

JIMGAは日本経団連の「環境自主行動計画」に、日本化学工業協会(日化協)を通して参加しており、2013年以降の次期行動計画「低炭素社会実行計画」にも参加します。本年度は産業ガス業界の「ガス酸素・窒素」、「液化酸素・窒素」、「液化アルゴン」、「液化炭酸ガス」の生産エネルギー使用実績、グリーン物流WGが集計した液製品輸送(タンクローリー)エネルギー使用実績をLCIデータとしてまとめ、「産業ガス業界の環境自主行動計画フォローアップ調査」報告書として日化協を通して日本経団連に提出します。

化学品安全 WG

酸素・窒素・アルゴンに関するJIS改訂の検討を行っています。現在のJIS記載の分析は、分析方法や装置など実情にそぐわないものもあり、分析方法について各社の分析担当者の意見などを確認中です。

また、平成24年4月に施行された『危険有害性化学物質に関する有害性情報の表示』(労働安全衛生規則)や平成24年3月制定のJIS Z 7253『GHSに基づく化学品の危険性有害性情報の伝達方法』など化学品の有害性表示に関する新たな法規定に関し、事業所に掲載するポスター作成(例)などを通じて周知する活動を検討中です。

地球温暖化対策 WG

政府は、去る6月29日「エネルギー・環境に関する選択肢」を公表し、2030年に向けたエネル

ギー・環境政策について、3つのシナリオを提示しました。今後、同「選択肢」について国民的議論を行ったうえ、8月に「革新的エネルギー・環境戦略」を決定するとしています。「電力集約型産業」である当業界においては、エネルギーが経済性のある形で安定的に供給されることが不可欠です。今回の「選択肢」は、電源構成(原発比率、再生可能エネルギー比率等)、CO₂削減量のみ集中しており、経済への影響等については懸念されます。エネルギー・環境政策の在り方は、国民生活や企業活動に大きな影響を与えます。地球温暖化対策WGでは、今後の政府動向に注視し、情報の収集、適切な情報発信を産業ガス業界の立場から対応して参ります。

2013年からスタートする日本経団連の「低炭素社会実行」に参加しますが、削減目標のフォロー、LCA(ライフサイクル評価)の透明性・信頼性の確保等、今後の動きに日本化学工業協会と連携して対応すると共に、データレビューして参ります。

3. 国際部会

IHC対応 WG

5月15日開催の技術審議委員会において、以下の2件の国際統合化(IHC)ドキュメントがJIMGA基準として承認されました。

『シリンダー内部腐食の検出と防止』

: JIMGA-T-S/79/12

本プロジェクトは、技術・保安部会において内容検討、並びに和文化され、JIMGAのドキュメントとしても適切である、との判断からJIMGA産業ガス図書目録に6月から掲載されています。

『酸素と不活性ガスの安全な放出』

: JIMGA-T-S/80/12

本プロジェクトは、IHC対応WG内に設置されたAHTF(特別小委員会)で鋭意検討されて完成したドキュメントで、同じく6月からJIMGAの産業ガス図書目録に掲載されています。

承認された2件以外に、現在もAHTFにおいて4件のIHCドキュメントが検討中ですが、来年一杯で完成させる必要のあるプロジェクトは、改訂版も含め20件弱にも上ります。これらのドキュメントを完成させるため、今後も新たにAHTFを立ち上げてプロジェクトを推進する必要があります。皆様のご協力を必要とする場合が多々あると思いますので、ご理解、ご協力の程よろしく願います。

昨年京都で開催する予定だったIOMAの総会は、東日本大震災並びに福島原子力発電所の事故のため中止となり、2014年に延期されることになりました。本年は11月に南米チリのサンティアゴにて開催される予定で、IHC貢献者として京都の総会で表彰される予定だった元エア・ウォーター(株)の鷺頭様は改めてこのサンティアゴでの総会に招待されています。

規制改革 WG

規制改革WGでは、会員各社からの要望を推進すべく課題推進プロジェクトを組織し、活動をしています。現在規制改革要望については、内閣府が窓口となって要望を受け、関連各省庁において検討されています。これは春と秋の原則年2回で行われており、JIMGAからは今年、『食品添加物二酸化炭素の製造に関わる食品衛生管理者の見直し』の要望を日本経団連経由で提出しました。恐らく8月か9月にその結果が出るのではないかと予想しています。

上記とは別に、直接経済産業省保安課にJIMGAとしての規制改革要望を3件提案し、話し合いを進めています。これについては未だ具体的な成果が出ていませんが、JIMGAとしては今後この直接対話に力を入れて活動して行く方向で、8月にも新たな課題を含めて話し合う予定です。新たな課題とは、『酸素充てん容器の定期点検』、『在宅液化酸素装置の製造届出に関する要件緩和・見直

し』及び『超低温容器用容器弁(付属品検査受検品)の弁本体以外の組立部品一式交換』の3件を予定しています。

フレキシブルホースの保安検査に関する告示見直しは、4月30日のパブリックコメントを反映し、6月29日に告示が改訂施行されました。本件は非常に長い間の対応となりましたが、ここに完了することとなりました。

窒素指定設備老朽化対策については、経済産業省にて水素ステーションの案件を優先して作業されており、現状作業が進められていない状況です。

特殊ガス技術WGが中心となって対応してきた

保安規則関係例示基準の一部改正、即ちNF3に関しては、5月16日から6月15日までパブリックコメントが行われました。

規制改革要望については、課題推進プロジェクトを中心に進めています。前記したように、現状日本経団連経由で内閣府に提出する要望(国民の声)並びに所轄官庁やKHKと直接折衝する案件等を平行して進めています。

いずれの案件についても、資料等十分な準備が必要であり、会員各社のご協力なくして進めることは難しいため、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



鉄鋼、化学、電子、食品、医療、エネルギー等
産業界のあらゆる分野に貢献する超低温機器メーカー

エーテック株式会社

製造品目

- 液化ガス貯槽(コールド・ニッパボレーター)
- 液化ガスタンクローリー
- 移動式大型液化ガスコンテナ
- 可搬式小型低温容器
- 真空断熱配管
- 航空機用機組器具
- 宇宙間運ガス機組システム



会社概要

●商号	エーテック株式会社	●株主	岩谷産業(株)	90%
●設立	1986年10月		岩谷瓦斯(株)	6%
●資本金	4,000万円		日本エア・リキード(株)	4%

2011年7月より、日本エア・リキード株式会社の低温機器販売部門と統合し、産業ガス及びエネルギー分野での有力企業である岩谷産業グループの一員としてスタートしました。

 <p>エーテック株式会社 URL: http://www.a-teck.co.jp</p>	本社・明石製作所	〒674-0093 兵庫県明石市二見町南二見20番地1	TEL. (078)941-8822	FAX. (078)949-2029
	東 京	〒105-8458 東京都港区西新橋3-21-8	TEL. (03)5405-5820	FAX. (03)5405-5705
	名 古 屋	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-23-20	TEL. (052)961-5782	FAX. (052)961-7018
	大 阪	〒541-0053 大阪府中央区本町3-6-4	TEL. (06)7637-3133	FAX. (06)7637-3388

エーテック株式会社は、鉄鋼、電子、食品、医療、エネルギー等産業界のあらゆる分野で幅広く使われている酸素、窒素、アルゴン、水素、炭酸ガス等の産業ガスを、安定した状態で安全に貯蔵・輸送するための超低温貯槽・タンクローリー等の機器を開発設計・製作しています。

特に、日本における超低温機器のリーディングメーカーとして、品質と信頼性において顧客満足度の高い製品を提供することを第一とし、技術開発と生産に取り組んでいます。

地域本部の活動報告

北海道地域本部

1. 定時総会

日時：平成24年5月18日（金）16:50～17:40

会場：札幌全日空ホテル 23階「白樺の間」

議 題

- 第1号議案 平成23年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成23年度収支決算報告承認の件
- 第3号議案 平成24年度事業計画（案）承認の件
- 第4号議案 平成24年度収支予算（案）承認の件
- 第5号議案 北海道地域本部役員の改選の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

平成23年度入会会員について

本部出席者

副 会 長 高松 久雄
専 務 理 事 豊澤 幸平
常務執行役員 加藤 尚嗣

藤原本部長挨拶

本日はお忙しい中、本総会にご出席賜りありがとうございます。

さて、早いもので東日本大震災から1年以上経過しました。この大震災発生翌日から全国の会員が一致団結して、医療用酸素ガスを被災地に緊急輸送するなどのあらゆる対応を行い、産業ガス・医療ガスの安定供給に努めて参りました。改めて生産・物流を担う業界として、役割の重要性が認識されたことと思います。昨年度、北海道地域本部の活動の中でも、東日本大震災の発生を受け、「充てん工場の地震対策指針の解説」保安セミナーを開催しました。会員の皆様には準備段階

から運営にご協力頂き、また多くの方がセミナーにご参加頂きました。改めてご協力に感謝申し上げます。

北海道地域本部として、産業ガス部門は「地震・震災に関する保安セミナー」を開催し、一層の保安啓蒙活動に努めて参ります。また、本部が推進しているRFタグについて、北海道地区での更なる容器管理の徹底のために普及促進活動の強化を図ります。医療ガス部門は、昨年から引続き「MGR講習会」を実施し、MGR制度の拡充を図ると共に北海道においても災害時の医療ガスの供給に関する協定締結に向けて活動して参ります。

今後、更なる活動を通して品質の改善向上、関連法令の周知徹底等に努め、当協会が安全かつ適切な産業ガス・医療ガスの提供に寄与する団体であることを社会的に広く周知し、業界の社会的評価を高める必要があると考えています。

我々を取り巻く環境として、北海道でも7%の節電要請があると報じられています。今後、具体的内容が電力会社から提示され、各企業や家庭でどう対応するか考える場面になってきています。仕事を完遂する中で電力問題は避けて通れない今年度の大きな問題です。皆様方の意見をお聞きし



藤原本部長挨拶

ながら、業界及び地域の発展のために取組んで参りたいと思いますので、今後共ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

高松副会長挨拶

日頃は、JIMGAの活動にご支援、ご協力頂き、改めてお礼を申し上げます。

昨年度を振り返りますといろいろなことがありました。震災がもたらした原発事故と電力不足をきっかけに日本のエネルギー政策の在り方が根本から議論されています。特に東京電力の値上げは電力多消費産業である我々の業界で年間約60億円もの大幅なコストアップとなり、事業の存立基盤を脅かすものです。また、仮に同様の値上げが全国に波及すると、その影響額は約170億円にも及び、企業努力だけで吸収することは不可能です。そこで、JIMGAは値上げが発表されて以来、東京電力や経済産業省、資源エネルギー庁へ値上げ幅圧縮を求めて参りました。産業・医療ガス業界としては、これまで消費電力原単位の改善や、省エネ推進に積極的に取組んできましたが、国内電気料金は国際的に見ても割高で、自助努力だけでは厳しい状況であるからです。

さて、今年度 JIMGA の取組みとして、産業ガス部門は「保安の強化・推進」、「RFタグの普及推進」、「環境への取組み強化と電力問題への対応」、「国際

統合化」、医療ガス部門は「事故対策」、「国際統合化」、「MGR制度の拡充」、「地域防災協定締結の促進」というそれぞれ4つの課題を進めて参ります。

両部門共通の課題としては、「コンプライアンスの徹底」、「産業ガス・医療ガスの社会インフラ及びライフラインとしての重要性を社会の皆様にご理解頂くこと」の2点です。

これらの課題は、地域本部の皆様方と一緒に取組む案件がほとんどです。皆様の協力なくして JIMGA の活動は成り立ちません。とりわけ北海道地域本部の皆様方には、従来以上にご協力、ご支援を賜りたく、この場をお借りして改めてお願い申し上げます。

最後に、本日ご出席の皆様方のますますのご健勝とご発展、また各会社の発展隆盛を祈念して、挨拶とさせていただきます。

豊澤専務理事挨拶

日頃から北海道地域本部には、JIMGAの活動にご協力頂き、感謝申し上げます。

私の方からは、電力問題と広報活動の2点についてJIMGA本部の取組みをご説明します。

電力問題については、「夏季電力対策タスクフォース」を主要エアセバガスメーカー6社にて立上げました。経済産業省、資源エネルギー庁、厚生労働省に対しては、「計画停電の取り止め」、「制限令が出た場合の制限緩和措置の適用」、「共同使用制限スキームの採用」の3点を要請しています。厚生労働省からは、関西電力、九州電力、北海道電力において具体的に該当するのはどこかリスト提出の要求がありましたが、政府のスタンスが流動的であるため、今後の対応についても日々状況が変化しています。

広報活動については、豊田会長も強化することを発言されており、JIMGAとしても社会インフラとしての産業ガス・医療ガスの重要性を社会の皆様方にも広くご認識頂きたいと考えています。



高松副会長挨拶

産業・医療ガスが、社会に役立っていることを少しでも認識して頂けるように、どんどん情報発信して行きたいと思います。産業では「産業ガスレポート」、「JIMGA news」、医療では「会報医療」を発行していますが、今後もっと積極的に社会に対して露出して行きたいと考えています。

最後になりますが、いつもJIMGAの活動にご協力頂き、感謝申し上げます。今後共よろしくお願いたします。



総会風景

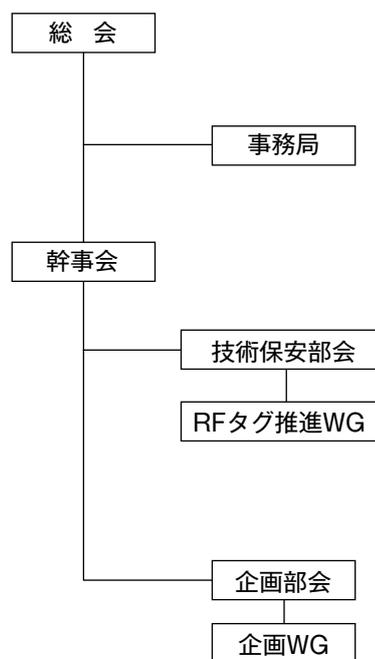
2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

北海道地域本部の今年度の重要課題は、保安の啓蒙・強化です。毎年開催している保安啓蒙のセミナーを、今年も北海道溶材商業会との共催で開催する予定です。今年のテーマは、「e-ラーニン

グ(基礎知識編、水素編)」、「ローリ関係 フレキホース+ねじはめ輪」を予定しています。テーマによって、製造だけではなく販売関係に従事されている方にも広くご参加頂き、知識・技術の習得と保安啓蒙を推進しています。

また、RFタグ普及推進のために最新情報の提供及び普及準備のための説明会やセミナーを企画開催し、普及活動を推進しています。その他に高圧ガスに関連する設備等の視察会を開催し、会員の交流を図ります。今年の視察は、秋に産総研のメタンハイドレート実験施設等の視察を予定しています。

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同(平成24年7月1日現在)
役員



本部長
曾我部 康
エア・ウォーター(株)
取締役北海道支社長

- | | | | |
|------|-------|--------------|-------------------------------------|
| 幹事 | 佃 淳一 | 日北酸素(株) | 代表取締役社長 |
| 幹事 | 乾 隆 | 函館酸素(株) | 代表取締役社長 |
| 幹事 | 中川 学 | 日本エア・リキード(株) | 北海道支店長 |
| 幹事 | 柴田 宏 | 東邦アセチレン(株) | 札幌事業所長 |
| 幹事 | 片岡 伸行 | エア・ウォーター(株) | 総務部
事業所管理グループリーダー(札幌)兼 経理部(札幌)部長 |
| 会計監事 | 久我 圭吾 | 日北酸素(株) | 常務取締役 |

技術保安部会 (RFタグ推進WG兼務)

- | | | | |
|-----|-------|----------------|------------------------------|
| 部会長 | 柴田 展良 | エア・ウォーター(株) | 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー |
| 委員 | 石川 隆一 | 日北酸素(株) | 技術部 部長 |
| 委員 | 中山 稔 | 函館酸素(株) | 製造技術部 部長代理 |
| 委員 | 鈴木 浩二 | 日本エア・リキード(株) | 恵庭工場 次長 |
| 委員 | 渡辺 幹雄 | 東邦アセチレン(株) | 札幌事業所 技術課 課長 |
| 委員 | 三浦 克仁 | 高圧ガス工業(株) | 札幌営業所長 |
| 委員 | 野村 真澄 | 北海道アセチレン(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 高橋 健 | 大陽日酸(株) | 北海道支店長 |
| 委員 | 大内 直也 | 日本液炭(株) | 北海道支店長 |
| 委員 | 土田 恭裕 | 北海道エア・ウォーター(株) | 保安技術部 技術グループリーダー |
| 委員 | 三浦 岳 | 共同炭酸(株) | 工場長 |
| 委員 | 横山 則美 | 苫小牧共同酸素(株) | 工場長 |

企画WG

- | | | | |
|----|-------|----------------|-------------------------------|
| 委員 | 柴田 展良 | エア・ウォーター(株) | 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー |
| 委員 | 山中 能生 | エア・ウォーター(株) | 産業カンパニー産業ガス関連事業部 エアガス部(札幌) 課長 |
| 委員 | 石川 隆一 | 日北酸素(株) | 技術部 部長 |
| 委員 | 加藤 展弘 | 函館酸素(株) | 設備工事部 部長 |
| 委員 | 籠池 智 | 日本エア・リキード(株) | 北海道支店 係長 |
| 委員 | 渡辺 幹雄 | 東邦アセチレン(株) | 札幌事業所 技術課 課長 |
| 委員 | 土田 恭裕 | 北海道エア・ウォーター(株) | 保安技術部 技術グループリーダー |
| 委員 | 高橋 健 | 大陽日酸(株) | 北海道支店長 |
| 委員 | 唐崎 直文 | 日本液炭(株) | 北海道支店 副参事 |
| 委員 | 山本 和彦 | 北海道アセチレン(株) | 工場長 |
| 委員 | 小南 繁和 | 高圧ガス工業(株) | 札幌営業所 主任 |
| 委員 | 遊佐 紀男 | エア・ウォーター炭酸(株) | 札幌支店長 |
| 委員 | 横山 則美 | 苫小牧共同酸素(株) | 工場長 |
| 委員 | 三浦 岳 | 共同炭酸(株) | 工場長 |

注)平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

東北地域本部

1. 定時総会

日時：平成24年5月24日（木）15:45～17:00

会場：ホテルメトロポリタン仙台

議 題

第1号議案 平成23年度事業報告および収支決算の承認を求める件

第2号議案 平成24年度事業計画および収支予算(案)の承認を求める件

第3号議案 役員改選の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

本部出席者

副会長 小池 哲夫

常務理事 篠塚 賢藏

執行役員 和田 彰

山口本部長挨拶

東北地方の景気は、復興需要があるため鋼材関連がよくなってきており、特に自動車関連の需要が好調で、製造業全般としては持ち直しているように思われます。一方、沿岸部では残念ながら、なかなか復興の道は開けていないようで、今後一層の復興推進が望まれています。

JIMGA東北地域本部の活動ですが、産業ガス部門としては、まず放置容器の撲滅に取り組んでいきたいと思えます。また、東北としては遅れ気味のRFタグの導入を促進して行きます。昨年度東日本大震災の影響で中止した北3県向けのRFタグ説明会を6月に開催します。会員の皆様には、是非ともご理解、ご協力を頂きたいと思えます。

医療ガス部門の活動では、在宅医療酸素の事故が続いているので、事故防止のため取扱いに関する周知を徹底して行きます。また、MGR資格制

度の定着に向けても引続き努力して行きたいと思えます。東日本大震災の経験から、災害時の医療ガス緊急供給についての大切さが改めて認識されました。各県との間の緊急供給協定の締結や改定を行い、よりよいものにして行きたいと思えます。

最後に、本日お集まりの皆様のみまますのご発展を祈念申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

来賓ご挨拶

関東東北産業保安監督部 東北支部

柏木 広憲 殿

東北地方の経済は、東日本大震災後、厳しいながらも穏やかに持ち直していると思えます。しかし、原油高の影響やヨーロッパの財務危機再燃があり、電力供給制約や原子力発電所災害の影響、デフレの影響、雇用情勢の悪化等があり、楽観を許さない状況でもあります。経済産業省では、エネルギー基本計画の見直しを行っており、原子力発電への依存度低減のため、省エネルギー、再生可能エネルギーの普及拡大、分散型エネルギーシステムの実現、天然ガス利用へのシフト等の検討を行っています。

高圧ガス保安では、東日本大震災を踏まえた高圧ガス施設等の地震・津波対策を取りまとめています。一般高圧ガス保安規則やコンビナート保安規則適用事業所に対して震災後にアンケート調査等を行い、今後の大震災対策をまとめました。一例としては、ハード面の対策として地震防災遮断弁の設置、ソフト面の対策として事業者ごとに津波被害想定を作成して地方自治体と情報を共有し、ガス漏洩や容器流失防止対応を行うこと等があります。今後、技術基準や危害予防規程の中で、事業者に対策を求めて行くこととなります。

関東東北産業保安監督部東北支部としては、関

係団体や高圧ガス事業者各位と連携して高圧ガス保安活動に全力を上げて取組んで参りますので、皆様にはより一層のご協力を頂きたくお願い申し上げます。



定時総会風景

2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

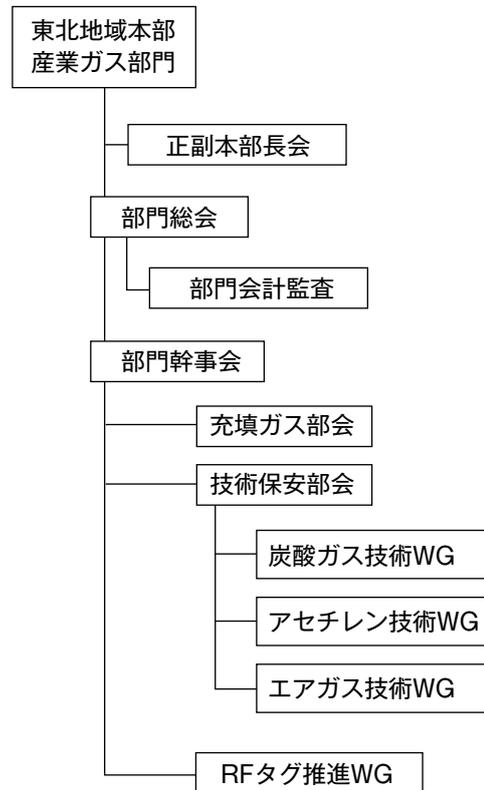
(1) 保安対策の推進

- ・ 高圧ガス保安法及び関連法規の周知とその遵守
- ・ 協会自主基準、ガイドライン、指針の普及及びセミナー開催
- ・ 長期停滞容器の回収と放置容器の撲滅

(2) 各部会、技術WG活動の推進

(3) 関係公官庁及び関係団体との連携強化

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同(平成24年7月1日現在)
役員



本部長
山口美紀生
大陽日酸(株)
執行役員 東北支社長



副本部長
大場 正仁
山形酸素(株)
代表取締役社長



副本部長
久保田正夫
東邦アセチレン(株)
代表取締役専務執行役員



副本部長
梶原 克己
エア・ウォーター(株)
執行役員 東北支社長

- | | | | |
|------|-------|--------------|------------|
| 幹事 | 丸山 信 | 日本エア・リキード(株) | 東北支店長 |
| 幹事 | 加藤 尊康 | 高圧ガス工業(株) | 東北地区長 |
| 幹事 | 伊達 久顕 | 上毛天然瓦斯工業(株) | 仙台営業所長 |
| 幹事 | 今福 實 | 第一開明(株) | 代表取締役社長 |
| 幹事 | 相場 栄利 | (株)相場商店 | 代表取締役社長 |
| 会計監事 | 熊谷 孝嘉 | 岩手工業(株) | 代表取締役社長 |
| 会計監事 | 山先 聡 | 日本液炭(株) | 執行役員 東北支社長 |

充填ガス部会

- | | | | |
|----|-------|---------------|----------|
| 部長 | 葛西 信二 | (株)東酸 | 代表取締役社長 |
| 委員 | 工藤 良一 | (株)工藤酸素店 | 代表取締役社長 |
| 委員 | 相場 栄利 | (株)相場商店 | 代表取締役社長 |
| 委員 | 吉田 等 | 太平熔材(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 今福 實 | 第一開明(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 笠井 昭彦 | 北良(株) | 取締役会長 |
| 委員 | 大場 正仁 | 山形酸素(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 泉田 実 | (株)福島共同ガスセンター | 常務取締役工場長 |
| 委員 | 梶原 克己 | 東北エア・ウォーター(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 伊藤 武彦 | カガク興商(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 江良 昌三 | 荘内ガス(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 桜井 幸和 | 仙台日酸(株) | 常務取締役工場長 |

技術保安部会

- | | | | |
|----|-------|-------------|-----------|
| 部長 | 鈴木 富雄 | 大陽日酸(株) | 東北支社 技術部長 |
| 委員 | 玉井 義明 | 太平熔材(株) | 保安管理部 次長 |
| 委員 | 中村 成伸 | 北日本アセチレン(株) | 工場長 |
| 委員 | 村上 晃也 | 岩手工業(株) | 専務取締役 |
| 委員 | 越後 啓一 | (株)東酸 | 取締役製造部長 |
| 委員 | 長岡 貢司 | 山形酸素(株) | 保安部長 |
| 委員 | 進藤 昌一 | 荘内ガス(株) | 取締役技術部長 |
| 委員 | 桜井 幸和 | 仙台日酸(株) | 常務取締役工場長 |
| 委員 | 原田 敏兆 | 日本液炭(株) | 技術サービス課長 |

委員	河原 祐路	東邦アセチレン(株)	執行役員生産・技術本部 副本部長
委員	吉田 馨	仙台アセチレン(株)	取締役工場長
委員	佐藤 哲	カガク興商(株)	配送センター所長
委員	篠原 静夫	東北エア・ウォーター(株)	保安技術グループリーダー
委員	泉田 実	(株)福島共同ガスセンター	常務取締役工場長

炭酸ガス技術WG

グループ長	只野 英仁	昭和電工ガスプロダクツ(株)	関東・東北支店 副主事
委員	小田島秀樹	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(東北駐在)
委員	寺田 和廣	エア・ウォーター炭酸(株)	品質保証室 課長
委員	伊達 久顕	上毛天然瓦斯工業(株)	仙台営業所長
委員	原田 敏兆	日本液炭(株)	技術サービス課長

アセチレンガス技術WG

グループ長	齋藤 祐輝	東邦アセチレン(株)	技術部長
委員		北日本アセチレン(株)	
委員		大陽日酸(株)	
委員		岩手工業(株)	
委員		仙台アセチレン(株)	

※委員は検討案件に合わせて、各委員会社より選任する

エアガス技術WG

グループ長	逸見 正	大陽日酸(株)	東北支社 業務部長
委員		東北エア・ウォーター(株)	
委員		東邦アセチレン(株)	
委員		(株)仙台サンソセンター	
委員		(株)大平洋ガスセンター	
委員		秋田液酸工業(株)	
委員		日本エア・リキード(株)ジャパン・エア・ガシズ社	
委員		(株)いわきサンソセンター	
委員		岩谷産業(株)	
委員		小池酸素工業(株)	
委員		北日本酸素(株)	

※委員は検討案件に合わせて、各委員会社より選任する

RFタグ推進WG

推進責任者	山口美紀生	大陽日酸(株)	執行役員 東北支社長
推進責任者	大場 正仁	山形酸素(株)	代表取締役社長
推進責任者	久保田正夫	東邦アセチレン(株)	代表取締役専務執行役員
推進責任者	梶原 克己	エア・ウォーター(株)	執行役員 東北支社長

注)平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

関東地域本部

1. 定時総会

日時：平成24年5月16日（水）16:50～17:20

会場：ホテル JALシティ田町 東京 「瑞祥の間」

議 題

第1号議案 平成23年度事業報告の承認を求め
る件

第2号議案 平成23年度収支報告の承認を求め
る件

第3号議案 平成24年度～25年度の役員選任
の承認を求めめる件

第4号議案 平成24年度事業計画（案）の承認
を求めめる件

第5号議案 平成24年度収支予算（案）の承認
を求めめる件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認
された。

報告事項

第3号議案で承認された新幹事の役職について

本部出席者（合同懇親会）

会 長 豊田 昌洋

専務理事 豊澤 幸平

平峯本部長挨拶（要旨）

昨年は、国内では東日本大震災とその後の原発
問題、海外ではタイの洪水、ヨーロッパ通貨危機、
円高問題と大変厳しい年となりましたが、本年も
我が産業ガス業界にとっては、更なる厳しい状況
となっています。

平成23年度は、5回のセミナー・講習会を開催
し、延べ260名の方々に受講して頂きました。部
会・グループ例会では活発な討議が行われ、技術
担当者中心の組織・活動が定着したことを実感し



平峯本部長挨拶

ています。

経済環境が厳しい中ではありますが、本年もセ
ミナー・講習会を開催し、所属会員・顧客・消費
者への高圧ガスに関する知識習得を支援し、「事
故ゼロ」・「安全・保安の確保」を主たる活動目標
に掲げて、一層の努力をして行きたいと思えます。
この秋には「第16回炭酸ガス保安講習会」が開催
予定です。

本年度も、会員皆様のご支援、ご協力を賜りま
すようお願い申し上げます。

懇親会

小池代表地域本部長挨拶

定時総会後の理事会で関東地域本部の新しい役
員が選任され、今年度の代表本部長に就任いたし
ました小池でございます。

昨年の東日本大震災から1年以上経ちましたが、
未だ傷跡は色濃く残り、放射能汚染の終息には
まだまだ長い時間が必要です。また、原発停止
を理由に東京電力が電気料金の値上げを行って
いますが、計画通りの値上げとなれば、産業分野は
もとより個人の生活も大きな影響を被ることは明
らかです。とりわけ電力集約型産業の典型である
産業・医療ガス業界は、存立の危機ともいえる状
況に陥ることが懸念されます。

このような窮地にあって、JIMGA本部が東京

電力、経済産業省に電力料値上げの抜本的な見直しを要請していることは大変力強く、東電管内で事業を行っている我々も強力に本部をサポートして行くことが必要だと考えます。

関東地域本部は、今年度も組織の中核としてJIMGAの活動に積極的に参画し、産業・医療両分野の共通課題として、ガスの製造・充てん・使用における事故の撲滅を目指した保安体制の強化に取組み、「保安講習会の開催」を行います。その他に産業ガス部門では、「容器RFタグの導入促進」と「放置・不明・長滞容器の撲滅」を、医療ガス部門では、「災害時における防災協定の締結」、「MGR制度の充実」などをテーマに、役員一丸となって活動を展開して行きたいと思いません。

会員の皆様には、引続き絶大なご支援とご鞭撻をお願いし、私の挨拶とさせていただきます。



総会風景

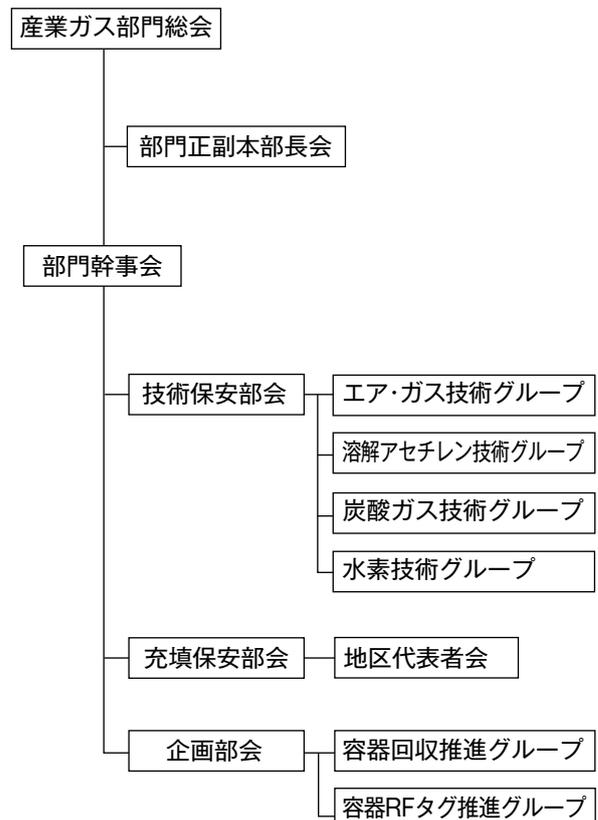


合同懇親会での本島新本部長乾杯挨拶

2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

- (1) 地域における環境・安全・保安・技術等に関して、JIMGA本部と連携し、関東地域本部産業ガス部門構成員及び消費者に対する周知徹底と教育・広報・情報の収集等地域に則した活動を行う。
- (2) 自主保安の一層の充実を図る必要があることから、セミナー・講習会を開催し、本部一体となって事故発生防止に努める。
- (3) 所属会員相互の向上発展に資するため、会員間の意思疎通に努めると共に、各グループ間の連携を強化し、活動の充実を図る。
- (4) 容器RFタグの導入推進をJIMGA本部WGと協力して行う。
- (5) 企画部会容器回収推進グループ、地区毎の関連諸団体と共同で、放置容器・不明容器・長期停滞容器の回収を促進する。また、「容器管理指針」の発行を行政に働きかける。

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同(平成24年7月1日現在)
役員



本部長
本島 章夫
岩谷産業(株)
首都圏支社長



副本部長
武佐 正毅
エア・ウォーター炭酸(株)
取締役東京支店長



副本部長
佐波 充
相模アセチレン(株)
代表取締役



副本部長
野平 忠彦
エア・ウォーター・
ハイドロ(株)
常務取締役

- | | | | |
|------|-------|----------------|---------------|
| 幹事 | 白坏 隆文 | 日本エア・リキード(株) | 東日本地域本部 営業統括 |
| 幹事 | 黒木 幹也 | 高圧ガス工業(株) | 取締役東京事務所長 |
| 幹事 | 山本 恭弘 | 岩谷瓦斯(株) | 関東事業所長 |
| 幹事 | 熊川 薫 | (株)鈴木商館 | 取締役 営業本部 副本部長 |
| 幹事 | 野川 直也 | 昭和電工ガスプロダクツ(株) | 本部長付 主事 |
| 代表監事 | 大久保義孝 | 小池酸素工業(株) | 取締役東京支店長 |
| 監事 | 永田 實 | エア・ウォーター(株) | 取締役関東支社長 |

技術保安部会

- | | | | |
|------|-------|---------------|----------|
| 部会長 | 武佐 正毅 | エア・ウォーター炭酸(株) | 取締役東京支店長 |
| 副部会長 | 寺田 和廣 | エア・ウォーター炭酸(株) | 品質保証室 課長 |

エア・ガス技術グループ

- | | | | |
|--------|-------|---------------|--|
| グループ長 | 福永 直樹 | 日本エア・リキード(株) | 技術本部カスタマー・エンジニアリング部
カスタマーサービス 関東グループ長 |
| 副グループ長 | 大西 孝好 | 関東エア・ウォーター(株) | 管理部 部長 |
| 委員 | 梶野 昭彦 | 岩谷産業(株) | 環境保安部 保安担当 担当部長(首都圏駐在) |
| 委員 | 石坂 英一 | カンサン(株) | 高崎事業所 取締役 エアガス・リニユアル工場長 |
| 委員 | 長谷川正泰 | 小池酸素工業(株) | ガス部 生産・技術グループ 課長 |
| 委員 | 西間木邦夫 | 昭和電工(株) | 化学品事業部門 管理グループ長 |
| 委員 | 柄沢 直樹 | 太陽日酸(株) | 関東支社 技術部長 |
| 委員 | 細川 純一 | 太陽日酸東関東(株) | ガスビジネス統括本部 製造技術担当部長 |
| 委員 | 高野 義文 | 東京ガスケミカル(株) | 理事 産業ガス事業企画部長 |
| 委員 | 島田 寿郎 | 東京ガスケミカル販売(株) | 設備機器グループマネージャー |
| 委員 | 関 啓助 | 北国酸素(株) | 代表取締役 |

エア・ガス技術グループ(生産会社)

- | | | | |
|----|-------|---------------|------------|
| 委員 | 大山 武雄 | エア・ケミカルズ(株) | 常務取締役プラント長 |
| 委員 | 杉山 光 | 川崎オキシトン(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 茂浦 悦男 | (株)JFEサンソセンター | 取締役工場長 |
| 委員 | 河原 俊治 | 新相模酸素(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 大西 悦雄 | 新洋酸素(株) | 代表取締役社長 |
| 委員 | 田中 義隆 | (株)千葉サンソセンター | 代表取締役常務 |

委員	中村 耕輔	(株)ティーエムエアー	代表取締役社長
委員	森 敏夫	東京液化酸素(株)	取締役社長
委員	飯田 秀昭	東京酸素窒素(株)	代表取締役社長
委員	野口 行敏	長野液酸工業(株)	代表取締役社長
委員	福家 裕樹	(株)浜松エア・サプライ	常務取締役工場長

溶解アセチレン技術グループ

グループ長	杉岡 孝雄	高圧ガス工業(株)	神奈川工場長
副グループ長	堂元 美樹	小池酸素工業(株)	千葉工場長
委員	加藤 富康	岩谷産業(株)	環境保安部 担当部長
委員	澤田 秀則	神奈川合同アセチレン(株)	常務取締役工場長
委員	内田 徹	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	樺澤 繁樹	関東アセチレン工業(株)	常務取締役
委員	吉田 智徳	相模アセチレン(株)	製造部 課長
委員	橋本 孝二	(株)鈴木商館	営業統括室 部長
委員	新田 義浩	大陽日酸(株)	北関東支社 技術部長
委員	柳川 宗昭	田邊工業(株)	保安部 副係長
委員	勝井 基一	東海産業(株)	環境保安室長
委員	井上 敏廣	東京高圧山崎(株)	茨城工場長
委員	落合 久好	栃木共同アセチレン(株)	工場長
委員	内田 達也	エア・リキード工業ガス(株)	関東支社 東京営業所長
委員	小川 忠司	東日本高圧(株)	取締役総務部長
委員	若林 満	横浜ケミカル(株)	取締役製造部長

炭酸ガス技術グループ

グループ長	堂本 健	エア・ウォーター炭酸(株)	技術部 生産・技術グループ 次長
副グループ長	佐藤 孝	昭和電工ガスプロダクツ(株)	南関東支店 東京営業所 副主事
委員	加藤 富康	岩谷産業(株)	環境保安部 担当部長
委員	庄司 昭史	高圧ガス工業(株)	課長
委員	坂本 三夫	上毛天然瓦斯工業(株)	技術部製造課 係長
委員	行木日出男	東京ガスケミカル(株)	エアエンジニアリング・サービス部 部長代理
委員	神谷 利男	日本液炭(株)	関東支社 技術サービス課長

水素技術グループ

グループ長	時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	生産技術部長
副グループ長	吉岡 昭博	岩谷瓦斯(株)	千葉工場長
委員	梶野 昭彦	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(首都圏駐在)
委員	高橋 宏明	関東エア・ウォーター(株)	産業事業部 物流係
委員	西間木邦夫	昭和電工(株)	化学品事業部門 管理グループ長
委員	大山 裕之	(株)鈴木商館	生産部 部長
委員	柄沢 直樹	大陽日酸(株)	関東支社 技術部長
委員	半澤 卓也	新潟水素(株)	取締役 直江津工場 工場長
委員	澤田 庸介	丸由工材(株)	専務取締役
委員	安久井 満	(株)渡商会	保安管理部 部長

充填保安部会

部会長	佐波 充	相模アセチレン(株)	代表取締役
副部会長	熊川 薫	(株)鈴木商館	取締役 営業本部 副本部長

副部会長	鴨川 俊次	東邦酸素工業(株)	代表取締役社長
副部会長	松谷 厚雄	関東酸素工業(株)	専務取締役
副部会長	柳川 隆則	(株)宝山産業	代表取締役社長
委員	戸田 稔	千葉小池(株)	代表取締役
委員	阪田 亮	千葉エヌディーガスセンター(株)	常務取締役工場長
委員	茂垣 行雄	(株)星医療酸器	常務取締役 営業本部長
委員	瓦井 貞光	光酸素(株)	代表取締役会長
委員	村橋 正之	伊藤忠工業ガス(株)	神奈川支店長
委員	市村 博	市村酸素(株)	代表取締役
委員	四元 章	(株)市川総合ガスセンター	取締役工場長
委員	本島 章夫	岩谷産業(株)	首都圏支社長
委員	青山 光雅	城南共同酸素(株)	常務取締役
委員	川中子重男	北関東日酸(株)	常務取締役
委員	小山 博幸	北関東東洋(株)	取締役製造部長
委員	金子 茂男	小松川酸素(株)	代表取締役社長
委員	堀口 靖之	カンサン(株)	代表取締役社長
委員	内田 徹	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	橘 隆之	(株)カネコ商会	代表取締役社長
委員	杉野 邦夫	武蔵野ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	斎藤 常久	小野里酸素(株)	代表取締役
委員	白根 政明	(株)サイサン	取締役産業ガス部 部長
委員	福地 俊弘	埼京日酸(株)	取締役工場長
委員	島田 隆昭	(株)シマキュウ	代表取締役社長
委員	長谷川道明	東邦新潟(株)	代表取締役
委員	中川 裕義	東洋高圧ガス(株)	ガス事業本部 部長
委員	前後 隆信	東海産業(株)	代表取締役社長
委員	田邊 英	田邊工業(株)	代表取締役社長
委員	遠藤 治	(株)TOKAI	高圧栃木支店長
委員	山田 好夫	東横化学(株)	関東支社 相模原事業所 事業所長
委員	吉田 昌平	ヨシダ高圧(株)	代表取締役社長
委員	江角 勝行	フジオックス(株)	取締役ガス溶材部長
委員	田村 行正	城東日酸(株)	取締役工場長
委員	羽場 義人	岡谷酸素(株)	常務取締役 営業本部長
委員	松下 尚生	関東エア・ウォーター(株)	取締役産業事業部長 兼 東京支店長
委員	村野 行重	横浜ケミカル(株)	営業部長
委員	山本 剛士	静岡酸素(株)	取締役工場長
委員	三好 英二	太陽日酸東関東(株)	土浦営業所長
委員	安東 雅弘	東海溶材(株)	執行役員 ガス推進部 部長
委員	津田 篤文	東京高圧山崎(株)	専務取締役
委員	大寄 正吉	日東物産(株)	常務取締役
委員	栗屋 秀則	富士酸素工業(株)	常務取締役 ガス溶材本部 部長
委員	木澤 眞一	宮原酸素(株)	次長

地区代表者会

委員長	佐波 充	相模アセチレン(株)	代表取締役
副委員長	青山 光雅	城南共同酸素(株)	常務取締役
副委員長	柳川 隆則	(株)宝山産業	代表取締役社長
副委員長	川中子重男	北関東日酸(株)	常務取締役

正 委員	市村 博	市村酸素(株)	代表取締役
正 委員	田村 行正	城東日酸(株)	取締役工場長
正 委員	熊川 薫	(株)鈴木商館	取締役 営業本部 副本部長
正 委員	中川 裕義	東洋高圧ガス(株)	ガス事業本部 部長
正 委員	江角 勝行	フジオックス(株)	取締役ガス溶材部長
正 委員	松下 勝美	カンサン(株)	取締役インダストリ営業部 部長
正 委員	栗屋 秀則	富士酸素工業(株)	常務取締役 ガス溶材本部 部長
正 委員	大寄 正吉	日東物産(株)	常務取締役
正 委員	羽場 義人	岡谷酸素(株)	常務取締役 営業本部長
正 委員	橘 隆之	(株)カネコ商会	代表取締役社長
副 委員	金子 茂男	小松川酸素(株)	代表取締役社長
副 委員	鴨川 俊次	東邦酸素工業(株)	代表取締役社長
副 委員	木澤 眞一	宮原酸素(株)	次長

企画部会

部 会 長	野平 忠彦	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	常務取締役
副 部 会 長	時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	生産技術部長

容器回収推進グループ

グループ長	松下 勝美	カンサン(株)	取締役 インダストリ営業部 部長
副グループ長	保々 賢次	小池酸素工業(株)	城北支店長
委 員	芝好 秀明	日本エア・リキード(株)	東日本地域本部 工業事業部長
委 員	黒木 幹也	高圧ガス工業(株)	取締役東京事務所長
委 員	大西 孝好	関東エア・ウォーター(株)	管理部 部長
委 員	大橋 忠生	上毛天然瓦斯工業(株)	取締役 営業本部長
委 員	宮内 裕二	日本液炭(株)	関東支社 営業部 業務・物流課 副参事
委 員	大山 裕之	(株)鈴木商館	生産部 部長
委 員	井上 保	(株)渡商会	営業部 主任
委 員	柳川 隆則	(株)宝山産業	代表取締役社長
委 員	笠谷 宏	岩谷産業(株)	首都圏支社 副支社長 兼 横浜支店長
委 員	中川 裕義	東洋高圧ガス(株)	ガス事業本部 部長

容器RFタグ推進グループ

グループ長	神谷 利男	日本液炭(株)	関東支社 技術サービス課長
副グループ長	大西 孝好	関東エア・ウォーター(株)	管理部 部長
委 員	渡辺 敬一	太陽日酸(株)	関東支社 ガス営業部長
委 員	厚沢不二夫	小池酸素工業(株)	ガス部 営業課長
委 員	宮澤 源	東京ガスケミカル(株)	産業ガス事業企画 産業企画グループ マネージャー
委 員	長谷川正泰	小池酸素工業株(株)	ガス部 生産・技術グループ 課長
委 員	梶野 昭彦	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(首都圏駐在)
委 員	永野 訓司	高圧ガス工業(株)	情報システム事業本部 理事
委 員	原田 耕造	相模アセチレン(株)	常務取締役
委 員	田村 行正	城東日酸(株)	取締役工場長
委 員	青山 光雅	城南共同酸素(株)	常務取締役
委 員	内田 徹	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長

注)平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らか場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

東海地域本部

1. 定時総会

日時：平成24年5月8日(火) 16:00～17:20

会場：ホテル キャッスルプラザ

議 題

- 第1号議案 平成23年度事業報告の承認を求
める件
- 第2号議案 平成23年度収支決算の承認を求
める件
- 第3号議案 平成24年度事業計画の承認を求
める件
- 第4号議案 平成24年度予算の承認を求める件
- 第5号議案 平成24～25年度東海地域本部役
員選任の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

東海地域本部災害時マニュアルの制定について

本部出席者

- 代表監事 岩崎 廣和
- 専務理事 豊澤 幸平
- 常務理事 篠塚 賢藏

米田本部長挨拶(要旨)

ご多忙中のところ東海地域本部定時総会にご出席頂き、ありがとうございます。

昨年は東日本大震災、台風による大雨災害などの自然災害に見舞われ、また円高、欧州金融不安等の経済問題もあり、会員の皆様にとっても大変な1年でした。

高圧ガス事故は12年連続で増加しており、平成23年度は大台目の999件の事故が発生しています。事故撲滅のためには、高圧ガスに携わる各人

が自覚を持って予防保全を行う必要があります。

JIMGAには、産業ガス・医療ガス両部門共通の課題が2つ、部門別の課題がそれぞれ4つあります。東海地域本部では、JIMGAの課題をブレークダウンし、「①事故防止と法令遵守、②供給及び消費上の安全対策、③各種講習会の開催、④災害時対策の強化、⑤容器管理体制の強化」に取り組む、事故撲滅に努めて参ります。

この地域は東海・東南海・南海の連動地震が今にも起こるといわれていますので、災害時マニュアルの検討、連絡体制の構築、備蓄品の整備を進めてきました。マニュアルについては議案審議後の報告事項で説明しますので、災害時にお役立てください。

本日の総会では、活発なご意見を頂きながら議案審議を進めたいと思いますので、ご協力を賜りますようお願いいたします。



米田本部長挨拶



総会議案審議

来賓ご挨拶(要旨)**中部近畿産業保安監督部 管理課長****中島 賢吉 殿**

東海地域本部の定時総会が滞りなく終了したことをお祝い申し上げます。

東日本大震災から1年が経ち、やっと検証が始まったところです。震災だけでなく、円高、ユーロ安など諸々の大変な要因がある中で、日頃から保安についても取組んで頂いています。起業から20～30年で企業、100年経つと老舗といわれ、会社そのものがブランドとなってきます。是非とも皆さんの英知を集め、老舗になって頂きたいと思えます。そのためには、産業ガスの保安の確保が大切です。事故が増加傾向にある中で、保安の確保は地味な仕事ですが、総会で決められたことを着実に実行して行けば、明るい未来が広がります。

JIMGA東海地域本部の発展と会員の皆様のご健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。

来賓ご挨拶(要旨)**愛知県防災局 消防保安課 産業保安室長****村上 倫正 殿**

東海地域本部の定時総会が盛大に開催されたことを心よりお祝い申し上げます。

東日本大震災から1年余りが過ぎましたが、これまでに避難所への救援物資の提供、職員の派遣など応急処置を中心に支援してきました。今年度は生活圏の復興に向けた専門職の派遣など腰を据えた支援を進めて行きます。今日は、東海地域本部で災害時マニュアルができて心強い限りです。各企業においても、事業継続計画(BCP)や災害に対する備えをお願いします。

高圧ガスは、一般から産業、更に医療まで幅広く使われていますが、一度扱い方を間違えると大変な事故につながりますので、販売される皆さんは消費先の保安にも努めて頂きたいと思えます。県としては、協会と連携して高圧ガス保安行政を

進めて行きます。

JIMGA東海地域本部の発展とご出席の方々のご健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。

来賓ご挨拶(要旨)**愛知県健康福祉部 健康担当局 医薬安全課 主幹****渡邊 郁生 殿**

東海地域本部の定時総会が盛大に開催されましたことをお慶び申し上げます。日頃から本県の医療行政にご理解を頂き、ありがとうございます。また、災害用医療ガスの供給について格別のご協力を頂いており、厚く御礼申し上げます。

災害用医薬品の供給は平成11年6月に協定書を締結し、東日本大震災では復興支援にご協力を頂き、ありがとうございます。東海・東南海・南海地震を想定して、県の防災計画を見直しているところで、災害用医薬品の備蓄状況についても検討して行きます。

平成21年6月に薬事法が改正され、法の施行から3年以内の平成24年5月末日までに特例販売業から店舗または卸売販売業への変更が必要です。

愛知県の総合防災訓練が、防災対策の一環として9月2日に豊田市で行われますので、ご協力をお願いいたします。

ご出席の方々のご健勝とJIMGA東海地域本部の発展を祈念して、挨拶とさせていただきます。

来賓ご挨拶(要旨)**高圧ガス保安協会 中部支部 事務局長****青山 伸治 殿**

本日は東海地域本部の定時総会が無事に終了したことを心よりお慶び申し上げます。また、日頃はKHKの行事に大変お世話になっており、この場をお借りして御礼申し上げます。

昨年度は、震災、台風、洪水、長期にわたる円高などで、皆様方もご苦勞されたと思えます。KHKもリーマンショック以来、厳しい状況にあ

り、最近では高圧ガス事故のトラブル続きでもありました。高圧ガス事故は依然として高水準ですので、引続き皆様方の事故撲滅への取組みをお願いしたいと思います。また、緊急時への対応として、災害時の高圧ガス供給体制、事業継続計画（BCP）、災害時マニュアルに基づく訓練を引続きお願いします。山口県では高圧ガスの大きな事故が2件続いており、引続き注視しているところですが、皆様方も事故撲滅に注意をお願いします。

JIMGA東海地域本部の発展と皆様のご健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。

懇親会

岩崎代表監事挨拶（要旨）

昨年の東日本大震災が私共の業界にどのような影響を与えたか、よい点と悪い点、2つの観点でお話しします。震災そのものは非常に悲しい出来事でした。私共の事業所でも殉職者を出しましたが、そういったことを乗り越え、東北を救うためにビジネスや利害を度外視し、医療用酸素や保安用の窒素を送るといった取組みが行われました。企業業績から見るとマイナス部分が大きかったと思いますが、結果的には日本の皆様に産業ガス、医療ガスを「なくてはならないもの」として認識して頂けたことはよかったです。

震災後の原発停止問題では、「電力料金に跳ね返り、産業に大きな影響を与えとなれば業界として対応しなければならない」というのが、豊田会長が熟慮されて出された判断だったと受け止めています。東京電力の示した17%の値上げは、JIMGA会員に約60億円の影響があり、全国で見ると100億円以上の負担増という日本産業界全体の危機的な状況になります。また、稼働していない原子力関連費用を総原価から差し引くことは会計原則等からみても極めて妥当であり、値上げ幅は2.51円/kWhから0.9円/kWh以下に圧縮されます。復旧・復興のバックグラウンドには、このよ

うなことがあることをご理解ください。

産業ガス及び医療ガス部門においてはそれぞれ4つの課題があり、両部門共通では「コンプライアンスの徹底」、「社会インフラとして産業・医療ガスを社会に認めてもらうための活動」という2点が課題です。このJIMGAの方針に則り、今日の地域本部総会で確認した内容を力強く実施して頂きたいと思います。

最後に企業の皆様のご発展とご参会の皆様方のご健勝とご多幸をお祈りしまして、JIMGA代表の挨拶とさせていただきます。



岩崎代表監事挨拶

懇親会

南部副会長兼医療ガス部門本部長挨拶（要旨）

皆様のご協力で今年の総会も滞りなく終えることができましたことを厚く御礼申し上げます。

昨年3月の東日本大震災は未曾有の大惨事となり、東日本に深い爪痕を残しています。かねてより東海地震は30年以内に87%の確率で発生するといわれており、東海地域本部では災害時対策委員会を設け、災害時連絡体制の構築や備蓄品の配備を行い、災害時マニュアルも策定しました。災害時には速やかにご対応頂きますようお願いいたします。また本年度は、「供給体制」を構築すべく検討を進めて参ります。

平成21年6月施行の『改正薬事法』によって「特例販売業」の経過措置期間がこの5月末日で終了します。「特例販売業」で医療ガスを販売されている会

員の皆様は、早急に対応して頂く必要があります。

また、卸売販売業の販売先に懸案事項がありましたが、昨年7月に人命救護に使用するための医療用酸素は、有料老人ホーム、助産所、保健室等を含む事業者の販売できるようになりました。

本日承認・採択されました本年度の事業計画は、業界が抱える課題が盛り込まれています。皆様のご理解とご協力を頂くことによって課題を解決し、業界ひいては皆様の会社がますますご発展することを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



南部本部長挨拶

懇親会

坂本新本部長挨拶(要旨)

本総会で東海地域本部代表本部長に選任して頂き、これから2年間代表本部長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

我が国で高圧ガスの製造が始まって既に100年以上経過しますが、製造や消費過程における爆発・火災事故、呼吸用酸素の事故などが各地で散見され、残念な状況が続いています。JIMGAは、保安・安全などの重要な活動を通じて、事故の撲滅を目指して行きたいと考えます。特に東海地域は、日本の産業をはじめとした多方面の先進・中心地区ですので、当地域から率先して10年後、できたら5年後の事故ゼロを目標に活動を進めたいと思います。

最後に会員各社のますますのご発展とご参集の皆様のご健勝を祈念いたしまして、就任の挨拶と

させていただきます。

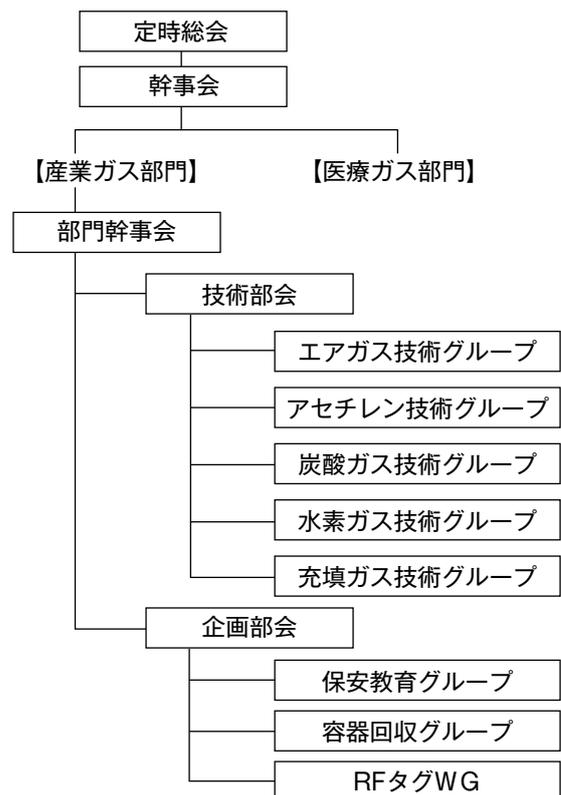


坂本新本部長挨拶

2. 平成24年度活動方針

- (1) 事故防止と法令遵守の周知徹底
- (2) 供給及び消費上の安全対策の推進
- (3) 保安講習会等の開催
- (4) 災害時対策の強化
- (5) 容器管理体制の強化
- (6) JIMGA本部との連携
- (7) その他東海地域本部の目的達成のための事業

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同(平成24年7月1日現在)
役員



本部長
坂本 雅博
大陽日酸(株)
執行役員 中部支社長



副本部長
鋤柄 喜彦
大日本アガ(株)
代表取締役



副本部長
吉田 浩之
日本液炭(株)
中部支社長



副本部長
飯田 哲郎
名古屋酸素(株)
代表取締役社長

- | | | |
|--------|-------|-----------------------|
| 幹事 | 竹本 孝夫 | 東亜テクノガス(株) 代表取締役社長 |
| 幹事 | 佐々木慎一 | サーンテック(株) 執行役員 名古屋支店長 |
| 幹事 | 勝見 欣司 | 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店長 |
| 幹事 | 平山 俊夫 | 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 東海事業所長 |
| 代表会計監事 | 竹本 克哉 | 岩谷産業(株) 取締役中部支社長 |
| 会計監事 | 諏訪 高敏 | 豊田ガスセンター(株) 常務取締役工場長 |

エアガス技術グループ

- | | | |
|-------|-------|-------------------------------|
| グループ長 | 長妻 瑞夫 | 日本エア・リキード(株) 東海支店長 |
| 委員 | 高橋 貢三 | 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当課長(中部駐在) |
| 委員 | 三津田 真 | エア・ウォーター(株) 中部支社管理部 部長 |
| 委員 | 松田美智春 | 大陽日酸(株) 中部支社 技術部長 |
| 委員 | 寿美田克彦 | 東亜テクノガス(株) 取締役業務本部長 |

アセチレン技術グループ

- | | | |
|-------|-------|----------------------------|
| グループ長 | 鋤柄 喜彦 | 大日本アガ(株) 代表取締役 |
| 委員 | 土井不可止 | イビデンケミカル(株) 大府ガス営業部 業務部 課長 |
| 委員 | 仙波 寛 | 高圧ガス工業(株) 名古屋工場長 |
| 委員 | 當房 浩二 | サーンテック(株) 名古屋支店 機材営業課長 |
| 委員 | 瓦林 督弘 | 大陽日酸(株) 中部支社技術部 技術一課長 |
| 委員 | 成瀬 宜 | 竹中高圧工業(株) 営業部 部長 |
| 委員 | 橋本 行雄 | 東海アセチレン(株) 浜松工場 取締役工場長 |

炭酸ガス技術グループ

- | | | |
|-------|-------|-------------------------------|
| グループ長 | 板橋 享 | 日本液炭(株) 名古屋ガスセンター長 |
| 委員 | 高橋 貢三 | 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当課長(中部駐在) |
| 委員 | 吉見 豊晃 | エア・ウォーター炭酸(株) 名古屋支店長 |
| 委員 | 松本 郁磨 | 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主務 |
| 委員 | 松葉 昇 | 大洋化学工業(株) 工場長 |
| 委員 | 長谷川光一 | 知多炭酸(株) 本社工場 副工場長 |
| 委員 | 山田 修三 | 東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長 |

水素ガス技術グループ

- | | | |
|-------|-------|----------------------|
| グループ長 | 平山 俊夫 | 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 東海事業所長 |
|-------|-------|----------------------|

委員	高橋 貢三	岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当課長(中部駐在)
委員	三好 拓	中部エア・ウォーター(株) 北陸支店 業務グループ長
委員	松本 郁磨	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主務
委員	澤田 正樹	大陽日酸(株) 中部支社 技術部 技術二課長
委員	栴田 茂樹	東亜テクノガス(株) 取締役管理部長
委員	鈴木 一磨	日本エア・リキード(株) 中部地域本部 営業統括営業企画部長
委員	板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長

充填ガス技術グループ

グループ長	七尾 剛司	岐阜エア・ウォーター(株) 工場長 兼 営業部長
グループ長	中根 信敏	中部エア・ウォーター(株) 名古屋支店 名古屋充填工場長
委員	中込 正樹	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 東海事業所 岡崎工場長
委員	内藤 博仁	イワタニ三重ガスセンター(株) 取締役センター長
委員	森本 孝	春日井ガスセンター(株) 代表取締役
委員	山科 佳昭	ガステックサービス(株) 西三河事業所長
委員	橋本 修	協栄高圧ガス(株) 取締役技術本部長
委員	新町 健児	共同高圧ガス工業(株) 執行役員 工場長
委員	高垣 満正	ケミカルジャパン(株) 代表取締役
委員	大西 智基	小池酸素工業(株) 名古屋支店長
委員	日比富士雄	(株)ジーシー東海 取締役工場長
委員	坂下 公朗	杉浦高圧(株) 取締役
委員	服部 裕次	大日本アガ(株) 大府事業所 取締役製造物流部長
委員	高橋 憲一	竹中高圧工業(株) 常務取締役
委員	伊藤 芳宣	知多高圧ガス(株) 総括顧問
委員	三津井 篤	中京産商(株) 常務取締役 溶材部長
委員	渡邊 雅樹	東海ガスユナイテッド(株) 工場長
委員	諏訪 高敏	豊田ガスセンター(株) 常務取締役工場長
委員	山田 正伸	名古屋ガスセンター(株) 十四山工場 取締役工場長
委員	杉山 智治	名古屋酸素(株) 名古屋営業部 部長
委員	高橋 伸之	名古屋日酸(株) 工場長
委員	鋤柄 貴彦	日本エージェー(株) 専務取締役
委員	原田 敬生	(株)原田商店 代表取締役

保安教育グループ

グループ長	松田美智春	大陽日酸(株) 中部支社 技術部長
委員	高橋 貢三	岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当課長(中部駐在)
委員	笠井 勇人	中部エア・ウォーター(株) 技術グループ長
委員	新町 健児	共同高圧ガス工業(株) 執行役員 工場長
委員	仙波 寛	高圧ガス工業(株) 名古屋工場長
委員	松本 郁磨	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主務
委員	坂下 公朗	杉浦高圧(株) 取締役
委員	吉岡 正弘	竹中高圧工業(株) 製造部 課長
委員	伊藤 芳宣	知多高圧ガス(株) 総括顧問
委員	藤原 隆	中部液酸(株) 管理部長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
委員	服部 宗弘	名古屋酸素(株) 取締役製造部長 兼 小碓工場長
委員	高橋 伸之	名古屋日酸(株) 工場長
委員	富成 繁憲	日本エア・リキード(株) 技術本部 カスタマー・エンジニアリング部 カスタマーサービス中部グループ長

委員 板橋 享 日本液炭(株) 名古屋ガスセンター長

容器回収グループ

グループ長 小野 勝 竹中高圧工業(株) 営業部 次長
委員 土井不可止 イビデンケミカル(株) 大府ガス事業所 業務部 課長
委員 森 渉 岩谷瓦斯(株) 岡崎工場 業務担当係長
委員 水野 良彦 協栄高圧ガス(株) 業務課長
委員 相木 好永 高圧ガス工業(株) 名古屋工場 ガス営業課 次長
委員 長江 孝 サーンテック(株) 名古屋支店 営業課 課長代理
委員 小野 壮太 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店
委員 浅野 泰義 杉浦高圧(株) 部長
委員 花井 正賢 大日本アガ(株) 社長付(物流担当)
委員 瓦林 督弘 大陽日酸(株) 中部支社 技術部 技術一課長
委員 浅井 純 知多高圧ガス(株) 業務部 課長代理
委員 小久保光男 中京産商(株) 溶材部溶材課 課長
委員 中根 信敏 中部エア・ウォーター(株) 名古屋支店 名古屋充填工場長
委員 伝田 伸男 東亜テクノガス(株) 営業部技術グループ 課長代理
委員 渡邊 雅樹 東海ガスユナイテッド(株) 工場長
委員 井上 洋一 豊田ガスセンター(株) 製造部 次長
委員 大貝 信夫 名古屋ガスセンター(株) 十四山工場
委員 服部 宗弘 名古屋酸素(株) 取締役製造部長 兼 小碓工場長
委員 渡辺 芳洋 名古屋日酸(株) 製造課 充てん係
委員 古江 仁 エア・リキード工業ガス(株) 中日本物流センター長
委員 板橋 享 日本液炭(株) 名古屋ガスセンター長
委員 鋤柄 貴彦 日本エージーエー(株) 安城工場 専務取締役

RFタグWG

グループ長 坂本 雅博 大陽日酸(株) 執行役員 中部支社長
委員 山本 博昭 エア・ウォーター(株) 執行役員 中部支社長
委員 長妻 瑞夫 日本エア・リキード(株) 東海支店長
委員 仙波 寛 高圧ガス工業(株) 名古屋工場長
委員 鋤柄 喜彦 大日本アガ(株) 代表取締役
委員 早川 宏一 竹中高圧工業(株) 代表取締役社長
委員 勝見 欣司 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店長
委員 吉田 浩之 日本液炭(株) 中部支社長
委員 佐藤 賢 岩谷産業(株) 中部支社 副支社長
委員 山田 修三 東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
委員 七尾 剛司 岐阜エア・ウォーター(株) 工場長 兼 営業部長
委員 中根 信敏 中部エア・ウォーター(株) 名古屋支店 名古屋充填工場長
委員 飯田 哲郎 名古屋酸素(株) 代表取締役社長
委員 竹腰 大介 共同高圧ガス工業(株) 代表取締役社長
委員 杉浦 康之 杉浦高圧(株) 代表取締役社長
委員 南部 淳 南部薬品(株) 代表取締役社長
委員 西尾 徹 静岡酸素(株) 代表取締役社長
委員 大島 康之 (株)大島商会 代表取締役
委員 伊藤 洋司 中京医療(株) 取締役営業部長
委員 江場 大二 (株)エバ 代表取締役社長

注) 平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

北陸地域本部

1. 定時総会

日時：平成24年6月4日（月）16:00～17:00

会場：山代温泉 瑠璃光 コンベンションホール

議 題

第1号議案 平成23年度事業報告の件

第2号議案 平成23年度収支決算報告の件

第3号議案 平成24年度活動及び予算案の件

第4号議案 医療ガス部門県支部創設の件

第5号議案 役員選任の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

本部出席者

副会長 鏑木 正

専務理事 豊澤 幸平

常務理事 篠塚 賢藏

小倉本部長挨拶

本日はJIMGA北陸地域本部総会にご出席頂き、ありがとうございます。

過去2年間は慌ただしい環境の中で定時総会を迎えていましたが、会員の皆様にはJIMGAの活動にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございました。

さて、地域は半導体分野の不況と原子力発電所の再稼働が先行き不透明であり、経済環境の不安要素となっています。しかし、ガスの安定供給・保安の確保を着実に進めて行く必要があると思っています。昨年1年間の事故件数は東日本大震災の影響もあって999件となり、前年比6.5%増です。そのうち災害事故は439件・15.2%増、喪失・盗難事故は560件・前年比0.5%増です。

本年度の課題として、産業ガス部門では容器管理の徹底、北陸高圧ガス溶材組合との連携による

RFタグの取組みがあります。

医療ガス部門では、京都山科での医療ガスによる死亡事故の速報を受け、幹事会を通じて会員の皆様への周知を行いました。生命に携わる当協会員の重要さが身に染みた事故であり、当たり前の確認作業の重さを思い知りました。薬価に目を向けますと、我が国では薬価基準収載後は順次値下がりすることが前提の制度の中、医療ガスでは協会本部の行政との折衝により、据え置きとなりました。在宅医療では、未受診で請求できなかったものが2ヶ月分請求可能となる改定がなされました。MGRにつきましては、当地域本部内での受験者は第2回をピークに減少してきており、認定者が各協会員に行きわたった感がありますが、認定者の拡充、資質向上を目指して行きたいと思っております。



小倉本部長挨拶



総会風景

「災害時の医療ガス等の供給に関する協定」への取組みについては、昨年度末で26都道府県と締結されました。当地域本部も昨年より素案作成に向けて行政との折衝に入っています。

最後になりましたが、産業部門、医療部門共に平成24年度の事業が充実したものになるよう、今後共ご協力の程お願いいたします。

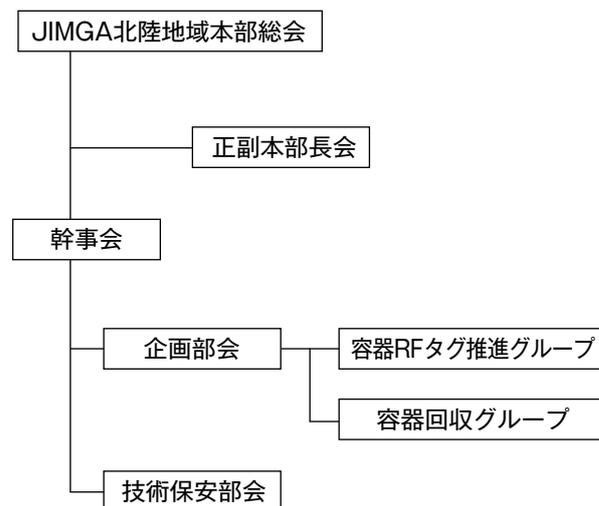


鎚木副会長挨拶

2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

- (1) 保安の推進 高圧ガス消費者保安講習会の開催
- (2) RFタグの取組み

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同(平成24年7月1日現在)

役員



本部長

小倉 善興
宇野酸素(株)
取締役会長



副本部長

板倉 久郎
北酸高圧瓦斯(株)
代表取締役社長



副本部長

桐田 信也
日星産業(株)
富山支店長

幹事	瀬戸 和義	日本エア・リキード(株)	北陸支店長
幹事	丹羽 信嗣	北越アセチレン(株)	代表取締役社長
幹事	伊勢呂庄太郎	日本液炭(株)	富山営業所長
幹事	綿引 秀幸	大陽日酸(株)	北陸支店長
幹事	木村 光彦	中部エア・ウォーター(株)	取締役北陸支店長 兼 富山営業所長
幹事	南部 明彦	宇野酸素(株)	常務取締役
会計監事	綿引 秀幸	大陽日酸(株)	北陸支店長
会計監事	櫻井 二郎	サカキ産業(株)	代表取締役社長

企画部会

委員	小倉 善興	宇野酸素(株)	取締役会長
委員	浅田 昌樹	岩谷産業(株)	北陸支店長
委員	木村 光彦	中部エア・ウォーター(株)	取締役北陸支店長 兼 富山営業所長
委員	瀬戸 和義	日本エア・リキード(株)	北陸支店長
委員	綿引 秀幸	太陽日酸(株)	北陸支店長
委員	中渡瀬久志	岩谷瓦斯(株)	生産本部 小松工場長
委員	板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株)	取締役社長
委員	伊勢呂庄太郎	日本液炭(株)	富山営業所長
委員	杉浦 博之	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中部支店 富山営業所長
委員	柳澤 敏幸	直江津アセチレン(株)	取締役工場長
委員	村木 利雄	新潟高圧ガス(株)	取締役工場長
委員	井村 平八	北越アセチレン(株)	取締役工場長

技術保安部会

委員	小倉 善興	宇野酸素(株)	取締役会長
委員	浅田 昌樹	岩谷産業(株)	北陸支店長
委員	木村 光彦	中部エア・ウォーター(株)	取締役北陸支店長 兼 富山営業所長
委員	深谷 和則	東亜テクノガス(株)	北陸支店 北陸営業部
委員	瀬戸 和義	日本エア・リキード(株)	北陸支店長
委員	綿引 秀幸	太陽日酸(株)	北陸支店長
委員	酒井 勉	北陸液酸工業(株)	取締役管理部長
委員	中渡瀬久志	岩谷瓦斯(株)	生産本部 小松工場長
委員	板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株)	取締役社長
委員	伊勢呂庄太郎	日本液炭(株)	富山営業所長
委員	杉浦 博之	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中部支店 富山営業所長
委員	山口 淳	上毛天然瓦斯工業(株)	長岡営業所長
委員	柳澤 敏幸	直江津アセチレン(株)	取締役工場長
委員	村木 利雄	新潟高圧ガス(株)	取締役工場長
委員	井村 平八	北越アセチレン(株)	取締役工場長

注)平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

近畿地域本部

1. 定時総会

日時：平成24年5月10日（木）16:15～17:45

会場：メルパルク大阪 4階「ソレイユの間」

議 題

第1号議案 平成23年度事業報告承認の件

第2号議案 平成23年度経常費収支決算報告承認の件

第3号議案 平成24・25年度役員選任承認の件

第4号議案 「近畿地域本部災害時対策運営要綱」及び「事務局災害時対策マニュアル」の制定承認の件

第5号議案 平成24年度事業計画（案）承認の件

第6号議案 平成24年度経常費収支予算（案）承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

(1) 会員動向及び異動について

産業ガス部門63社、医療ガス部門112社（平成24年3月31日現在）

(2) 表彰関係（平成23年度の受賞者）について

経済産業大臣表彰、厚生労働大臣表彰、原子力安全・保安院長表彰、知事表彰、大阪府商工関係表彰で、JIMGA関連の受賞者（個人・事業所）が紹介された。

(3) 今後の主な行事予定について

JIMGA（本部）評議委員会及び定時総会、並びに関係他団体の総会日程等が報告された。

本部出席者

副 会 長 牧野 明次

専 務 理 事 豊澤 幸平

常務執行役員 根本 睦雄

松原本部長挨拶（要旨）

常日頃の皆様方のご協力に対する御礼を述べ、統一総会が本年よりスタートすることへの謝辞と共に、本日の多くの議題に対するご意見をよろしくお願ひしたいと締め括られた。

豊澤専務理事挨拶（要旨）

常日頃の多大なご協力に対する御礼を述べられた後、本部活動の紹介として、①本部と地域活動共同ワークの重要性、②広報活動によるJIMGAの地位向上、③電力問題への対応（なかでも今夏季の対策のために5月11日に節電対策会議を行う等々）について現状の説明をされ、挨拶とされた。

松原本部長退任挨拶（要旨）

この2年間は公取査察に始まり、東日本大震災、台風被害その他天災、人災に明け暮れたが、近畿地域の活動については、RFタグの件、CEメーカー見学会、その他MGR、草の根講習他各種セミナー実施と順調に遂行されたと述べられた。「今後は新しい難波本部長を盛りたて、より一層開かれた地域本部作りにご尽力頂きますようお願い申し上げます」と締め括られた。



松原本部長挨拶

難波新本部長挨拶(抜粋)

お忙しい中、定時総会、懇親会にご出席頂き、ありがとうございます。また、常日頃の当協会の活動におきまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

私事ではありますが、総会にて新たに産業ガス部門の本部長を拝命いたしました。経験もなく若輩者ではありますが、よろしくご支援の程お願い申し上げます。

経済の話になりますが、昨年の東日本大震災や福島第一原発に始まった電力供給及び価格の問題、また円高や半導体を中心としたエレクトロニクス不況等々、五重苦六重苦の不安要素を抱えています。経済状況が厳しい中、我々の高圧ガス関連事故を見てみますと、平成23年速報値ですが、12年連続の対前年比増で999件となっています。関係官庁や団体共々協力し、少しでも事故が減るよう努力して行きたいと考えています。

数多くの案件を抱えていますが、前年度に引き続き近畿地域本部の理念であります「自主保安の確立」、「コンプライアンスの徹底」、「停滞容器の早期回収」を旗頭に、皆様方と共に解決して行きたいと存じます。今後共よろしくご指導をお願いいたします。

牧野副会長挨拶(要旨)

日頃のJIMGA活動へのご支援、ご協力に対する御礼を述べられ、昨年度の東日本大震災以降のエネルギー問題・サプライチェーンの混乱、貿易収支等々、電力費の値上げ問題について言及された後、JIMGAの電力問題や大地震への対応等々についての活動内容を報告された。

次に今年度の課題として、産業・医療共に4つの課題に重点的に取組むとされ、各々について説明をされ、また両部門共通のテーマとして「コンプライアンスの徹底」、「ガスのインフラ、ライフラインとしての重要性」をぜひ理解してもらいた

いと述べられた。

最後に、これらの案件について地域本部の皆様方にもよろしくご協力をお願いしたいと述べ、締め括られた。



懇親会 牧野副会長挨拶

来賓ご挨拶(抜粋)

経済産業省原子力安全・保安院

中部近畿産業保安監督部 近畿支部保安課

山下 忠司 殿

経産省の高圧ガス保安行政に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本日JIMGA近畿の平成24年度定時総会が無事に終了されたことを心よりお慶び申し上げます。

高圧ガスは産業分野・生活分野を中心に幅広く利用されており、我が国の産業活動発展と国民生活向上に重要な役割を果たしています。その保安活動の推進が行政及び関係官庁としては重要な使命となっています。しかしその一方で、高圧ガス関係事故状況は、平成22年度に381件だったものが、東日本大震災の影響もあり平成23年度は431件と大幅に増加し、死亡者が1名、負傷者も61名出ています。このような残念な結果になりましたが、近畿協会におかれては、保安講習会・保安セミナーの開催・自主基準の策定・容器管理の取組み等々の事業活動を通じて、消費者・販売事業者の自主保安の推進活動にご尽力して頂き、感謝しております。今後共、自主保安の充実・防災体制の拡充・公共安全確保へ引き続き一層のご尽力をお

願ひ申し上げます。

また、保安監督部近畿支部としては、近畿地域と密着した国の機関として引続き連携して参りますので、関係法令の厳粛な執行・自主保安の推進・産業保安施策の推進に向け、ご協力頂きますようお願いいたします。4月22日に山口県石油化学工場での事故が起きましたが、内製造事業所での事故割合は80%を占めています。関係各社におかれは、今一度自社の設備について安全確認をして頂き、自主保安の充実に努めて頂きますようお願いしたいと思ひます。

乾杯挨拶(要旨)

高圧ガス保安協会 近畿支部長

西田 享平 殿

日頃のKHK近畿支部へのご協力に対する御礼を述べられた後、大震災後の復興支援及び電力不足に対する諸々の努力について触れ、暑い夏で大変ではありますが、安全に運転して頂き、日本の復興にご協力、ご尽力をよろしくお願ひしたいと述べ、乾杯の挨拶とされた。

中締め挨拶(要旨)

根本常務執行役員

近畿地域本部の皆様方のJIMGAに対する日頃のご協力について御礼を述べられ、4月の医療ガス「会報」に記載された宮城県からJIMGAに対する感謝状についての説明をされた。次に、今年の課題として、①事故防止、②草の根講習会の実施(本年予定19ヶ所)、③MGR制度の推進・発展、④防災協定の推進(1年前に比べ、19ヶ所から26ヶ所に増加)について説明し、ご協力をお願ひしたいと述べて中締めの挨拶とされた。

2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

近畿地域本部本来の基本理念である「自主保安の確立」、「コンプライアンスの徹底」、「停滞容器

の早期回収」の3点を軸に、防災とコンプライアンスを中心に活動を推し進めて参ります。

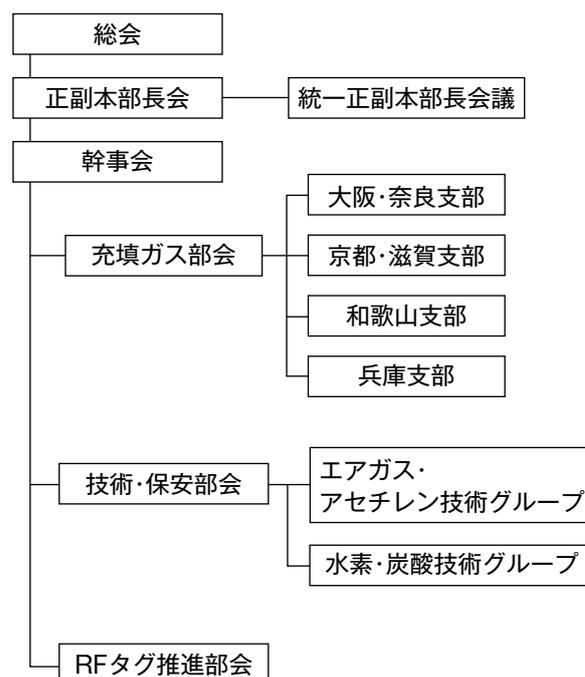
防災については、南海トラフ地震の到来が危惧される中、いざという時に備えてのマニュアル作り・防災体制の制定に努めると共に、RFタグの運用をより広く推進し、事故に繋がる放置容器等の減少のための枠作りに尽力したいと考えています。

コンプライアンスにおいては、今一度活動の原点に戻り、より一層信頼される業界団体としての地位向上のための事業活動を推し進めて参ります。



懇親会風景

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同(平成24年7月1日現在)
役員



本部長
難波 太郎
日本エア・リキード(株)
ジャパン・エア・ガシズ社
常務執行役員
関西地域本部長



副本部長
仲 進
大陽日酸(株)
常務執行役員
関西支社長



副本部長
三宅 新一
大陽日酸(株)
関西支社 技術部長



副本部長
植田 秀樹
京都帝酸(株)
専務取締役

- 幹事 村上 幸夫 エア・ウォーター(株) 取締役近畿支社長
- 幹事 田井中秀喜 岩谷産業(株) 近畿支社長
- 幹事 森下 克則 小池酸素工業(株) 大阪支店長
- 幹事 安田 英司 高圧ガス工業(株) ガス事業部 執行役員 近畿地区長
- 幹事 山中 昭一 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店長
- 会計監事 林 功 協和ガス(株) 代表取締役社長
- 会計監事 福田 正 (株)リキッドガス 常務取締役 営業本部長

充填ガス部会

- 部会長 植田 秀樹 京都帝酸(株) 専務取締役
- 副部会長 的場 信之 紀州エア・ウォーター(株) 代表取締役社長

大阪・奈良支部

- 支部長 面谷 正久 (株)ダイオー 常務取締役 営業本部長
- 副支部長 吉満 誠二 (株)関西ガスファースト 代表取締役
- 委員 永田 裕信 大阪車輛工業(株) 取締役営業部 部長
- 委員 仲 進 (株)大阪パッケージガスセンター 代表取締役社長
- 委員 竹川 卯三郎 大丸エナウイン(株) 代表取締役
- 委員 名倉 茂雄 大和熔材(株) 代表取締役社長
- 委員 林 薫 浪速酸素(株) 代表取締役社長
- 委員 宮崎 順平 (株)マスコール 代表取締役会長
- 委員 伏山 英男 (株)伏山酸素商会 代表取締役

京都・滋賀支部

- 支部長 森脇 勝久 森脇産業(株) 代表取締役
- 副支部長 岡田 隆義 舞鶴大同ガス(株) 代表取締役社長
- 委員 中森 信輔 (株)泉産業 代表取締役社長
- 委員 藤井助三郎 京都帝酸(株) 取締役社長
- 委員 高橋 寛 滋賀カーバイド(株) 代表取締役

和歌山支部

- 支部長 的場 信之 紀州エア・ウォーター(株) 代表取締役社長

副支部長 北山 雅章 和歌山酸素(株) 代表取締役
委 員 竹内 光男 新宮酸素(株) 代表取締役社長

兵庫支部

支 部 長 堀田 秀樹 ネクスト・ワン(株) 常務取締役
副支部長 山下 隼人 (株)水島酸素商会 常務取締役
委 員 大岡 久晃 (株)大岡酸素商会 代表取締役会長
委 員 神田 保男 近畿酸素(株) 代表取締役社長
委 員 高浜 充治 高浜酸素(株) 代表取締役
委 員 駒居 敬博 タツミ産業(株) 企画営業部 部長
委 員 橋詰 芳裕 (株)ニッコーコーポレーション 代表取締役
委 員 橋 快樹 姫路ダイサン(株) 代表取締役社長
委 員 藤田 元久 藤田酸素工業(株) 代表取締役社長

技術・保安部会

部 会 長 三宅 新一 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委 員 八尋 正昭 日本エア・リキード(株) 技術本部 カスタマー・エンジニアリング部
カスタマーサービス 近畿グループ長

エアガス・アセチレン技術グループ

グループ長 八尋 正昭 日本エア・リキード(株) 技術本部 カスタマー・エンジニアリング部
カスタマーサービス 近畿グループ長
副グループ長 浜 良二 岩谷瓦斯(株) 環境保安部 担当部長
委 員 中森 信輔 (株)泉産業 代表取締役社長
委 員 西田 善貞 イビデンケミカル(株) ガス事業部 高石事業所 取締役工場長
委 員 青木 孝之 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(近畿駐在)
委 員 加藤 保宣 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 技術管理部長 兼 保安推進部長
委 員 的場 信之 紀州エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
委 員 植田 秀樹 京都帝酸(株) 専務取締役
委 員 石井 長文 協和ガス(株) 大阪工場 製造主任
委 員 和泉 良明 近畿エア・ウォーター(株) 取締役 医療部長 兼 技術部 部長
委 員 大村 明 小池酸素工業(株) 大阪支店 係長
委 員 西川 隆浩 高圧ガス工業(株) 堺工場長
委 員 椋橋 明次 サーンテック(株) 技術本部 技術保安部長
委 員 三宅 新一 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委 員 大岡 裕文 大丸エナウイン(株) 医療・産業ガス事業部 医療ガス課長
委 員 池田 恵英 日東アセチレン(株) 代表取締役
委 員 小林祐一郎 ネクスト・ワン(株) 本社営業部 ゼネラルマネージャー

水素・炭酸技術グループ

グループ長 三宅 新一 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
副グループ長 青木 孝之 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当部長
委 員 杉原 一誌 尼崎水素販売(株) 所長
委 員 佐々木秀登 イワタニカーボニックス(株) 本社製造技術・安全部長
委 員 浜 良二 岩谷瓦斯(株) 環境保安部 担当部長
委 員 浦谷 明弘 エア・ウォーター(株) 産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部長
委 員 山中 昭一 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店長

委員	栗田 純一	近畿液炭(株) 取締役管理部長
委員	澤田 敏男	昭和電工ガスプロダクツ(株) 西日本支店大阪営業所 副主事
委員	綱島 誠司	新日鐵化学(株) 水素充填班 班長
委員	阪田 尚久	日本液炭(株) 関西支社 技術サービス課長
委員	小川 悦郎	(株)リキッドガス 営業本部 営業技術長

RFタグ推進部会

部会長	仲 進	大陽日酸(株) 常務執行役員 関西支社長
委員	田井中秀喜	岩谷産業(株) 近畿支社長
委員	植田 秀樹	京都帝酸(株) 専務取締役
委員	和泉 良明	近畿エア・ウォーター(株) 取締役 医療部長 兼 技術部部长
委員	安田 英司	高圧ガス工業(株) 堺工場 ガス事業本部 執行役員 近畿地区長
委員	三宅 新一	大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員	松田 常博	日本エア・リキード(株) 関西地域本部 担当部長

注)平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 活動報告

○産業幹事会

日時：平成24年2月6日(月)12:30～14:30

会場：グリル小松屋

内容：次年度役員改選、本年度収支見込み及び次年度予算案、地域本部災害対策運営要綱案

内容：大阪府高圧ガス容器管理ガイドライン
説明会

○充填ガス部 和歌山支部会

日時：平成24年2月23日(木)11:00～12:00

会場：ホテルグランヴィア和歌山

内容：RFタグ進捗、平成23・24年度行事予定

○第3回RFタグ説明会

日時：平成24年2月9日(木)14:00～16:45

会場：大阪府商工会館 第二講堂

出席数：88名

内容：RFタグ全国展開の進捗説明会

○RFタグ採用拡大会議

日時：平成24年3月6日(火)11:00～13:30

会場：JIMGA会議室

内容：RFタグ採用推進販売店リストアップ

○OCEグループ 合同会議・解散式

日時：平成24年2月16日(木)15:00～18:30

会場：JIMGA会議室及び美々卯

内容：平成22年度大阪府保安検査総括及び平成24年度日程調整、解散式実施

○充填ガス部 京都・滋賀支部会

日時：平成24年3月8日(木)12:00～13:30

会場：新・都ホテル

内容：RFタグ進捗、地域本部災害対策運営要綱案

○大阪府高圧ガス熔材組合保安研修会

日時：平成24年2月21日(火)13:30～16:30

会場：エル・おおさか 南館

主催：大阪府保安対策課、大阪府高圧ガス熔材協同組合

○RFタグ工場見学会

日時：平成24年3月14日(水)13:30～15:00

会場：(株)ダイオー 加古川工場

参加者：25名

内容：近畿地域本部有志によるRFタグ実施工場の見学

○高圧ガス防災研修会

日 時：平成24年3月16日(金)14:00～16:00

会 場：大阪府商工会館

参加者：150名

主 催：大阪府高圧ガス安全協会

内 容：東日本大震災を教訓にした災害対策研修会

○エアガス・アセチレン技術グループ会議

日 時：平成24年3月21日(水)11:00～13:00

会 場：JIMGA会議室

内 容：次年度役員改選、次年度主要日程

○充填ガス部 兵庫支部会

日 時：平成24年3月23日(金)11:00～13:00

会 場：チサンホテル神戸

内 容：RFタグ進捗、地域本部災害対策運営要綱案

○充填ガス部 大阪・奈良支部会

日 時：平成24年3月26日(月)11:00～13:00

会 場：JIMGA会議室

内 容：RFタグ進捗、地域本部災害対策運営要綱案

○水素・炭酸技術グループ会議

日 時：平成24年3月28日(水)11:00～13:00

会 場：JIMGA会議室

内 容：次年度役員改選、炭酸ガス保安講習会、セミナー実施の件

○産業幹事会

日 時：平成24年4月19日(木)11:00～12:30

会 場：JIMGA会議室

内 容：平成24年度総会議案書案検討
平成24年度表彰者リストアップ

○大阪府高圧ガス安全協会 定時総会

日 時：平成24年5月16日(水)15:30～18:00

会 場：天王寺都ホテル

出 席：事務局長

○大阪府高圧ガス熔材協同組合定時総会懇親会

日 時：平成24年5月24日(木)17:30～19:00

会 場：スイスホテル南海 大阪

出 席：松原本部長代理、事務局長

○大阪府LPガス協会 定時総会懇親会

日 時：平成24年5月29日(火)17:00～18:30

会 場：ホテル阪神

出 席：難波本部長、事務局長

○兵庫県高圧ガス協同組合定時総会懇親会

日 時：平成24年5月30日(水)17:00～18:30

会 場：神戸市産業振興センター

出 席：三宅副本部長、事務局長

中国地域本部

1. 定時総会

日時：平成24年5月17日(木) 15:00～15:55

会場：ホテル 広島ガーデンパレス「白鳥の間」

議 題

第1号議案 平成23年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

第2号議案 平成24年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認を求める件

第3号議案 幹事及び会計監事選任の件の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り全会一致で承認された。

報告事項

- (1) 会員の動静について 指定代表者の交代4社、社名変更1社、退会1社(工場の閉鎖)
- (2) 今後の主要行事の日程について
- (3) 新幹事の役職について、新本部長に永江裕氏(大陽日酸株中四国支社長)が互選された旨について

本部出席者

副 会 長 中井 喜三
専 務 理 事 豊澤 幸平
常務執行役員 加藤 尚嗣

阿南本部長挨拶(要旨)

本日はご多忙の中、平成24年度JIMGA中国地域本部産業ガス部門の総会にご出席頂き、ありがとうございます。平素は当地域本部の活動にご理解とご協力を頂き、感謝いたします。

2008年のリーマンショック以来4年が経過しましたが、我々の業界はなかなか上向きになりません。とかく売上ばかりに気をとられ、保安がルー

ズになりがちですが、先般も山口県下で化学品工場の事故が発生しました。今一度気を引き締め、保安活動に最大の注意を払って頂きたいと思えます。

今後共JIMGA中国地域本部の種々活動にご協力頂くと共に、総会での各議案審議を円滑に進め頂きますようお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。



阿南本部長挨拶

中井副会長挨拶

日頃は、JIMGAの活動にご支援、ご協力を頂きまして、改めて御礼を申し上げます。

さて、昨年の大地震は我々産業・医療ガス業界にも多大な影響を与えています。そのひとつが原発事故に伴う電力不足による電気料金値上げの問題です。JIMGAではこれまで消費電力原単位の改善や省エネに積極的に取り組んできましたが、自助努力だけではとても吸収できないため、値上げが発表されて以来、東京電力や経済産業省、資源エネルギー庁へ値上げ幅圧縮を求めて参りました。また、全く稼働していない原子力関連費用が総原価に含まれていることも要請理由のひとつです。

震災対応においては、節電への業界一体となった対応や、放射線で汚染されたエアフィルターの交換作業指針の策定を行うと共に、原発での水素

爆発防止用の窒素封入など、我々が担う社会的な役割の重要性を訴えて行きたいと思えます。

JIMGA産業ガス部門の今年度の課題は、「保安の一層の強化・推進」、「RFタグの普及・促進」、「環境への取組みと電力不足への対応」、「国際統合化への取組み」の4つを重点的に取組みます。産業ガス・医療ガス部門共通で取組む課題としては、「コンプライアンスの徹底」、「産業・医療ガスが社会的インフラ及びライフラインに欠かせないものであることの周知」の2点です。

以上の課題は、地域本部と一体となって取組むべき案件がほとんどです。従来以上にご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日までご出席の皆様方のみますのご健勝とご発展、またそれぞれの会社の発展・隆盛を祈念して、挨拶とさせていただきます。



中井副会長挨拶

2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

産業ガス事業における生産、流通、利用、消費に関して改善・合理化の推進、技術の向上及び安全・保安の確保に努め、高圧ガス事故を未然に防ぎ、国民生活に寄与するため次の活動を行う。

(1) 保安講習会、セミナーの実施

- ・保安法令講習会

平成24年10月18日(山口市)

- ・保安セミナー(内容未定)

平成24年11月9日(広島市)

- ・炭酸ガス保安講習会

平成24年11月20日(広島市)

- ・水素消費基準セミナー

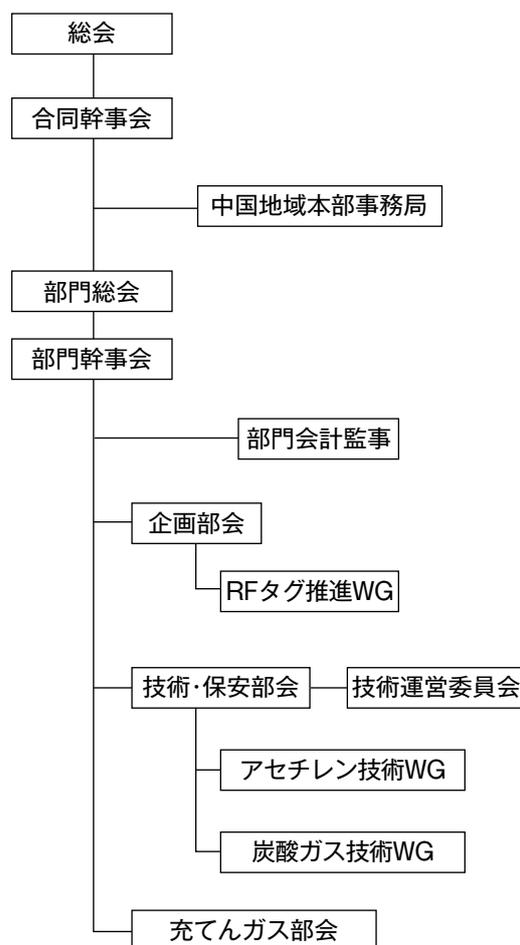
平成25年2月21日(岡山市)

- (2) 各県保安大会や高圧ガス保安活動促進週間行事への積極的参加

- (3) RFタグの普及・促進

- (4) 放置容器特別回収月間(10月)の推進

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同(平成24年7月1日現在)
役員



本部長
永江 裕
大陽日酸(株)
執行役員
中四国支社長



副本部長
藤井 基博
藤井商事(株)
代表取締役会長



副本部長
並河 勉
山陰酸素工業(株)
代表取締役社長



副本部長
田中 良介
岩谷産業(株)
中国支社長



副本部長
松永 健
高圧ガス工業(株)
専務執行役員
広島営業所長

- 幹事 都築 康彦 エア・ウォーター(株) 執行役員 中・四国支社長
- 幹事 柳瀬 康治 日本エア・リキード(株) 中国支店長
- 幹事 松本 久昭 岡山東ア・ウォーター(株) 代表取締役社長
- 幹事 國廣 憲 中国アセチレン(株) 代表取締役社長
- 幹事 小椋 英邦 日本液炭(株) 中四国支社長

企画部会

- 部会長 山口 和美 日本エア・リキード(株) 技術本部 カスタマー・エンジニアリング部
カスタマーサービス 中四国グループ長
- 委員 小林 靖昌 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(中国駐在)
- 委員 加納 郁久 大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
- 委員 福井 雅則 高圧ガス工業(株) 広島工場長
- 委員 牧山 義仁 岩谷瓦斯(株) 広島工場長
- 委員 岡崎 貴之 藤井商事(株) 本社工場製造課長
- 委員 小林 博 山陰酸素工業(株) 安来ガスセンター長
- 委員 湯桶 定己 エア・リキード工業ガス(株) 山口工場長
- 委員 吉藤 宏行 岡山東ア・ウォーター(株) 工場長
- 委員 黒田 秀昭 中国アセチレン(株) 取締役工場長

RFタグ推進WG

WG長	牧山 義仁	岩谷瓦斯(株)	広島工場長
委員	福井 雅則	高圧ガス工業(株)	広島工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株)	取締役工場長
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株)	技術本部 カスタマー・エンジニアリング部 カスタマーサービス 中四国グループ長
委員	岡崎 貴之	藤井商事(株)	本社工場製造課長

技術・保安部会

部長	加納 郁久	大陽日酸(株)	中四国支社 技術部長
副部長	福井 雅則	高圧ガス工業(株)	広島工場長
委員	牧山 義仁	岩谷瓦斯(株)	広島工場長
委員	羽生 優	中国エア・ウォーター(株)	山口工場長
委員	花田 英治	(株)小原ガスセンター	工場長
委員	坂田 宣雄	山陰酸素工業(株)	取締役技術本部長
委員	金塚 博	山陽酸素(株)	工場長
委員	水崎 正信	(株)ゼネラルガスセンター	工場長
委員	石川 桂	中国酸素(株)	取締役本社工場長
委員	海上 欣三	中国エア・ウォーター(株)	広島支店 工場長
委員	川下 明彦	サーンテック(株)	広島支店長
委員	岡崎 貴之	藤井商事(株)	本社工場 製造課長
委員	原 文男	藤井商事(株)	水島工場 製造課長
委員	住岡 二郎	ニッキフッコー(株)	製造リーダー
委員	徳永 守男	リンクス(株)	テクノガスセンター工場長
委員	西村 宏一	高圧ガス工業(株)	岡山工場長
委員	金谷 利雅	小池酸素工業(株)	尾道工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株)	取締役工場長
委員	林 信次	水島アセチレン工業(株)	工場長
委員	出口 隆也	安浦アセチレン(株)	広島工場長
委員	小林 統	日本液炭(株)中四国支社	技術サービス課長
委員	石葉 光伸	エア・ウォーター炭酸(株)	大阪支店 課長
委員	大坪 鉦二	昭和電工ガスプロダクツ(株)	広島営業所
委員	小林 靖昌	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(中国駐在)
委員	木次 徳在	広島日酸(株)	取締役工場長

アセチレン技術WG

WG長	福井 雅則	高圧ガス工業(株)	広島工場長
委員	牧山 義仁	岩谷瓦斯(株)	広島工場長
委員	川下 明彦	サーンテック(株)	広島支店長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株)	取締役工場長
委員	加納 郁久	大陽日酸(株)	中四国支社 技術部長
委員	西村 宏一	高圧ガス工業(株)	岡山工場長
委員	金谷 利雅	小池酸素工業(株)	尾道工場長
委員	出口 隆也	安浦アセチレン(株)	広島工場長
委員	林 信次	水島アセチレン工業(株)	工場長

炭酸ガス技術WG

WG長	小林 靖昌	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(中国駐在)
委員	大坪 鉦二	昭和電工ガスプロダクツ(株)	広島営業所
委員	小林 統	日本液炭(株)	中四国支社 技術サービス課長
委員	石葉 光伸	エア・ウォーター炭酸(株)	大阪支店 課長

充てんガス部会

部会長	藤井 基博	藤井商事(株)	代表取締役会長
委員	小林 通匡	ニッキフッコー(株)	代表取締役社長
委員	並河 勉	山陰酸素工業(株)	代表取締役社長
委員	平松 丈始	旭化成酸素(株)	代表取締役社長
委員	松本 久昭	岡山エア・ウォーター(株)	代表取締役社長
委員	橋 快樹	(株)小原ガスセンター	代表取締役社長
委員	岡本 茂裕	オカモト産業(株)	代表取締役社長
委員	井上 俊三	山陽酸素(株)	取締役社長
委員	平位 幸一	(株)ゼネラルガスセンター	取締役社長
委員	高山 眞司	高山産業(株)	代表取締役社長
委員	山本 敬史	大和酸素(株)	代表取締役社長
委員	國廣 憲	中国アセチレン(株)	代表取締役社長
委員	名越 一品	中国酸素(株)	代表取締役社長
委員	西村 浩和	中国エア・ウォーター(株)	取締役広島支店長
委員	渋江 幹男	中国エア・ウォーター(株)	取締役岡山支店長
委員	山脇 淳平	広島高圧ガス(株)	代表取締役
委員	木次 徳在	広島日酸(株)	取締役工場長
委員	長谷川 利	エア・リキード工業ガス(株)	中四国支社長
委員	名越 一品	水島アセチレン工業(株)	代表取締役
委員	松本 眞	リンクス(株)	代表取締役社長
委員	川崎 兼二	岩谷瓦斯(株)	中国事業所長
委員	坪井 亮	小池酸素工業(株)	中国支店長

注)平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

四国地域本部

1. 定時総会

日時：平成24年5月17日（木）13:00～14:00

会場：ホテルクレメント徳島

議 題

第1号議案 平成23年度事業報告の承認を求め
る件

第2号議案 平成23年度収支決算の承認を求め
る件

第3号議案 平成24年度事業計画（案）並びに
収支予算（案）について承認を求め
る件

第4号議案 四国地域本部規程改定について承
認を求める件

第5号議案 平成24年度評議員・幹事・会計監
事任期満了に伴う改選について承
認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り全会
一致で承認された。

報告事項

会員の移動について

- ・ 組織の変更 日本液炭(株)四国支店は、同社中
四国支社に引継がれました。
- ・ 退会 岩谷瓦斯(株)中国事業所坂出工場
(平成24年3月31日付)

本部出席者

副会長 竹内 弘幸
常務理事 篠塚 賢藏
執行役員 和田 彰

野村本部長挨拶(要旨)

高圧ガス事業者にとって「保安の確保」、「事故
の撲滅」は、事業の継続と発展には欠くことで

きない大きな条件であり、四国地域本部でも末端
消費者に向けて保安講習会並びに企業研修会を実
施して積極的に自主保安の確保に努めており、関
係各方面から高い評価を頂いていると述べた。今
後も地域に密着した取組みを一層推進して行きた
いと述べ、RFタグについても導入促進にご協力
をお願いしたいと締め括られた。

懇親会 竹内副会長乾杯挨拶(要旨)

東日本大震災に関連して、自社の被災対応事例
から、備えあれば憂いなしと災害対応に触れら
れ、特に今後の防災対策について述べられた後、
乾杯をご発声した。



四国地域本部定時総会

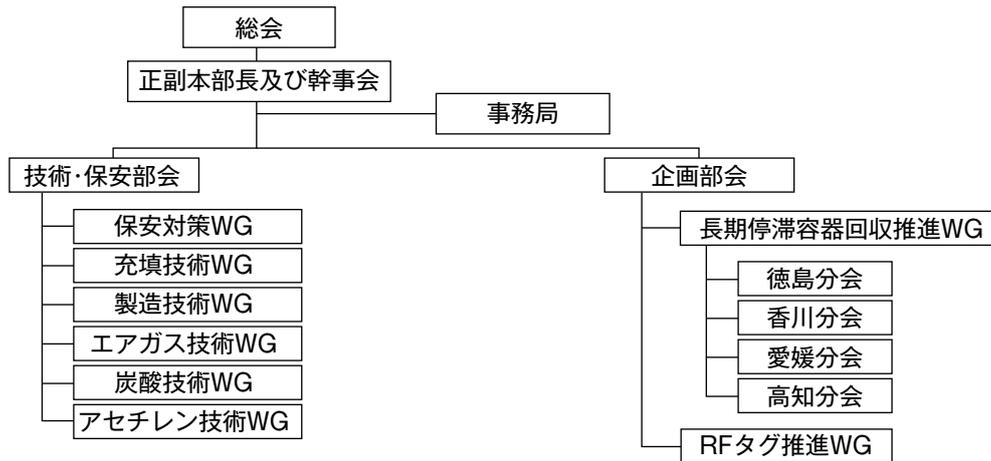
2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

末端消費者向け保安講習会並びに企業研修会を
実施し、安全意識の浸透に努めます。

長期停滞容器・放置容器の撲滅のため、以下の
ことに取組んで行きたいと考えています。

- (1) 県行政への環境改善に向けた要望の継続
- (2) RFタグの勉強会を通じた経過報告並びに普
及活動
- (3) 高圧ガス関係諸団体との連携推進などによ
る当地区の高圧ガスに係る状況改善

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同 (平成24年7月1日現在)

役員



本部長
野村 茂
土佐酸素(株)
代表取締役社長



副本部長
大橋 正明
四国アセチレン工業(株)
代表取締役社長



副本部長
太田 洋一
日本エア・リキード(株)
四国支店長



副本部長
長谷 眞史
四国岩谷産業(株)
取締役営業部長

- 幹事 笹岡 重統 四国エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
- 幹事 武田 和倫 四国大陽日酸(株) 代表取締役社長
- 幹事 新田 茂 大陽日酸(株) 四国支店長
- 幹事 佐々木康二 高松帝酸(株) 専務執行役員
- 会計監事 一色あをみ 大和酸素工業(株) 代表取締役社長

技術・保安部会

部会長 太田 洋一 日本エア・リキード(株) 四国支店長

保安対策WG

- WG長 藤井 保秀 高松帝酸(株) 製造技術部 担当部長
- 委員 田中 智博 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 課長
- 委員 大村 孝司 四国大陽日酸(株) 常務取締役 技術部長
- 委員 福原 清文 大陽日酸(株) 中四国支社 技術部 部長附
- 委員 竹内 正則 四国岩谷産業(株) 担当部長
- 委員 鈴木 利光 昭和電工ガスプロダクツ(株) 岡山営業所 主務
- 委員 小林 統 日本液炭(株) 中四国支社 技術サービス課長
- 委員 森山 康広 日本エア・リキード(株) 技術本部 カスタマー・エンジニアリング部
カスタマーサービス 中四国グループ 主査
- 委員 吉井 英世 小池酸素工業(株) 四国営業所長

委員 川崎 起樹 高圧ガス工業(株) 岡山工場 次長

充填技術WG

WG長 立花 靖司 土佐酸素(株) 常務取締役 製造技術部長
委員 一色 貴志 大和酸素工業(株) 専務取締役
委員 住吉 直人 四国エア・ウォーター(株) 技術部 香川工場 生産・メンテナンスグループ 係長
委員 樋笠 和樹 四国アセチレン工業(株) 製造部門長
委員 木村 昭夫 (株)東予ガスセンター センター長代理
委員 片山 昌也 エヒメ酸素(株) 主任

製造技術WG

WG長 三輪 朗 四国液酸(株) 取締役工場長
委員 武智 元 松山オキシトン(株) 工場長
委員 浜本 哲生 住化高純度ガス(有) 製造課長

エアガス技術WG

WG長 武智 元 松山オキシトン(株) 工場長

炭酸技術WG

WG長 小林 統 日本液炭(株) 中四国支社 技術サービス課長

アセチレン技術WG

WG長 樋笠 和樹 四国アセチレン工業(株) 製造部門長

企画部会

部会長 野村 茂 土佐酸素(株) 代表取締役社長

長期停滞容器回収推進WG

WG長 大橋 正明 四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
徳島分会 堀田 禎一 四国大陽日酸(株) 徳島営業所長
香川分会 富家 康晴 四国大陽日酸(株) 香川営業所長
愛媛分会 岡田 博美 四国岩谷産業(株) 松山営業所長
高知分会 光本 章信 土佐酸素(株) 常務取締役

RFタグ推進WG

WG長 長谷 眞史 四国岩谷産業(株) 取締役部長
委員 大橋 正明 四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
委員 一色 貴志 大和酸素工業(株) 専務取締役
委員 大村 孝司 四国大陽日酸(株) 常務取締役 技術部長
委員 光本 章信 土佐酸素(株) 常務取締役
委員 齋藤 公司 エヒメ酸素(株) 取締役事業所長
委員 笹岡 重統 四国エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
委員 川崎 起樹 高圧ガス工業(株) 岡山工場 次長
委員 服部 厚司 高松帝酸(株) 製造技術部 部長

注) 平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 行事開催報告

(1) 定時総会時講演会

講演タイトル：「東日本大震災の被災から復興
そして今後の教訓」

日 時：平成24年5月17日(木) 16:00～18:00

会 場：ホテルクレメント徳島

<内容>

第一部 「高圧ガス設備の状況と対応」

(講演者) 太陽日酸(株)

開発・エンジニアリング本部

ガスエンジニアリング統括部

供給技術部長 出村 憲二氏

第二部 「(株)仙台サンソセンターの被災状況
と復興」

(講演者) (株)仙台サンソセンター

代表常務取締役工場長 富樫 弘和氏



定時総会時講演会の模様

(2) 各種高圧ガス製造技術勉強会

日 時：平成24年8月23日(木) 13:00～16:30

会 場：ホテル パールガーデン

参加人数：28名

<内容>

- ・ローリー乗務員保安指針
- ・液化ガスフレキシブルホース+CE日常点検
+ 液化ガス噴出事故防止対策
- ・e-ラーニング+高圧ガスハンドブック



勉強会の模様

6. 今年度の講習会予定

(1) 高圧ガス保安講習会

日 時：平成24年11月22日(木) 13:00～

会 場：松山市総合コミュニティセンター

<内容>

- ・最近の高圧ガス行政の動向について
- ・炭酸ガスの正しい取扱いについて
- ・高圧ガス事業者の東日本大震災被災体験事例集

九州地域本部

1. 定時総会

日 時：平成24年5月16日(水) 15:00～16:00

会 場：博多都ホテル

議 題

第1号議案 平成23年度事業報告及び収支報告の件

第2号議案 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)の件

第3号議案 幹事・会計監事及び本部評議員選任の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り全会一致で承認された。

本部出席者

副 会 長 松枝 寛祐

常務理事 篠塚 賢藏

執行役員 和田 彰

上原代表地域本部長挨拶(要旨)

高圧ガス事故は増加しており、2011年の全国の高圧ガス事故は、災害439件、喪失・盗難560件、合計999件で、昨年の938件から7%の増加となっています。福岡県内でも災害24件、容器盗難17件、合計41件で、2010年の28件から46%も増加しています。高圧ガスに携わる全ての関係者が強い自覚を持って“予防保全”を行えば、防げる事故は多々あります。来週の月曜日は金環日食ですが、3つの天体が一直線に並んで美しい姿を見せるように、我々も本部・地域本部・会員各位の3者が一直線になり、「事故撲滅」という成果を出したいと思います。

九州地域本部の活動についてですが、「容器管理指針発行」は昨年度進捗があり、佐賀県、鹿児島県で発行されました。今年度は「災害時の医療

ガス供給協定」締結の取組みを強化します。またRFタグについては、昨年の12月末時点で九州では9つのメーカー拠点で約17,000本の装着が完了しました。

九州地域本部としては、今年度も保安講習会開催・事業所保安点検活動等の保安活動を通じて高圧ガス事故撲滅に向けて取組んでいきますので、引続き会員様のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

今年は金環日食以外に6月6日の“金星日面通過”と8月14日未明の月による“金星食”があり、3つの天文ショーにはどれも「金」がつきます。今年のオリンピックでの日本勢の金メダルラッシュ、会員各社様の業績と高圧ガス事故の減少においても金メダルとなることを期待しています。

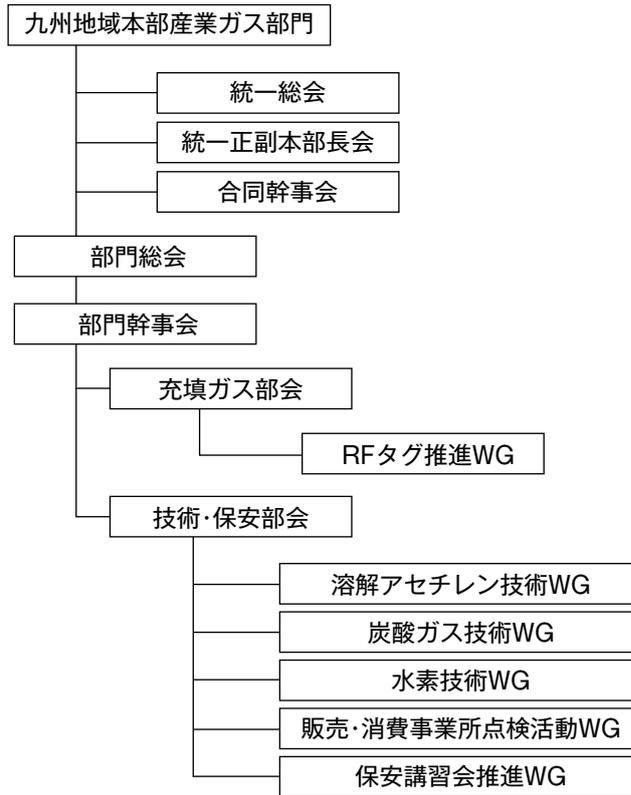


上原本部長挨拶

2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

- (1) JIMGA本部、関係団体、行政関係部署との連携推進
- (2) 会員向け情報発信の迅速化及び充実
(JIMGA本部の活動状況、行政の動向等)
- (3) 放置容器・不明容器対策の推進(九州高圧ガス容器管理委員会との連携)
- (4) 行政への容器管理指針発行要請(KKHR、各県KHKと連携)
- (5) RFタグの周知・普及の推進

3. 組織図



4. 役員・部会・WG等名簿 敬称略・順不同 (平成24年7月1日現在)
役員



本部長
上原 正弘
大陽日酸(株)
理事 九州支社長



副本部長
阿南 泰州
日本エア・リキード(株)
ジャパン・エア・ガズ社
常務執行役員
西日本地域本部長



副本部長
田中 良典
エア・ウォーター(株)
執行役員 九州支社長

- 幹事 宮嶋 寛幸 福豊帝酸(株) 代表取締役社長
- 幹事 岩永 友孝 岩谷産業(株) 常務執行役員 九州支社長
- 幹事 岡田 一夫 福岡酸素(株) 代表取締役社長
- 幹事 三浦正太郎 西日本高压瓦斯(株) 代表取締役社長
- 幹事 廣瀬 俊明 高压ガス工業(株) 執行役員 九州地区長
- 幹事 江藤 伸一 江藤酸素(株) 代表取締役会長
- 幹事 平石 誠 日本液炭(株) 九州支社長
- 幹事 長家 茂 福岡酸素(株) 伊万里支社長
- 幹事 山崎 俊隆 (株)武田商事 取締役社長

幹事	今川 敬志	内村酸素(株)	代表取締役社長
幹事	山本 和久	江藤酸素(株)	専務取締役
幹事	岩切 充弘	宮崎酸素(株)	代表取締役社長
幹事	内村 武志	サツマ酸素工業(株)	代表取締役社長
幹事	與儀 盛輝	(株)オカノ	代表取締役社長
会計監事	福田愛二郎	貴船商事(株)	代表取締役社長
会計監事	小林 孝	岩谷瓦斯(株)	九州事業所長

充填ガス部会

部会長	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
副部会長	杉谷 英範	(株)朝日酸素商会	代表取締役社長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
委員	岡田 正博	(株)武田商事	取締役本部長
委員	古場 孝則	内村酸素(株)	嘉島事業所 課長
委員	江藤 佳史	江藤酸素(株)	取締役部長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	取締役営業部長
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	金城 優典	(株)オカノ	ガス部 部長

RFタグ推進WG

WG長	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
委員	杉谷 英範	(株)朝日酸素商会	代表取締役社長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(九州駐在)
委員	東 成政	九州エア・ウォーター(株)	取締役製造・技術部長
委員	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	小倉工場長
委員	菊池 誠	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	山本 恭弘	西日本高圧瓦斯(株)	取締役生産・技術本部長
委員	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 課長代理
委員	深堀 楨一	福岡酸素(株)	業務部課長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
委員	岡田 正博	(株)武田商事	取締役本部長
委員	古場 孝則	内村酸素(株)	嘉島事業所 課長
委員	江藤 佳史	江藤酸素(株)	取締役部長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	取締役営業部長
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	金城 優典	(株)オカノ	ガス部 部長

技術・保安部会

部会長	田中 良典	エア・ウォーター(株)	執行役員 九州支社長
委員	古賀 道義	福岡酸素(株)	取締役ガスエンジニアリング 部長
委員	菊池 誠	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	山本 正治	日本エア・リキード(株)	技術本部 カスタマー・エンジニアリング部 カスタマーサービス 九州グループ長
委員	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	小倉工場長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(九州駐在)
委員	山本 恭弘	西日本高圧瓦斯(株)	取締役生産・技術本部長
委員	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 課長代理

委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役営業本部長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
委員	男澤 隆	(株)武田商事	製造部長
委員	楠村 芳樹	内村酸素(株)	有明事業所 課長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役技工ブロック長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	取締役営業部長
委員	米重 義男	サツマ酸素工業(株)	メディカル事業部長
委員	諸喜田 隆	(株)オカノ	取締役

溶解アセチレン技術WG

WG長	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	小倉工場長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(九州駐在)
委員	田坂 友成	岩谷瓦斯(株)	北九州工場長
委員	三上 良宣	江藤酸素(株)	取締役部長
委員	嘉陽 宗治	(株)おきさん	取締役
委員	菊池 誠	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	小柳 直	西日本高圧瓦斯(株)	部長代理
委員	山本 正治	日本エア・リキード(株)	技術本部 カスタマー・エンジニアリング部 カスタマーサービス 九州グループ長

炭酸ガス技術WG

WG長	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 課長代理
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当(九州駐在)
委員	吉田 秀幸	エア・ウォーター炭酸(株)	福岡支店 課長
委員	嘉陽 宗治	(株)おきさん	取締役
委員	村田 眞信	昭和電工ガスプロダクツ(株)	九州支店 副主事
委員	前原 郁美	福岡酸素(株)	品質管理部次長

水素技術WG

WG長	折尾 美昭	岩谷瓦斯(株)	佐賀工場 工場長
委員	生原 一樹	伊藤忠工業ガス(株)	豊前工場 工場長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(九州駐在)
委員	田坂 文夫	昭和電工(株)	福岡支店 マネージャー
委員	入佐 浩司	新日鐵化学(株)	ガス部 マネージャー
委員	菊池 誠	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	山本 正治	日本エア・リキード(株)	技術本部 カスタマー・エンジニアリング部 カスタマーサービス九州グループ長
委員	小林 隆	福岡酸素(株)	代表取締役常務

販売・消費事業所点検活動WG

WG長	山本 正治	日本エア・リキード(株)	技術本部 カスタマー・エンジニアリング部 カスタマーサービス 九州グループ長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(九州駐在)
委員	山下 隆二	九州エア・ウォーター(株)	製造・技術部 係長
委員	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	小倉工場長
委員	栗田 英次	大陽日酸(株)	九州支社 技術部 技術課長
委員	山本 恭弘	西日本高圧瓦斯(株)	取締役生産・技術本部長

委員	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 課長代理
委員	福田 寛治	福岡酸素(株)	保安管理部 課長
委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役営業本部長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
委員	男澤 隆	(株)武田商事	製造部長
委員	楠村 芳樹	内村酸素(株)	有明事業所 課長
委員	野尻 裕二	江藤酸素(株)	保安課長代理
委員	浜砂 幸次	宮崎酸素(株)	営業課長
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	粟國 博史	(株)オカノ	中部営業所 ガス部 第1課 係長

保安講習会推進WG

WG長	山本 正治	日本エア・リキード(株)	技術本部 カスタマー・エンジニアリング部 カスタマーサービス 九州グループ長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(九州駐在)
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役技工ブロック長
委員	山下 隆二	九州エア・ウォーター(株)	製造・技術部 係長
委員	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	小倉工場長
委員	菊池 誠	太陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 課長代理
委員	古賀 道義	福岡酸素(株)	取締役ガスエンジニアリング部 部長
委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役営業本部長

注) 平成24年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

統計データ一覧

2007年～2011年 地区別酸素（一般）販売実績推移表	101
2007年～2011年 地区別窒素（一般）販売実績推移表	102
2007年～2011年 地区別アルゴン（一般）販売実績推移表	103
業種別酸素（一般）販売実績推移表（5年間：2007～2011年度）	104
業種別窒素（一般）販売実績推移表（5年間：2007～2011年度）	105
業種別アルゴン（一般）販売実績推移表（5年間：2007～2011年度）	106
2011年4月～2012年3月 地区別酸素生産・販売実績表	107
2011年4月～2012年3月 酸素生産量&一般販売実績推移グラフ	107
2011年4月～2012年3月 地区別窒素生産・販売実績表	108
2011年4月～2012年3月 窒素生産量&一般販売実績推移グラフ	108
2011年4月～2012年3月 地区別アルゴン生産・販売実績表	109
2011年4月～2012年3月 アルゴン生産量&一般販売実績推移グラフ	109
2007年度～2011年度 溶解アセチレン生産・販売実績表	110
2007年度～2011年度 液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表	110
2007年～2011年 主要半導体材料ガス等国内市場実績推移表	111
2007年～2011年 標準ガス国内販売実績推移表	112
2007年～2011年 圧縮水素出荷実績推移表	112

2007年～2011年 地区別酸素（一般）販売実績推移表

単位：千 m³

地区別	西暦 (暦年)	液化酸素	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2007	13,763	105%	7,933	101%	5,119	97%	26,815	102%
	2008	14,470	105%	9,396	118%	5,104	100%	28,970	108%
	2009	16,286	113%	9,416	100%	4,555	89%	30,257	104%
	2010	14,470	89%	11,028	117%	4,520	99%	30,018	99%
	2011	14,277	99%	8,320	75%	4,415	98%	27,012	90%
東北	2007	58,527	100%	71,992	100%	2,726	103%	133,245	100%
	2008	60,714	104%	70,654	98%	2,638	97%	134,006	101%
	2009	53,430	88%	56,924	81%	2,441	93%	112,795	84%
	2010	54,503	102%	90,331	159%	2,251	92%	147,085	130%
	2011	49,218	90%	54,093	60%	2,033	90%	105,344	72%
関東	2007	256,299	101%	393,295	103%	13,713	106%	663,307	102%
	2008	249,468	97%	371,320	94%	12,697	93%	633,485	96%
	2009	217,448	87%	289,076	78%	10,981	86%	517,505	82%
	2010	236,465	109%	283,970	98%	10,529	96%	530,964	103%
	2011	231,474	98%	256,548	90%	9,968	95%	497,990	94%
東海	2007	204,327	98%	220,350	97%	5,117	104%	429,794	97%
	2008	195,610	96%	195,861	89%	5,058	99%	396,529	92%
	2009	138,249	71%	134,793	69%	3,680	73%	276,722	70%
	2010	158,513	115%	182,949	136%	3,755	102%	345,217	125%
	2011	159,609	101%	187,330	102%	3,903	104%	350,842	102%
近畿	2007	276,077	120%	193,964	108%	6,998	99%	477,039	114%
	2008	290,967	105%	189,246	98%	6,815	97%	487,028	102%
	2009	211,127	73%	119,877	63%	5,894	86%	336,898	69%
	2010	261,597	124%	143,115	119%	6,136	104%	410,848	122%
	2011	254,300	97%	142,700	100%	5,716	93%	402,716	98%
中国	2007	93,973	106%	284,936	103%	4,341	103%	383,250	104%
	2008	96,254	102%	238,895	84%	4,282	99%	339,431	89%
	2009	84,573	88%	165,045	69%	3,442	80%	253,060	75%
	2010	87,434	103%	203,870	124%	3,249	94%	294,553	116%
	2011	76,428	87%	182,820	90%	3,200	98%	262,448	89%
四国	2007	40,373	91%	125	95%	2,566	99%	43,064	92%
	2008	40,523	100%	65	52%	2,608	102%	43,196	100%
	2009	33,595	83%	121	186%	2,274	87%	35,990	83%
	2010	28,077	84%	803	664%	1,986	87%	30,866	86%
	2011	33,715	120%	190	24%	2,059	104%	35,964	117%
九州	2007	119,054	104%	83,882	307%	3,045	101%	205,981	142%
	2008	111,681	94%	133,662	159%	2,972	98%	248,315	121%
	2009	89,878	80%	120,036	90%	2,266	76%	212,180	85%
	2010	87,624	97%	109,043	91%	1,888	83%	198,555	94%
	2011	90,350	103%	114,457	105%	1,820	96%	206,627	104%
合計	2007	1,062,393	105%	1,256,477	107%	43,625	102%	2,362,495	106%
	2008	1,059,687	100%	1,209,099	96%	42,174	97%	2,310,960	98%
	2009	844,586	80%	895,288	74%	35,533	84%	1,775,407	77%
	2010	928,683	110%	1,025,109	115%	34,314	97%	1,988,106	112%
	2011	909,371	98%	946,458	92%	33,114	97%	1,888,943	95%

2007年～2011年 地区別窒素（一般）販売実績推移表

単位：千 m³

地区別	西暦 (暦年)	液化窒素	対前年比	パイピング	対前年比	ポンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2007	37,581	96%	26,178	113%	1,040	95%	64,799	102%
	2008	33,755	90%	26,005	99%	960	92%	60,720	94%
	2009	33,708	100%	24,415	94%	1,020	106%	59,143	97%
	2010	34,906	104%	25,941	106%	1,028	101%	61,875	105%
	2011	36,159	104%	24,349	94%	995	97%	61,503	99%
東北	2007	225,124	100%	37,561	104%	1,406	103%	264,091	101%
	2008	216,655	96%	38,237	102%	1,423	101%	256,315	97%
	2009	173,485	81%	31,024	81%	1,206	85%	205,715	80%
	2010	185,974	107%	30,033	97%	1,286	107%	217,293	106%
	2011	162,812	88%	27,572	92%	1,233	96%	191,617	88%
関東	2007	890,171	103%	877,244	109%	13,035	101%	1,780,450	106%
	2008	893,708	100%	914,818	104%	12,580	97%	1,821,106	102%
	2009	760,589	85%	911,235	100%	8,658	69%	1,680,482	92%
	2010	836,197	110%	954,586	105%	6,424	74%	1,797,207	107%
	2011	805,457	96%	932,672	98%	6,400	100%	1,744,529	97%
東海	2007	521,484	106%	316,784	98%	3,302	110%	841,570	103%
	2008	478,273	92%	320,706	101%	3,213	97%	802,192	95%
	2009	434,241	91%	301,045	94%	1,905	59%	737,191	92%
	2010	518,452	119%	331,641	110%	1,886	99%	851,979	116%
	2011	521,493	101%	326,836	99%	2,087	111%	850,416	100%
近畿	2007	498,498	109%	278,111	100%	3,803	100%	780,412	105%
	2008	508,549	102%	306,882	110%	3,604	95%	819,035	105%
	2009	438,013	86%	300,499	98%	2,767	77%	741,279	91%
	2010	457,554	104%	302,523	101%	3,078	111%	763,155	103%
	2011	435,744	95%	329,769	109%	3,039	99%	768,552	101%
中国	2007	149,380	109%	565,223	105%	1,339	101%	715,942	106%
	2008	136,553	91%	582,156	103%	1,243	93%	719,952	101%
	2009	113,054	83%	540,846	93%	883	71%	654,783	91%
	2010	135,420	120%	543,989	101%	740	84%	680,149	104%
	2011	127,146	94%	517,791	95%	729	99%	645,666	95%
四国	2007	43,463	98%	56,711	129%	823	98%	100,997	113%
	2008	41,459	95%	62,747	111%	815	99%	105,021	104%
	2009	34,850	84%	40,768	65%	673	83%	76,291	73%
	2010	34,640	99%	52,317	128%	638	95%	87,595	115%
	2011	43,883	127%	61,670	118%	631	99%	106,184	121%
九州	2007	185,280	105%	47,018	228%	1,358	99%	233,656	118%
	2008	168,754	91%	123,539	263%	1,256	92%	293,549	126%
	2009	148,842	88%	116,711	94%	783	62%	266,336	91%
	2010	153,780	103%	117,884	101%	821	105%	272,485	102%
	2011	158,273	103%	117,585	100%	793	97%	276,651	102%
合計	2007	2,550,981	105%	2,204,830	107%	26,106	102%	4,781,917	106%
	2008	2,477,706	97%	2,375,090	108%	25,094	96%	4,877,890	102%
	2009	2,136,782	86%	2,266,543	95%	17,895	71%	4,421,220	91%
	2010	2,356,923	110%	2,358,914	104%	15,901	89%	4,731,738	107%
	2011	2,290,967	97%	2,338,244	99%	15,907	100%	4,645,118	98%

2007年～2011年 地区別アルゴン（一般）販売実績推移表

単位：千 m³

地区別	西暦 (暦年)	液化アルゴン	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2007	2,427	96%	0	—	816	122%	3,243	102%
	2008	2,426	100%	0	—	698	86%	3,124	96%
	2009	1,664	69%	0	—	535	77%	2,199	70%
	2010	2,640	159%	0	—	589	110%	3,229	147%
	2011	2,690	102%	0	—	500	85%	3,190	99%
東北	2007	31,675	114%	0	—	885	109%	32,560	114%
	2008	33,832	107%	0	—	777	88%	34,609	106%
	2009	23,748	70%	0	—	710	91%	24,458	71%
	2010	30,261	127%	0	—	728	103%	30,989	127%
	2011	23,676	78%	0	—	645	89%	24,321	78%
関東	2007	61,253	108%	0	—	4,061	101%	65,314	107%
	2008	59,692	97%	0	—	3,863	95%	63,555	97%
	2009	44,363	74%	0	—	2,695	70%	47,058	74%
	2010	53,358	120%	0	—	2,537	94%	55,895	119%
	2011	48,179	90%	0	—	2,319	91%	50,498	90%
東海	2007	60,476	100%	0	—	1,738	95%	62,214	100%
	2008	57,613	95%	0	—	1,699	98%	59,312	95%
	2009	43,606	76%	0	—	1,243	73%	44,849	76%
	2010	50,147	115%	0	—	1,087	87%	51,234	114%
	2011	48,053	96%	0	—	1,189	109%	49,242	96%
近畿	2007	42,223	98%	0	—	2,348	97%	44,571	98%
	2008	43,104	102%	0	—	2,292	98%	45,396	102%
	2009	33,558	78%	0	—	1,654	72%	35,212	78%
	2010	39,262	117%	0	—	1,586	96%	40,848	116%
	2011	39,671	101%	0	—	1,666	105%	41,337	101%
中国	2007	13,711	112%	0	—	1,549	102%	15,260	111%
	2008	12,961	95%	0	—	1,524	98%	14,485	95%
	2009	10,772	83%	0	—	983	65%	11,755	81%
	2010	12,692	118%	0	—	763	78%	13,455	114%
	2011	11,768	93%	0	—	751	98%	12,519	93%
四国	2007	4,087	112%	0	—	706	90%	4,793	108%
	2008	4,965	121%	0	—	712	101%	5,677	118%
	2009	4,590	92%	0	—	517	73%	5,107	90%
	2010	4,006	87%	0	—	474	92%	4,480	88%
	2011	4,350	109%	0	—	451	95%	4,801	107%
九州	2007	21,663	101%	0	—	1,429	99%	23,092	101%
	2008	22,878	106%	0	—	1,402	98%	24,280	105%
	2009	17,687	77%	0	—	893	64%	18,580	77%
	2010	21,071	119%	0	—	744	83%	21,815	117%
	2011	22,186	105%	0	—	719	97%	22,905	105%
合計	2007	237,515	104%	0	—	13,532	100%	251,047	104%
	2008	237,471	100%	0	—	12,967	96%	250,438	100%
	2009	179,988	76%	0	—	9,230	71%	189,218	76%
	2010	213,437	119%	0	—	8,508	92%	221,945	117%
	2011	200,573	94%	0	—	8,240	97%	208,813	94%

業種別酸素（一般）販売実績推移表 (5年間：2007～2011年度)

単位：千m³

業種別	西暦 (年度)	液化酸素	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合計	構成比
鉄鋼業 (非鉄金属製造業を含む)	2007	188,932	17%	480,549	39%	3,022	8%	672,503	28%
	2008	169,796	17%	393,465	38%	2,673	8%	565,934	28%
	2009	150,043	17%	315,030	33%	2,170	7%	467,243	25%
	2010	175,251	19%	395,389	39%	1,774	6%	572,414	30%
	2011	151,667	18%	375,008	40%	1,718	6%	528,393	29%
輸送用機械器具製造業	2007	72,180	7%	0	0%	852	2%	73,032	3%
	2008	68,030	7%	0	0%	940	3%	68,970	3%
	2009	63,092	7%	0	0%	655	2%	63,747	3%
	2010	61,002	7%	0	0%	515	2%	61,517	3%
	2011	57,590	7%	0	0%	514	2%	58,104	3%
機械器具製造業 (輸送用機械器具製造業を除く)	2007	88,066	8%	0	0%	891	2%	88,957	4%
	2008	82,880	8%	0	0%	864	2%	83,744	4%
	2009	78,412	9%	0	0%	633	2%	79,045	4%
	2010	81,693	9%	0	0%	560	2%	82,253	4%
	2011	81,015	9%	0	0%	510	2%	81,525	5%
金属製品製造業	2007	66,776	6%	19,153	2%	1,584	4%	87,513	4%
	2008	57,016	6%	31,263	3%	1,851	5%	90,130	4%
	2009	52,857	6%	25,626	3%	1,420	5%	79,903	4%
	2010	50,467	6%	26,714	3%	733	3%	77,914	4%
	2011	71,844	8%	24,745	3%	795	3%	97,384	5%
化学工業	2007	58,192	5%	644,725	52%	740	2%	703,657	30%
	2008	48,991	5%	550,826	54%	664	2%	600,481	29%
	2009	46,004	5%	537,680	57%	567	2%	584,251	32%
	2010	63,337	7%	504,108	50%	507	2%	567,952	29%
	2011	62,383	7%	457,331	49%	437	2%	520,151	29%
販売業者向け	2007	253,272	23%	3,297	0%	21,852	59%	278,421	12%
	2008	229,001	23%	3,283	0%	19,777	57%	252,061	12%
	2009	179,053	21%	2,858	0%	16,657	56%	198,568	11%
	2010	167,697	19%	906	0%	16,833	59%	185,436	10%
	2011	140,646	16%	0	0%	16,388	60%	157,034	9%
その他	2007	367,804	34%	90,435	7%	8,392	22%	466,631	20%
	2008	341,877	34%	45,651	4%	7,919	23%	395,447	19%
	2009	303,634	35%	61,855	7%	7,509	25%	372,998	20%
	2010	300,897	33%	84,334	8%	7,488	26%	392,719	20%
	2011	288,896	34%	72,149	8%	6,971	26%	368,016	20%
合計	2007	1,095,222	103%	1,238,159	105%	37,333	100%	2,370,714	104%
	2008	997,591	91%	1,024,488	83%	34,688	93%	2,056,767	87%
	2009	873,095	88%	943,049	92%	29,611	85%	1,845,755	90%
	2010	900,344	103%	1,011,451	107%	28,410	96%	1,940,205	105%
	2011	854,041	95%	929,233	92%	27,333	96%	1,810,607	93%

* 合計欄の構成比は対前年度比

業種別窒素（一般）販売実績推移表 (5年間：2007～2011年度)

単位：千m³

業種別	西暦 (年度)	液化窒素	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合計	構成比
鉄鋼業 (非鉄金属製造業を含む)	2007	134,215	5%	201,072	9%	686	3%	335,973	7%
	2008	119,935	5%	189,373	8%	798	3%	310,106	7%
	2009	137,707	6%	185,571	8%	524	3%	323,802	7%
	2010	142,881	6%	207,040	9%	374	3%	350,295	8%
	2011	132,137	6%	163,814	7%	406	3%	296,357	7%
輸送用機械器具製造業	2007	175,022	7%	10,219	0%	720	3%	185,961	4%
	2008	163,506	7%	10,226	0%	925	4%	174,657	4%
	2009	149,131	7%	42,906	2%	549	3%	192,586	4%
	2010	149,945	6%	10,822	0%	403	3%	161,170	3%
	2011	148,610	7%	10,705	0%	451	3%	159,766	4%
電気機械器具製造業	2007	830,849	32%	439,598	20%	1,848	8%	1,272,295	26%
	2008	655,418	28%	423,765	19%	3,105	12%	1,082,288	24%
	2009	678,896	30%	386,247	17%	2,261	14%	1,067,404	24%
	2010	691,489	30%	439,748	19%	1,810	13%	1,133,047	24%
	2011	667,039	30%	398,906	18%	1,888	13%	1,067,833	24%
機械器具製造業 (輸送用、電気機械器具製造業を除く)	2007	128,180	5%	856	0%	2,130	9%	131,166	3%
	2008	158,924	7%	857	0%	1,883	8%	161,664	4%
	2009	111,251	5%	812	0%	787	5%	112,850	3%
	2010	127,612	6%	843	0%	642	4%	129,097	3%
	2011	124,444	6%	745	0%	714	5%	125,903	3%
化学工業	2007	411,272	16%	1,286,295	58%	1,546	6%	1,699,113	35%
	2008	360,791	16%	1,354,138	61%	1,508	6%	1,716,437	37%
	2009	382,899	17%	1,367,532	61%	1,175	7%	1,751,606	39%
	2010	406,083	18%	1,426,364	61%	1,175	8%	1,833,622	39%
	2011	436,911	20%	1,417,466	63%	1,111	8%	1,855,488	41%
食品製造業	2007	144,051	6%	0	0%	522	2%	144,573	3%
	2008	133,590	6%	0	0%	602	2%	134,192	3%
	2009	135,501	6%	0	0%	286	2%	135,787	3%
	2010	144,304	6%	0	0%	216	2%	144,520	3%
	2011	136,900	6%	0	0%	225	2%	137,125	3%
販売業者向け	2007	328,398	13%	112,903	5%	12,850	52%	454,151	9%
	2008	296,640	13%	111,950	5%	12,304	49%	420,894	9%
	2009	287,941	13%	109,616	5%	8,320	50%	405,877	9%
	2010	238,494	10%	104,661	4%	7,362	51%	350,517	8%
	2011	199,033	9%	108,734	5%	7,449	51%	315,216	7%
その他	2007	453,270	17%	177,905	8%	4,232	17%	635,407	13%
	2008	436,835	19%	147,025	7%	3,830	15%	587,690	13%
	2009	366,259	16%	146,106	7%	2,641	16%	515,006	11%
	2010	413,348	18%	148,118	6%	2,344	16%	563,810	12%
	2011	382,063	17%	160,160	7%	2,291	16%	544,514	12%
合計	2007	2,605,257	101%	2,228,848	106%	24,534	102%	4,858,639	103%
	2008	2,325,639	89%	2,237,334	100%	24,955	102%	4,587,928	94%
	2009	2,249,585	97%	2,238,790	100%	16,543	66%	4,504,918	98%
	2010	2,314,156	103%	2,337,596	104%	14,326	87%	4,666,078	104%
	2011	2,227,137	96%	2,260,530	97%	14,535	101%	4,502,202	96%

* 合計欄の構成比は対前年度比

業種別アルゴン（一般）販売実績推移表 (5年間：2007～2011年度)

単位：千 m³

業 種 別	西暦 (年度)	液アルゴン	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合 計	構成比
鉄 鋼 業 (非鉄金属製造業を含む)	2007	56,183	23%	0	0%	1,640	14%	57,823	23%
	2008	50,392	24%	0	0%	1,429	13%	51,821	23%
	2009	53,022	27%	0	0%	1,198	16%	54,220	27%
	2010	56,429	27%	0	0%	1,140	16%	57,569	27%
	2011	57,678	30%	0	0%	1,097	16%	58,775	30%
輸送用機械器具製造業	2007	30,417	13%	0	0%	1,231	10%	31,648	13%
	2008	23,234	11%	0	0%	1,125	11%	24,359	11%
	2009	21,055	11%	0	0%	570	8%	21,625	11%
	2010	22,460	11%	0	0%	464	7%	22,924	11%
	2011	21,451	11%	0	0%	451	7%	21,902	11%
電気機械器具製造業	2007	50,305	21%	0	0%	548	5%	50,853	20%
	2008	41,428	20%	0	0%	472	4%	41,900	19%
	2009	40,424	21%	0	0%	363	5%	40,787	20%
	2010	44,427	22%	0	0%	389	5%	44,816	21%
	2011	35,445	19%	0	0%	383	6%	35,828	18%
機械器具製造業 (輸送用、電気機械器具製造業を除く)	2007	12,630	5%	0	0%	831	7%	13,461	5%
	2008	13,451	6%	0	0%	788	7%	14,239	6%
	2009	10,087	5%	0	0%	518	7%	10,605	5%
	2010	10,775	5%	0	0%	492	7%	11,267	5%
	2011	11,346	6%	0	0%	491	7%	11,837	6%
金属製品製造業	2007	9,828	4%	0	0%	989	8%	10,817	4%
	2008	8,550	4%	0	0%	936	9%	9,486	4%
	2009	8,039	4%	0	0%	519	7%	8,558	4%
	2010	9,806	5%	0	0%	456	6%	10,262	5%
	2011	11,938	6%	0	0%	439	6%	12,377	6%
化学工業	2007	6,528	3%	0	0%	301	3%	6,829	3%
	2008	5,249	2%	0	0%	271	3%	5,520	2%
	2009	5,387	3%	0	0%	204	3%	5,591	3%
	2010	5,726	3%	0	0%	182	3%	5,908	3%
	2011	5,975	3%	0	0%	183	3%	6,158	3%
販売業者向け	2007	44,852	19%	0	0%	5,318	45%	50,170	20%
	2008	42,114	20%	0	0%	4,844	45%	46,958	21%
	2009	38,166	19%	0	0%	3,661	49%	41,827	20%
	2010	37,923	18%	0	0%	3,561	50%	41,484	19%
	2011	29,383	15%	0	0%	3,389	49%	32,772	17%
そ の 他	2007	30,148	13%	0	0%	974	8%	31,122	12%
	2008	27,825	13%	0	0%	825	8%	28,650	13%
	2009	20,892	11%	0	0%	493	7%	21,385	10%
	2010	19,000	9%	0	0%	440	6%	19,440	9%
	2011	18,323	10%	0	0%	476	7%	18,799	9%
合 計	2007	240,891	103%	0	-	11,832	103%	252,723	103%
	2008	212,243	88%	0	-	10,690	90%	222,933	88%
	2009	197,072	93%	0	-	7,526	70%	204,598	92%
	2010	206,546	105%	0	-	7,124	95%	213,670	104%
	2011	191,539	93%	0	-	6,909	97%	198,448	93%

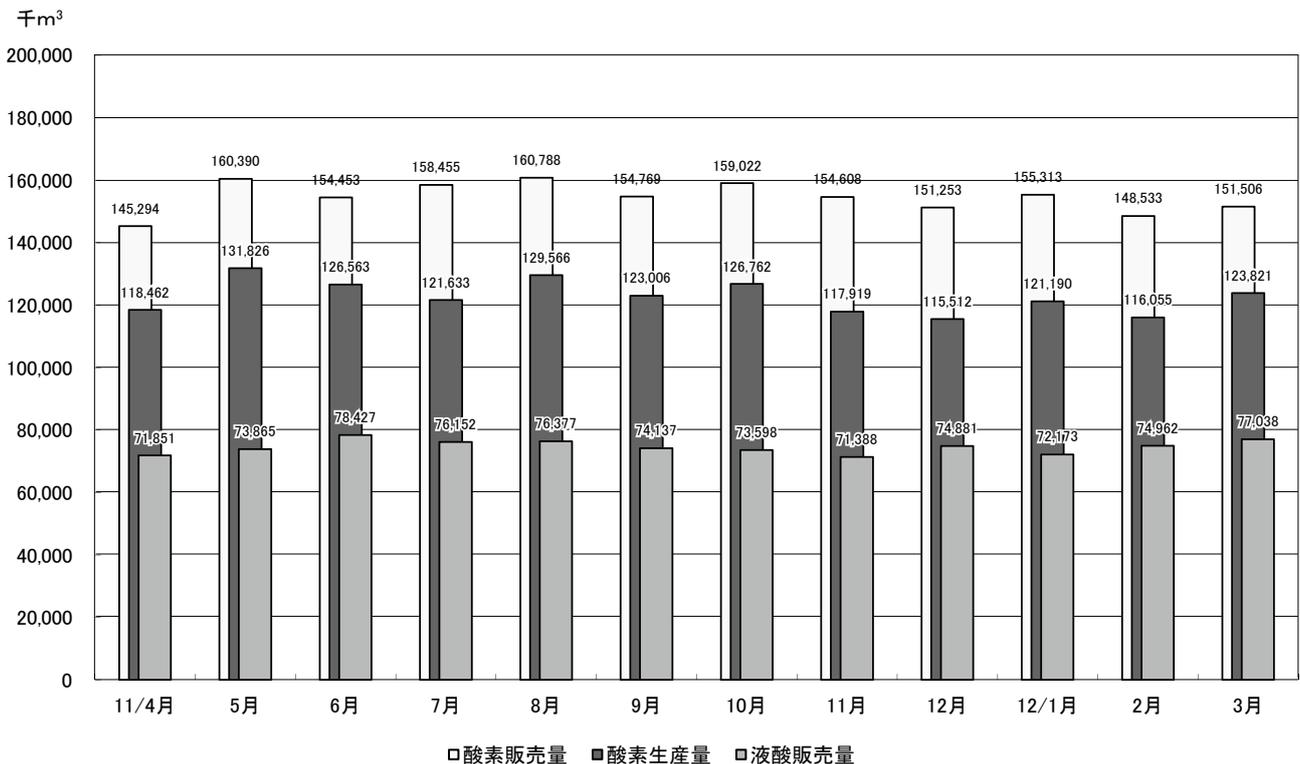
* 合計欄の構成比は対前年度比

2011年4月～2012年3月 地区別酸素生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		11/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	12/1月	2月	3月
北海道	生産	1,472	1,048	1,349	1,338	1,008	1,201	1,310	1,307	1,460	1,399	1,443	1,531
	販売	2,214	2,040	2,263	2,178	1,996	2,091	2,207	2,296	2,408	2,220	2,337	2,403
東北	生産	1,581	2,225	2,503	2,253	2,645	2,804	2,729	2,528	2,662	5,097	5,363	4,952
	販売	2,997	5,209	7,062	7,532	9,225	10,525	10,533	11,315	11,147	11,133	10,958	11,206
関東	生産	34,458	41,233	33,240	36,539	39,733	37,178	40,069	40,721	35,144	39,302	37,728	40,897
	販売	38,355	44,492	36,835	39,799	44,259	41,637	45,066	46,610	39,755	44,665	41,737	46,035
東海	生産	18,159	22,797	25,276	23,903	24,325	25,513	26,019	26,234	25,604	23,612	22,631	20,652
	販売	23,999	28,005	29,687	28,564	28,870	29,441	30,369	30,939	30,044	28,506	29,494	26,299
近畿	生産	27,907	29,050	28,518	21,261	27,360	24,110	24,319	22,507	23,322	24,171	22,088	29,970
	販売	33,786	35,684	34,896	33,356	32,897	31,615	31,092	29,177	32,930	33,502	34,709	33,799
中国	生産	17,840	17,910	18,758	19,766	18,627	15,947	16,584	12,707	12,023	11,815	13,679	12,500
	販売	23,501	24,685	24,027	24,385	22,552	19,494	20,233	15,735	15,022	15,541	13,353	14,969
四国	生産	1,172	1,749	1,661	1,726	1,375	1,541	1,429	910	1,533	1,609	1,556	1,494
	販売	3,540	3,205	3,294	3,079	3,099	2,891	2,912	2,992	3,110	2,992	3,128	3,259
九州	生産	15,873	15,814	15,258	14,847	14,493	14,712	14,303	11,005	13,764	14,185	11,567	11,825
	販売	16,902	17,070	16,389	19,562	17,890	17,075	16,610	15,544	16,837	16,754	12,817	13,536
合計	生産	118,462	131,826	126,563	121,633	129,566	123,006	126,762	117,919	115,512	121,190	116,055	123,821
	販売	145,294	160,390	154,453	158,455	160,788	154,769	159,022	154,608	151,253	155,313	148,533	151,506

2011年4月～2012年3月 酸素生産量 & 一般販売実績推移グラフ

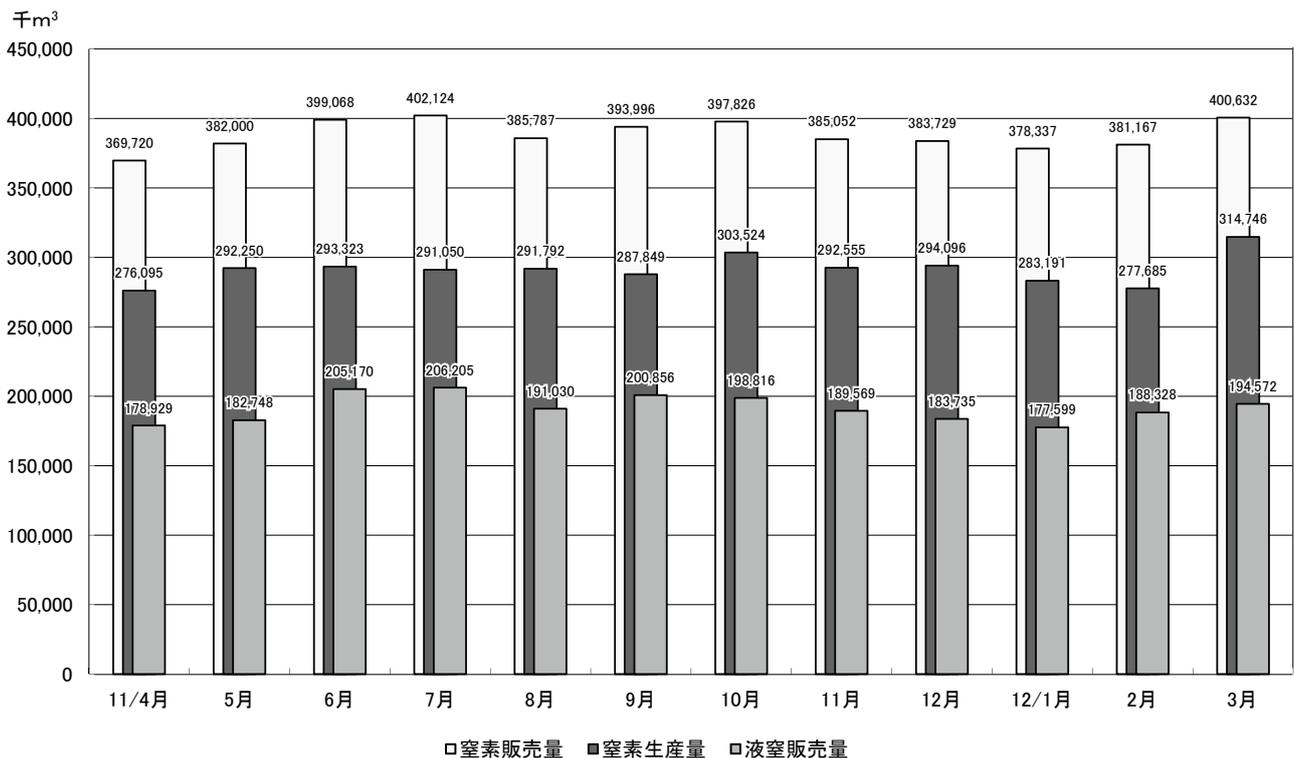


2011年4月～2012年3月 地区別窒素生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		11/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	12/1月	2月	3月
北海道	生産	3,406	3,597	3,347	3,479	4,749	4,305	3,710	2,729	2,689	3,557	3,096	3,556
	販売	4,623	5,424	5,143	5,070	6,704	6,870	5,362	4,362	4,279	4,620	4,255	4,681
東北	生産	5,316	6,661	6,946	6,969	7,925	8,999	8,290	8,082	8,177	10,360	12,240	11,691
	販売	11,690	15,536	17,242	17,257	15,459	16,458	17,783	18,332	17,031	16,946	17,899	18,194
関東	生産	126,476	138,927	132,721	136,169	135,632	131,145	137,691	138,486	135,620	131,848	130,882	141,804
	販売	138,595	146,570	151,122	149,098	143,501	143,375	148,018	145,625	143,279	143,969	140,648	151,739
東海	生産	35,872	34,437	41,876	44,621	40,649	43,842	45,046	42,647	42,395	37,960	33,423	33,355
	販売	67,370	63,812	70,921	73,549	69,947	74,665	74,959	72,815	71,676	68,274	68,659	74,431
近畿	生産	44,018	45,504	46,735	40,237	44,306	40,824	46,737	44,873	44,479	41,254	40,239	61,165
	販売	63,626	63,481	67,367	70,320	64,209	66,863	65,380	61,373	62,344	62,965	68,421	63,677
中国	生産	32,763	32,850	31,037	30,718	29,431	30,128	30,996	30,820	31,190	30,295	30,524	32,913
	販売	53,051	55,241	54,508	54,004	52,770	54,762	54,443	51,376	52,039	50,972	50,903	55,269
四国	生産	7,198	8,116	7,737	8,053	7,612	7,766	7,670	7,144	8,461	7,712	6,663	6,629
	販売	9,194	8,925	9,168	8,881	8,772	8,577	8,968	8,921	10,226	8,765	7,462	7,545
九州	生産	21,046	22,158	22,924	20,804	21,488	20,840	23,384	17,774	21,085	20,205	20,618	23,633
	販売	21,571	23,011	23,597	23,945	24,425	22,426	22,913	22,248	22,855	21,826	22,920	25,096
合計	生産	276,095	292,250	293,323	291,050	291,792	287,849	303,524	292,555	294,096	283,191	277,685	314,746
	販売	369,720	382,000	399,068	402,124	385,787	393,996	397,826	385,052	383,729	378,337	381,167	400,632

2011年4月～2012年3月 窒素生産量 & 一般販売実績推移グラフ



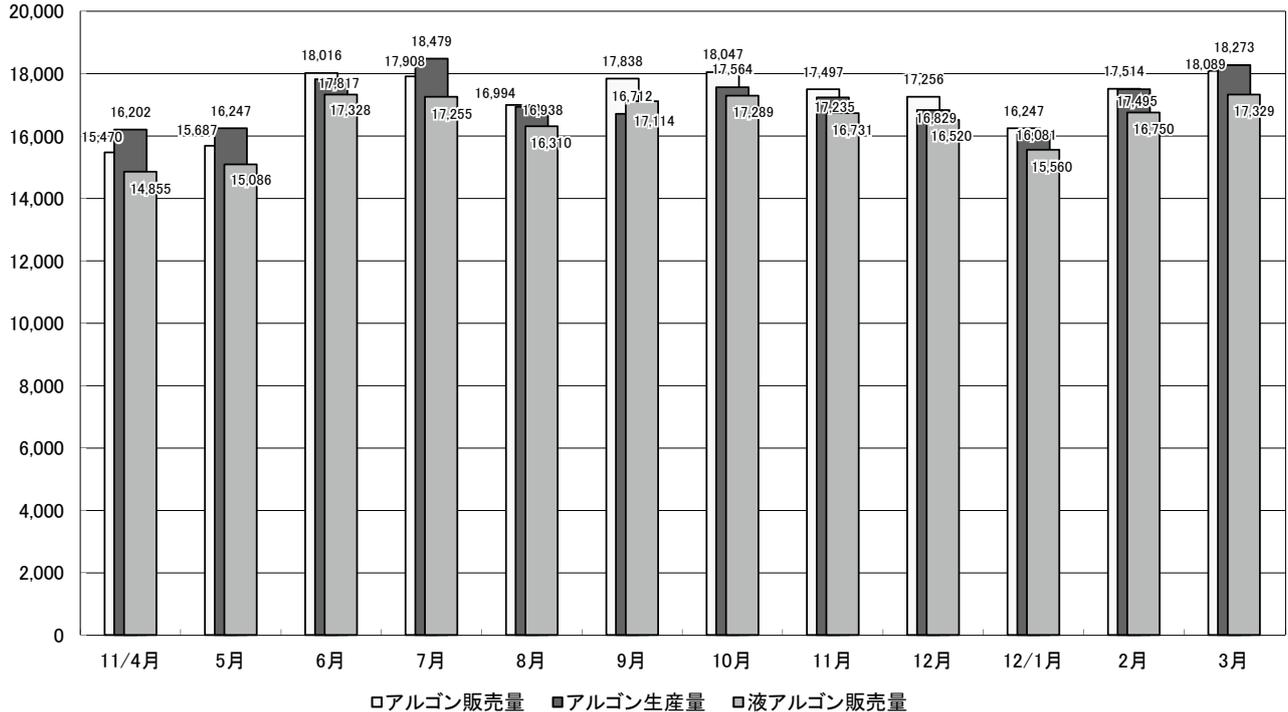
2011年4月～2012年3月 地区別アルゴン生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		11/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	12/1月	2月	3月
北海道	生産	284	280	269	304	305	303	338	291	307	305	288	298
	販売	267	239	238	275	268	272	291	261	279	266	265	265
東北	生産	35	52	113	110	156	208	192	202	197	253	294	262
	販売	818	1,669	2,352	2,552	2,316	2,265	2,191	2,153	1,743	1,842	1,869	1,923
関東	生産	4,216	4,749	5,002	5,346	5,143	5,008	5,344	5,083	4,753	4,668	4,978	5,082
	販売	3,673	4,022	4,439	4,243	4,083	4,260	4,448	4,189	4,290	4,012	4,484	4,550
東海	生産	3,631	4,068	4,452	4,555	3,908	3,896	3,846	3,998	3,945	3,773	4,332	4,302
	販売	3,663	3,563	4,192	4,154	3,905	4,234	4,341	4,348	4,354	4,011	4,323	4,438
近畿	生産	4,059	3,440	3,966	4,023	3,912	3,643	3,879	3,982	3,938	3,815	3,991	4,376
	販売	3,511	3,142	3,430	3,458	3,300	3,424	3,409	3,385	3,438	3,142	3,459	3,581
中国	生産	2,397	2,258	2,283	2,726	2,108	2,226	2,533	2,433	2,327	1,929	2,317	2,566
	販売	1,056	844	1,042	1,028	938	1,069	1,099	1,040	1,071	1,029	1,080	1,109
四国	生産	148	131	181	169	137	180	148	49	169	164	149	161
	販売	374	298	356	370	368	423	486	434	471	378	421	493
九州	生産	1,432	1,269	1,551	1,246	1,269	1,248	1,284	1,197	1,193	1,174	1,146	1,226
	販売	2,108	1,910	1,967	1,828	1,816	1,891	1,782	1,687	1,610	1,567	1,613	1,730
合計	生産	16,202	16,247	17,817	18,479	16,938	16,712	17,564	17,235	16,829	16,081	17,495	18,273
	販売	15,470	15,687	18,016	17,908	16,994	17,838	18,047	17,497	17,256	16,247	17,514	18,089

2011年4月～2012年3月 アルゴン生産量 & 一般販売実績推移グラフ

千m³



2007年度～2011年度 溶解アセチレン生産・販売実績表

単位：t

地区別		2007年度		2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
		数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
北海道	生産	856	98.6%	779	91.0%	688	88.3%	633	92.0%	634	100.2%
	販売	873	96.9%	787	90.1%	726	92.2%	592	81.5%	593	100.2%
東北	生産	851	92.3%	857	100.7%	721	84.1%	678	94.0%	687	101.3%
	販売	480	91.6%	423	88.1%	372	87.9%	367	98.7%	412	112.3%
関東	生産	4,583	95.6%	4,141	90.4%	3,396	82.0%	3,485	102.6%	3,638	104.4%
	販売	5,446	93.5%	5,008	92.0%	4,048	80.8%	4,086	100.9%	4,083	99.9%
北陸	生産	1,011	98.3%	724	71.6%	619	85.5%	619	100.0%	644	104.0%
	販売	508	97.9%	448	88.2%	394	87.9%	407	103.3%	412	101.2%
東海	生産	2,176	96.7%	1,934	88.9%	1,587	82.1%	1,544	97.3%	1,505	97.5%
	販売	2,375	96.7%	2,132	89.8%	1,729	81.1%	1,691	97.8%	1,663	98.3%
近畿	生産	2,493	98.7%	2,305	92.5%	1,877	81.4%	1,875	99.9%	1,879	100.2%
	販売	3,226	99.4%	2,901	89.9%	2,381	82.1%	2,371	99.6%	2,357	99.4%
中国	生産	1,802	100.1%	1,711	95.0%	1,502	87.8%	1,489	99.1%	1,509	101.3%
	販売	1,897	99.7%	1,735	91.5%	1,484	85.5%	1,493	100.6%	1,449	97.1%
四国	生産	382	88.4%	353	92.4%	279	79.0%	273	97.8%	262	96.0%
	販売	911	100.4%	833	91.4%	692	83.1%	664	96.0%	613	92.3%
九州	生産	1,390	100.1%	1,271	91.4%	1,147	90.2%	1,154	100.6%	1,066	92.4%
	販売	1,858	101.1%	1,744	93.9%	1,403	80.4%	1,405	100.1%	1,561	111.1%
合計	生産	15,544	97.1%	14,075	90.5%	11,816	84.0%	11,750	99.4%	11,824	100.6%
	販売	17,574	97.0%	16,011	91.1%	13,229	82.6%	13,076	98.8%	13,143	100.5%

2007年度～2011年度 液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表

単位：t

年度	工場出荷量	前年比	用途別販売実績割合					
			溶接用	飲料用	冷却用	製鋼用	化学用	その他
2007年度	811,342	100%	49%	13%	16%	6%	7%	9%
2008年度	767,239	95%	52%	14%	16%	5%	6%	7%
2009年度	688,133	90%	50%	15%	13%	6%	9%	8%
2010年度	700,239	102%	51%	14%	12%	6%	10%	6%
2011年度	716,244	102%	50%	15%	10%	6%	13%	6%

2007年～2011年 主要半導体材料ガス等国内市場実績推移表

番号	ガス名称	化学記号	2007年		2008年		2009年		2010年		2011年	
			需要量	前年比								
1	アルシン	AsH ₃	20,200	100%	21,400	106%	15,600	73%	20,600	132%	16,400	80%
2	ジボラン	B ₂ H ₆	630	100%	590	94%	430	73%	480	112%	540	113%
3	三塩化ホウ素	BCl ₃	92,000	100%	98,000	107%	101,100	103%	123,600	122%	120,700	98%
4	四フッ化炭素	CF ₄	494,000	104%	489,000	99%	357,500	73%	475,900	133%	494,900	104%
5	三フッ化メタン	CHF ₃	73,800	109%	85,200	115%	73,400	86%	86,100	117%	79,800	93%
6	六フッ化エタン	C ₂ F ₆	390,000	86%	343,300	88%	206,500	60%	247,900	120%	227,300	92%
7	八フッ化シクロブタン	C ₄ F ₈	27,000	108%	29,000	107%	40,700	140%	43,700	107%	48,200	110%
8	塩素	Cl ₂	185,000	112%	203,000	110%	172,900	85%	247,300	143%	347,800	141%
9	ゲルマン	GeH ₄	110	110%	120	109%	110	92%	110	100%	240	218%
10	臭化水素	HBr	72,200	118%	83,000	115%	74,900	90%	94,300	126%	106,700	113%
11	アンモニア	NH ₃	1,132,000	110%	1,168,000	103%	979,400	84%	1,589,600	162%	2,488,200	157%
12	三フッ化窒素	NF ₃	1,168,000	132%	1,423,000	122%	1,232,600	87%	1,658,200	135%	1,637,600	99%
13	一酸化二窒素	N ₂ O	610,000	112%	580,000	95%	490,700	85%	603,400	123%	593,400	98%
14	ホスフィン	PH ₃	18,400	102%	17,700	96%	11,700	66%	15,800	135%	12,400	78%
15	モノシラン	SiH ₄	349,000	109%	407,000	117%	430,300	106%	547,500	127%	541,900	99%
16	ジシラン	Si ₂ H ₆	500	100%	500	100%	550	110%	580	105%	*1	
17	ジクロロシラン	SiH ₂ Cl ₂	144,000	115%	155,000	108%	130,000	84%	160,000	123%	172,900	108%
18	四フッ化ケイ素	SiF ₄	6,000	100%	6,000	100%	6,000	100%	5,700	95%	5,700	100%
19	TEOS	(C ₂ H ₅ O) ₄ Si	342,000	167%	378,000	111%	390,600	103%	424,500	109%	407,700	96%
20	六フッ化硫黄	SF ₆	197,000	103%	207,000	105%	186,300	90%	267,400	144%	267,400	100%
21	六フッ化タンダステン	WF ₆	78,000	115%	86,000	110%	90,000	105%	108,000	120%	103,000	95%
22	有機金属		1,500	100%	1,750	117%	1,610	92%	2,500	153%	2,800	112%
23	その他ガス	H ₂ Se BF ₃ 、Si ₂ H ₆ SiHCl ₃ 等										
年間需要金額 (単位：億円)			515	108%	552	117%	497	90%	603	121%	612	101%

(注) *1 ジシラン：2011年よりその他ガス欄に移行

2007年～2011年 標準ガス国内販売実績推移表

単位：本

品 目	2007年		2008年		2009年		2010年		2011年	
	本数	前年比								
一酸化炭素 (CO) 標準ガス	15,800	98%	14,000	89%	12,500	89%	12,800	102%	12,800	100%
二酸化炭素 (CO ₂) 標準ガス	10,900	100%	10,400	95%	9,200	88%	11,000	120%	10,100	92%
二酸化硫黄 (SO ₂) 標準ガス	6,900	101%	7,000	101%	7,000	100%	6,700	96%	6,700	100%
一酸化窒素 (NO) 標準ガス	18,100	103%	18,400	102%	18,000	98%	17,600	98%	18,000	102%
酸素 (O ₂) 標準ガス	15,800	104%	15,900	101%	14,900	94%	14,900	100%	14,600	98%
炭化水素 (HC) 標準ガス	12,100	103%	11,600	96%	10,800	93%	11,700	108%	11,500	98%
その他 標準ガス	55,100	98%	52,800	96%	44,000	83%	49,400	112%	48,400	98%
標準ガス合計	134,700	100%	130,100	97%	116,400	89%	124,100	107%	122,100	98%
ゼロガス	5,800	105%	6,200	107%	5,800	94%	6,000	103%	6,500	108%
標準ガス、ゼロガス合計	140,500	100%	136,300	97%	122,200	90%	130,100	106%	128,600	99%
金額	36億円	100%	35億円	97%	32億円	90%	34億円	106%	33億円	98%

2007年～2011年 圧縮水素出荷実績推移表

単位：千m³

分 野	2007年		2008年		2009年		2010年		2011年	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
弱 電	54,359	106%	52,204	96%	41,699	80%	50,207	120%	40,413	80%
化 学	22,732	83%	21,758	96%	16,483	76%	18,399	112%	16,032	87%
金 属	41,232	95%	38,941	94%	24,110	62%	27,003	112%	25,384	94%
硝 子	16,025	86%	14,225	89%	13,347	94%	15,898	119%	14,987	94%
その他	15,036	96%	15,155	101%	14,978	99%	19,363	129%	20,700	107%
合 計	149,384	96%	142,283	95%	110,617	78%	130,869	118%	117,516	90%

編集後記

○電力にかかわる問題は昨年の3.11以降、当協会会員、当業界を取り巻く大きな課題の一つであり、当協会でも継続的に取り上げております。計画停電、節電、年が変わり東京電力の料金値上げ、再生エネルギー全量買取り制度、エネルギーと環境に関する選択肢（いわゆる原発比率問題）、原発再稼働、と立て続けに大きな問題が起こっております。これらへの取組みにおきまして会員会社、協会幹部におかれましては、多大なご協力、ご支援を頂きましたことをこの紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。当協会においても会長の陣頭指揮の下、その都度関係官庁、関係者との交渉や外部発信をして参りました。特に東京電力の料金値上げにつきましては、冒頭に掲載の当協会会長の総会での挨拶にもありますように、会長はこの2月から他者、他業界に先駆け「1kWの電力も生み出していない設備について、コストに折り込むことは、会計原則や公正な処理基準に照らしても否定されるべき」、「稼働の見込めない原子力の設備に関するコストを原価から外すべき」ということを継続的に終始一貫して要請して参りました。8月の東電の料金の修正案ではこの点について、満足は行きませんが一部盛り込まれております。早い段階でこの要請を出された会長に対し、身内ですが卓見であると敬意を表したいと思っています。引続き電力、エネルギー問題は電力集約型産業であります我々にとって重大な課題でありますので、会員の皆様方

ご協力、ご支援を得て鋭意取組んで参る所存であります。

○当協会の幹部の方々をより身近に感じて頂きたいということで、今回本部及び地域本部の役員の方々の顔写真を掲載させて頂いております。また従来委員会のメンバーの氏名のみ掲載しておりましたが、今回から委員会のみならずワーキング・グループについてもメンバー、氏名を掲載させて頂いております。従来から申し上げておりますように、沢山の方々に手弁当で活動を支えて頂いておりますので、その実態をお分かり頂きたいということで掲載いたしました。その数は産業ガス部門・本部だけで延べ約380名に上ります。写真及びメンバー掲載が当協会の活動の「見える化」に少しでも繋がればと考えております。

○昭和電工(株)岩崎取締役(当協会副会長)にエッセイ寄稿をお願いしましたところ、ご多忙中ながら快くお引き受け頂きありがとうございました。大変アカデミックな内容であり、とても興味深く読ませて頂きました。大同窓会の記述のところでは、非常に楽しそうであり、また校歌を見ないで歌えたという部分を含め、ほぼ同年代の一人として「同感、同感」とニヤニヤしながら読ませて頂きました。改めて執筆のお礼を申し上げます。

(2012.8末 K.T記)



会誌「産業ガスレポート」 Vol.27 (2012年秋号)

発行所：一般社団法人 日本産業・医療ガス協会
編集発行人：豊澤幸平

〒108-0014 東京都港区芝 5丁目 30番 9号 藤ビル6階
TEL : 03-5427-6020 FAX : 03-5427-0020
URL : <http://www.jimga.or.jp>

2012年9月発行